

科目名	文学		
-----	----	--	--

履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉 弘美	科目副担当	0

目標	総合	多くの文学作品に触れ、鑑賞することを通して人生をより豊かに生きる一助とする
	行動	①各回の授業における様々な文章を読解し、文章力を養うための国語学習の基礎を確認する。②生きた言葉や地域の言葉を学習し、コミュニケーション力を高め、表現を楽しむことができる。

講義計画	第1回	ガイダンス・生物の共通性 ～細胞・DNA・ATP・恒常性～
	第2回	漢字と語彙①
	第3回	句読点・接続表現 練習問題
	第4回	接続表現 練習問題・語句練習
	第5回	漢字と語彙②
	第6回	日常よく使用する漢字・間違いやすい言葉について
	第7回	敬語表現の基礎知識
	第8回	漢字と語彙③
	第9回	沖縄方言の概説①
	第10回	沖縄方言の概説②
	第11回	沖縄方言の概説③
	第12回	1分間スピーチのテーマを決め、構成を考える
	第13回	スピーチ原稿の下書き
	第14回	スピーチ実践
	第15回	まとめ

教科書	配布資料
-----	------

授業方法	講義
------	----

評定方法	筆記試験
------	------

履修アドバイス	対人援助職として重要な言葉の使い方を学びます。 までに身につけるように努めてください。	基礎知識として実習
---------	--	-----------

<b>科目名</b>	<b>生物学</b>
------------	------------

履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮里 幸利	科目副担当	0

目 標	総合	生物の基本的な原理・法則への理解を深め、専門への深化につなげる。
	行動	各回の講義テーマについて、理解できる。

講 義 計 画	第1回	ガイダンス・生物の共通性 ～細胞・DNA・ATP・恒常性～
	第2回	生物の多様性と系統分類
	第3回	細胞の多様性と共通性 ～細胞の種類・大きさ・構造～
	第4回	顕微鏡
	第5回	代謝と生物のエネルギー ～同化・異化・有機物・無機物～
	第6回	ATPの構造とエネルギー、酵素の種類と働き
	第7回	光合成のしくみ ～4つの反応～
	第8回	呼吸の仕組み ～解糖系・クエン酸回路・電子伝達系～
	第9回	血液と組織と働き
	第10回	メンデル遺伝と血液型の遺伝
	第11回	循環系とその種類 ～心臓のつくり、血管系、リンパ系～
	第12回	野外観察・実習
	第13回	復習①
	第14回	復習②
	第15回	まとめ

教科書	理解しやすい生物基礎
授業方法	講義
評定方法	筆記試験
履修 アドバイス	配布資料を基に進めていきます。毎回教科書も持参すること。

科目名		情報処理	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0
目標	総合	在学中の専門課程や卒業後の就職先においてコンピュータを活用するためのWord、Excel、PowerPointの基礎を習得することができる。基本的な研究方法論・基本の統計法を理解し、研究計画を立てられるようになること	
	行動	①作業療法の専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を習得する②作業療法効果の明示方法を理解する③課題物作成に必要なMicrosoft Officeの基本的な操作方法を理解する④文献レビューを実施し、研究論文を読み解くことができる⑤Microsoft officeを使い、情報を視覚化し、伝える技術を身に着ける	
講義計画	第1回	タブレット操作方法①（グーグル機能について）	
	第2回	タブレット操作方法②（Goodnoteについて）	
	第3回	Microsoft Office ～ word の使い方について①～	
	第4回	Microsoft Office ～ word の使い方について②～	
	第5回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について①～	
	第6回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について②～	
	第7回	Microsoft Office ～ Power Point の使い方について～	
	第8回	研究とは？ 気になること・疑問に思うことは何？	
	第9回	文献検索とレビューについて 先行研究の探し方	
	第10回	グループディスカッション	
	第11回	作業療法の効果判定について 統計のお話し①（基本統計）	
	第12回	作業療法の効果判定について 統計のお話し②（群間比較）	
	第13回	作業療法の効果判定について 統計のお話し③（多重比較）	
	第14回	作業療法の効果判定について 統計のお話し④（相関関係）	
	第15回	グループ発表	
教科書	適宜配布 標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	レポート課題・成果物 80%、講義受講状況20%		
履修アドバイス	PC操作に慣れ、情報の整理ができるよう日頃からタブレットPCに触れていきましょう		

科目名		医学英語	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーション・作業療法場面で使用する医学英単語を理解し、簡単な表現を理解し活用することができる。	
	行動	医療現場で、使用する英単語、表現を理解し、使用の習慣化を図る。 興味・関心がある医学英語資料を調べ、グループでパワーポイントを用い行える。 英語を学ぶことを通して世界のリハビリテーション、作業療法に関心を持つことができる。	
講義計画	第1回	Orientation	
	第2回	Varius medical courses/Medical English words Name of body part	
	第3回	Check Medical English words (Mini test) ①Posture and position /Plane and direction	
	第4回	Check Medical English words (Mini test) ②Range of motion(ROM)	
	第5回	Check Medical English words (Mini test) ③The structure of the human body(The skeletal mu	
	第6回	Check Medical English words (Mini test) ④English words that are used in the state examinatio	
	第7回	Check Medical English words(Mini test) ⑤English words that are used in the state examinatio	
	第8回	Check Medical English words(Mini test)⑥Disease, Disorder, Pathological condition①	
	第9回	Check Medical English words(Mini test)⑦Disease, Disorder, Pathological condition②	
	第10回	Check Medical English words (Mini test) ⑧Medical abbreviations	
	第11回	Check Medical English words (Mini test) ⑨Global medical and rehabilitation field and cerrent	
	第12回	Explain how to make a presentationPrepare presentation (each groups)	
	第13回	generalization Final Re p o r t	
	第14回	Check Medical English words (Mini test) ⑩Presentation by group①	
	第15回	Presentation by group②generalization	
教科書	Distribution prints / Movies (Title undecided) / Dictionary		
授業方法	Lectures		
評定方法	INI Examination①~⑩ (35%) Final Report & Presentation with English (25%) terr		
履修アドバイス	To deepen your knowledge by taking mini examination at the beginning of the lecture. At medical field, It is so many English abbreviations, so let's be able to use and write for medical personnel		

科目名		心理学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 貞則	科目副担当	0
目標	総合	人の心の機能について知る	
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明できる	
講義計画	第1回	心理学とは	
	第2回	知覚の心理学 I	
	第3回	知覚の心理学 II	
	第4回	記憶の心理学 I	
	第5回	記憶の心理学 II	
	第6回	学習の心理学 I	
	第7回	学習の心理学 II	
	第8回	発達心理学 I	
	第9回	発達心理学 II	
	第10回	青年期の心理 I	
	第11回	青年期の心理 II	
	第12回	性格の心理学	
	第13回	社会心理学 I	
	第14回	社会心理学 II	
	第15回	総合まとめ	
教科書	イラストレート心理学入門		
授業方法	講義・グループワーク		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		実践コミュニケーション	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0
目標	総合	<p>「人と関わることは楽しい」と思うことができる。</p> <p>「人間関係を通じて、自分が成長できた」と思えるコミュニケーションが取れる。</p> <p>心と心の通じ合いによる、あたたかな人間関係を目指す。</p>	
	行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良質なコミュニケーションがもたらす人間関係が、医療従事者として必要なことを理解する</li> <li>・社会的マナーを基礎として、医療従事者としてのコミュニケーションに発展させる</li> <li>・標準的なスキルをもとに、TPOに応じた対応を考えることができる</li> </ul>	
講義計画	第1回	オリエンテーション コミュニケーションとは	
	第2回	自己理解を深める	
	第3回	コミュニケーション力を高める（非言語コミュニケーション）	
	第4回	コミュニケーション力を高める（言語コミュニケーション）	
	第5回	コミュニケーション力を高める（聞く力）	
	第6回	コミュニケーション力を高める（実践・面接）	
	第7回	対人関係技能（頼む）	
	第8回	対人関係技能（断る）	
	第9回	感情コントロール（不安）	
	第10回	感情コントロール（怒り）	
	第11回	対人関係技能（相手の気持ちを考える）	
	第12回	対人関係技能（相手への気遣い）	
	第13回	社会に必要なコミュニケーション能力（学校・日常場面）	
	第14回	社会に必要なコミュニケーション能力（社会人としてのマナー）	
	第15回	統括	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTOTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド第二版 山口美和（医学書院）</li> <li>・大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーションマニュアル 加藤進昌（星和書店）</li> </ul>		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	授業参加の姿勢（50%）レポート課題（50%）		
履修アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言をしましょう</li> <li>・相手の意見を否定しないようにしましょう</li> <li>・新しいスキルを身につけ、自己理解を深めましょう</li> </ul>		

科目名		解剖学Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	諸見里 恵一	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を理解することができる。	
	行動	①人体の構造を示す分類や名称を言うことができる。②内臓の名称と所在箇所を説明できる。③血管の名称と所在箇所を説明できる。	
講義計画	第1回	総論	
	第2回	感覚器 外皮・視覚器	
	第3回	心臓①	
	第4回	心臓②	
	第5回	心臓③・脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃・小腸・大腸・肝臓	
	第10回	肝臓・呼吸器	
	第11回	肺・喉頭・腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器・内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書	標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		解剖学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	諸見里 恵一	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を理解することができる。	
	行動	①骨の構造と発生について説明できる。②関節の構造と種類について説明できる。	
講義計画	第1回	解剖学総論	
	第2回	脊椎①	
	第3回	脊椎②	
	第4回	頭蓋①	
	第5回	頭蓋②	
	第6回	上肢骨	
	第7回	下肢骨①	
	第8回	下肢骨②	
	第9回	頭蓋の関節・脊椎の関節	
	第10回	上肢の関節	
	第11回	骨学実習①	
	第12回	骨学実習②	
	第13回	下肢の関節①	
	第14回	下肢の関節②	
	第15回	まとめ	
教科書	標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系 第2版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験・口頭試問		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		



科目名		解剖学Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	高山 千利	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を理解することができる。	
	行動	①神経の名称が言える。②革新系の部位と構造・機能が説明できる。	
講義計画	第1回	神経解剖ガイダンス・神経組織①	
	第2回	神経組織②	
	第3回	脊髄神経	
	第4回	脳神経	
	第5回	脳神経の診かた	
	第6回	脳の外観	
	第7回	脳の各論①	
	第8回	脳の各論②	
	第9回	脳の各論③	
	第10回	脳神経核①	
	第11回	脳神経核②	
	第12回	脳神経核③・伝導路①	
	第13回	伝導路②	
	第14回	髄膜・血管	
	第15回	まとめ	
教科書	絵でみる脳と神経 第4版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		生理学 I	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	細川 浩	科目副担当	0
目標	総合	人体に必要な生理機能（細胞・各臓器の役割・呼吸のしくみ）について理解することができる。	
	行動	①人体における細胞の約役割や機能・構造について説明することができる。②ホメオスタシスについて理解することができる。③各臓器の作用について理解することができる。	
講義計画	第1回	生理学とは・ホメオスタシスの重要性	
	第2回	細胞の化学反応・酵素とその機能	
	第3回	核酸とタンパク質の合成・膜変位の細胞興奮	
	第4回	細胞膜の構造・機能	
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス	
	第6回	栄養の消化と吸収	
	第7回	食道・胃の消化作用	
	第8回	小腸・膵液・胆汁	
	第9回	空調・回腸	
	第10回	膵臓・胆のうの機能	
	第11回	呼吸と血液の働き	
	第12回	呼吸のメカニズム	
	第13回	呼吸気量	
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬	
	第15回	まとめ	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第10版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		生理学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	細川 浩	科目副担当	0
目標	総合	人体に必要な生理機能（血液の役割や体温調節、心臓の収縮のしくみ）について理解することができる。	
	行動	①血液の構造や種類について説明することができる。②心臓の役割や収縮の仕組み、収縮するまでの興奮伝導について説明することができる。	
講義計画	第1回	呼吸の病態生理	
	第2回	血液の組織・機能	
	第3回	酸素解離曲線	
	第4回	消化と吸収	
	第5回	貧血と赤血球増加症	
	第6回	血小板	
	第7回	血液の凝固	
	第8回	体温調節	
	第9回	体温調節	
	第10回	生体防御	
	第11回	心臓弁の役割	
	第12回	興奮の伝導	
	第13回	心臓の収縮・心周期	
	第14回	心音と心雑音	
	第15回	まとめ	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第11版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		生理学Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	細川 浩	科目副担当	0
目標	総合	人体に必要な生理機能（血圧の調整や尿の生成から排泄のしくみ、内分泌の作用）について理解することができる。	
	行動	①血圧の調整の仕組みについて説明することができる。②内分泌と外分泌の違いを梨花氏できる。③ホルモンの生体への作用について説明できる。	
講義計画	第1回	血圧・補助ポンプ・脈波と脈拍	
	第2回	血圧調節	
	第3回	微小血管と血流	
	第4回	循環器の病態生理	
	第5回	腎臓の機能	
	第6回	ヘンレループ	
	第7回	排尿路・尿の輸送と貯蔵	
	第8回	体液の調節・酸塩基平衡	
	第9回	内臓機能の調節・自律神経	
	第10回	内分泌と外分泌	
	第11回	内分泌各論①	
	第12回	膵臓	
	第13回	内分泌各論②	
	第14回	ホルモン調節	
	第15回	まとめ	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 第12版 医学書院		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	国家試験にも出題頻度んお高い科目です。教科書と資料を確認し、授業に望んでください。		

科目名		運動学Ⅰ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0	
目標	総合	①正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ②筋の起始・停止・神経支配を知り、走行や位置関係を理解することが出来る。		
	行動	<認知領域（知識）> ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ②各筋の位置関係を知ることが出来る。③各筋の起始・停止・走行・神経支配を知ることが出来る。④身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。②教科書以外の資料も参考にしながら、各筋の特徴を覚える。 <技能領域（技術）>		
講義計画	第1回	運動学の定義（運動学とは、運動学の歴史）		
	第2回	生体力学の基礎（肢位、面と軸、運動方向）		
	第3回	運動器の構造と機能①（骨の構造と機能・関節の構造と機能）		
	第4回	運動器の構造と機能②（腱および靭帯の構造と機能・骨格筋）		
	第5回	上肢帯の運動学と筋		
	第6回	肩周囲の運動学と筋①		
	第7回	肩周囲の運動学と筋②		
	第8回	肩周囲の運動学と筋③		
	第9回	肘関節・前腕の運動と筋①		
	第10回	肘関節・前腕の運動と筋②		
	第11回	手関節・手指の運動と筋①		
	第12回	手関節・手指の運動と筋②		
	第13回	手関節・手指の運動と筋③		
	第14回	手関節・手指の運動と筋④		
	第15回	まとめ		
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】標準理学療法・作業療法学 解剖学第4版 その他：適宜資料、骨模型、PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳 麻知子、小柳 麻知子、小柳 麻知子			
授業方法	講義・演習・グループワーク			
評定方法	・筆記試験・課題			
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。			

科目名		運動学 II		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0	
目標	総合	①生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。 ②正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ③理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。		
	行動	<認知領域（知識）> ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ②身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 ③運動器の基本的な構造、生理学的特性について理解する。 ④運動学的視点から運動器を理解する。 <情意領域（習慣・態度）> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。		
講義計画	第1回	下肢帯の運動学と筋		
	第2回	股関節の運動学と筋①		
	第3回	股関節の運動学と筋②		
	第4回	膝関節の運動と筋①		
	第5回	膝関節の運動と筋②		
	第6回	まとめ		
	第7回	足関節と足部の運動と筋①		
	第8回	足関節と足部の運動と筋②		
	第9回	体幹の運動学と筋①（頸部・胸部・腰部）		
	第10回	体幹の運動学と筋②（頸部・胸部・腰部）		
	第11回	体幹の運動学と筋③（頸部・胸部・腰部）		
	第12回	頭部・顔面の運動と筋		
	第13回	歩行と走行①（重心移動と体節回旋・下肢の角度変化・歩行時の上肢の運動）		
	第14回	歩行と走行②（歩行時のエネルギー代謝、小児、高齢者の歩行、歩行の神経機構、異常歩行）		
	第15回	まとめ		
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳磨毅ほか 金原出版 その他：適宜資料、骨模型など			
授業方法	講義・演習・グループワーク			
評定方法	・筆記試験・課題			
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。 授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。			

科目名		運動学Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	0
目標	総合	①人の運動分析項目を知り、様々な姿勢の重心変化について理解することができる。また、その運動の学習について、理論をもとに説明することができる。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; ①運動と動作の分析について理解できる。  ②姿勢について理解できる。③歩行と走行について理解できる。④運動学習について理解できる。 ⑤力を与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。⑥関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt; ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。②基本的な運動器を触診できる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;</p>	
講義計画	第1回	筋収縮・神経系（筋収縮の様態、運動単位、末梢神経・シナプス・中枢神経）	
	第2回	運動の中枢神経機構①（反射運動・脊髄反射・姿勢と立ち直り反射）	
	第3回	運動の中枢神経機構②（姿勢保持・随意運動）	
	第4回	姿勢①（姿勢とその制御、重心、立位の安定性、姿勢の記載と類型）	
	第5回	姿勢②（立位姿勢と異常について）	
	第6回	身体とてこ	
	第7回	起居動作・立ち上がり（動作分析）	
	第8回	体力と運動処方①（身体運動のエネルギー代謝）	
	第9回	体力と運動処方②（運動処方）	
	第10回	運動学習①（学習と記憶・運動機能とパフォーマンス）	
	第11回	運動学習②（運動学習の理論）	
	第12回	運動学習③（練習と訓練）	
	第13回	生体力学の基礎①（加速度・ベクトル・モーメント）	
	第14回	生体力学の基礎②（運動法則・てこ・骨と関節の運動）	
	第15回	まとめ	
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 小柳磨毅ほか 金原出版 その他：適宜資料、骨模型など		
授業方法	講義・演習・グループワーク		
評定方法	・筆記試験・課題		
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。授業を受けるには、基礎医学（主に解剖学）の知識が必須です。毎回その再学習と予習が必要です。		

科目名		人間発達学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	加藤 綾乃	科目副担当	0
目標	総合	作業療法介入の基礎となる、ヒトの生涯発達について概説できる	
	行動	①発達段階について説明できる ②発達理論を理解し、ヒト（対象者）の発達過程における問題を想像することができる ③乳幼児期における姿勢反射・反応および運動発達について説明できる ④乳幼児期における認知（感覚・知覚）・社会性（ADL・遊び等）の発達について説明できる ⑤各年齢における運動・認知・社会性の発達について説明できる	
講義計画	第1回	発達概念	
	第2回	発達理論	
	第3回	乳幼児期：姿勢反射・反応	
	第4回	乳幼児期：運動発達1	
	第5回	乳幼児期：運動発達2	
	第6回	姿勢反射・反応と6歳までの発達	
	第7回	乳幼児期：上肢機能の発達	
	第8回	乳幼児期：感覚・知覚・認知・社会性の発達	
	第9回	乳幼児期：日常生活活動(ADL)の発達	
	第10回	学童・青年・成人・老年期の発達1	
	第11回	学童・青年・成人・老年期の発達2	
	第12回	発達検査	
	第13回	グループ学習（各段階にそった遊びの企画）	
	第14回	グループ学習（各段階にそった遊びの企画）	
	第15回	あそびについて発表	
教科書	イラストでわかる人間発達学		
授業方法	講義・グループワーク		
評定方法	グループ学習（発表＋課題）20%小テスト×4回 40%期末試験 40%		
履修アドバイス	子どものリハビリテーションの基礎となりますので、きちんと習得できるよう、すべての講義を受けられるようにしましょう。グループワークでは積極的に参加し、内容をきちんと把握しましょう。		



科目名		リハビリテーション概論Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーションの理念、社会保障、地域包括ケアシステムを理解し、説明できる。	
	行動	①リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）を理解する②社会保障、地域包括ケアシステムについて理解する③地域における作業療法士の役割を理解し、関連職種の役割を把握する④作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について状況に応じて選択することができる	
講義計画	第1回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について①	
	第2回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）	
	第3回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）	
	第4回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）	
	第5回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）	
	第6回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について②	
	第7回	就労支援における作業療法士の役割①	
	第8回	就労支援における作業療法士の役割②	
	第9回	地域包括ケアシステムについて①	
	第10回	地域包括ケアシステムについて②	
	第11回	地域包括ケアシステムについて③	
	第12回	住み慣れた地域の現状を考える1（個人課題）	
	第13回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際①GW	
	第14回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際②発表	
	第15回	まとめ	
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）配布資料：適宜		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	① 筆記試験：80%②授業態度：10%③提出課題：10%		
履修アドバイス	情報収集を行いグループワークに積極的に参加してください		

科目名		精神医学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	大城 圭
目 標	総合	主要な精神疾患を知る。	
	行動	①主要な精神疾患の症状・発症契機・予後について知ることができる。 ②一般的な精神科の治療方法について知ることができる。 ③各症状について説明することができる。	
講 義 計 画	第1回	1章：総論（精神医学とは）	
	第2回	3章：総論（精神機能とその異常）	
	第3回	8章：精神医療と社会	
	第4回	10章：統合失調症	
	第5回	19章：脳器質性精神障害（認知症など）	
	第6回	20章：てんかん	
	第7回	5章：精神医学的診察と診断7章：コンサルテーション・リエゾン	
	第8回	23章：症状精神病	
	第9回	9.22章：発達障害/精神遅滞/心理発達など	
	第10回	18章：物質関連商連・アルコール	
	第11回	11.12章：気分障害（12章双極・11章うつ）	
	第12回	13～15章：神経症性障害	
	第13回	2.6.17章脳科学と精神医学/摂食障害/睡眠覚醒障害	
	第14回	21章：パーソナリティ障害	
	第15回	6章：精神科治療学	
教科書	標準精神医学 第8版		
授業方法	講義		
評定方法	期末筆記試験		
履修 アドバイス	精神科領域に限らず、身体障害領域でも精神疾患を合併している対象者は多くいます。必ず主要疾患の理解と、一般的な治療方法は理解しておくこと。		

科目名		リハビリテーション概論Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0
目標	総合	医療従事者としての作業療法士になるために、リハビリテーションに必要な基礎知識と専門用語を理解することができる	
	行動	<認知領域（知識）> ①リハビリテーションの歴史や、病期別の関わりについて理解する ②作業療法士に必要なリハビリテーション基礎知識、専門用語を理解する ③リハビリテーションに関連する法規、および安全な医療について理解する <情意領域（習慣・態度）> ①リハビリテーションマインドについて理解し、意識を持つ ②チーム医療の目的や意味を知り、多職種での関わりを意識できる	
講義計画	第1回	リハビリテーションの定義と歴史・領域	
	第2回	リハビリテーションマインドと安全な医療の提供	
	第3回	障害分類について（ICF）解説	
	第4回	障害分類について（ICF）実践	
	第5回	ADLの概念①	
	第6回	ADLの概念②	
	第7回	障害につながる疾患の概要	
	第8回	法規・関連制度	
	第9回	チーム医療/多職種理解 理学療法士	
	第10回	チーム医療/多職種理解 社会福祉士	
	第11回	チーム医療/多職種理解 柔道整復師	
	第12回	疾患・各種制度の学習(グループワーク)	
	第13回	疾患・各種制度の学習と発表(グループワーク)	
	第14回	発表	
	第15回	まとめ	
教科書	1. 標準作業療法学 作業療法学 2. 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会(著) 2. 社会福祉概論 中井法相(配付資料)		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	・筆記試験（期末試験80％） ・課題（20％）		
履修アドバイス	①ipadを使用しますので毎回持参し、タッチペンなどの周辺機器も整えておいてください。②ipad内の「クラスルーム」に資料を添付し授業で使用します。③15回目は、配布された資料をすべて持参してください。		

科目名		リハビリテーション概論Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0	
目標	総合	リハビリテーションの理念、社会保障、地域包括ケアシステムを理解し、説明できる。		
	行動	①リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）を理解する②社会保障、地域包括ケアシステムについて理解する③地域における作業療法士の役割を理解し、関連職種の役割を把握する④作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について状況に応じて選択することができる		
講義計画	第1回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について①		
	第2回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）①		
	第3回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）②		
	第4回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）③		
	第5回	地域で求められる作業療法士として必要な資質について（住環境コーディネーター）④		
	第6回	リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援など）について②		
	第7回	就労支援における作業療法士の役割①		
	第8回	就労支援における作業療法士の役割②		
	第9回	地域包括ケアシステムについて①		
	第10回	地域包括ケアシステムについて②		
	第11回	地域包括ケアシステムについて③		
	第12回	住み慣れた地域の現状を考える1（個人課題）		
	第13回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際①GW		
	第14回	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活躍の実際②発表		
	第15回	まとめ		
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院） 配布資料：適宜			
授業方法	講義、演習、グループワーク			
評定方法	① 筆記試験：80%②授業態度：10%③提出課題：10%			
履修アドバイス	情報収集を行いグループワークに積極的に参加してください			

科目名		作業療法概論	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	上江洲 聖	科目副担当	0
目標	総合	作業療法の概要を理解し、説明することができる	
	行動	<p>&lt;認知領域(知識)&gt; 「作業」とは何かを知り、作業療法の定義や原理・歴史について理解できる。また、リハビリテーションの関連性を理解し諸外国と日本の作業療法の現状を理解する。 &lt;情意領域&gt;作業療法士になるための教育体制を知り、求められる資質を理解することで習慣化できる。また他職種連携の重要性と作業療法のエビデンスを理解する。</p> <p>&lt;技能領域&gt;作業療法の実践過程を理解し、行動に移すことができる。円滑なコミュニケーションを取ることができる。</p>	
講義計画	第1回	作業とは何か	
	第2回	作業療法の歴史(諸外国・日本)	
	第3回	世界の作業療法と日本の作業療法	
	第4回	作業療法の領域・他職種連携について	
	第5回	EBMとOT	
	第6回	作業療法の過程	
	第7回	医療福祉制度	
	第8回	作業療法の実際① ～精神領域におけるOT～	
	第9回	作業療法の実際② ～身体領域におけるOT～	
	第10回	作業療法の実際③ ～高齢期におけるOT～	
	第11回	作業療法の実際④ ～教育現場におけるOT～	
	第12回	作業療法の理論	
	第13回	作業療法の実際⑥ ～作業について～	
	第14回	作業療法の実際⑤ ～発達領域におけるOT～	
	第15回	作業療法の管理運営・記録と報告	
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第4版 医学書院		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	筆記試験、出席率、課題		
履修アドバイス	作業療法についての基礎を学ぶ科目です。これまでの歴史を知り、概念を知ることで、より、作業療法についての楽しさを知ることができます。授業には毎回参加しましょう。		

科目名		基礎作業学Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0
目標	総合	作業体験を通して、分析項目を知ることができ、様々な視点を持って分析することができる。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; ①作業療法における「作業」の定義を説明できる。②人の暮らしにおける「作業」の種類を説明することができる。③分析項目について知ることができる。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①各作業の実演時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実演できる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;①作業活動を実践することができる。②活動の実演を通して、各領域の分析項目を記載できる。</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション～作業療法の歴史・基礎作業ですることは何か？～	
	第2回	作業を用いた療法に関連する基本事項について～まずはやってみよう！ADL動作(歯みがき)の分析～	
	第3回	さまざまな理論作業との関係について	
	第4回	フィンガーペインティング～体験～	
	第5回	フィンガーペインティング～分析～	
	第6回	風船バレー～体験～	
	第7回	風船バレー～分析～	
	第8回	調理～理論と分析～	
	第9回	ビーズ手芸～体験～	
	第10回	ビーズ手芸～分析～	
	第11回	アンデルセン～体験～	
	第12回	アンデルセン～体験～	
	第13回	アンデルセン～分析～	
	第14回	ウォーキング～体験と分析～	
	第15回	まとめ	
教科書	①ひとと作業・作業活動 作業の知をとき 技を育む 新版②他必要資料を適宜配付する		
授業方法	講義、グループワーク、発表		
評定方法	①課題：30%②筆記試験：70%		
履修アドバイス	①教科書、ipad他、活動時に使う物品の準備をお願いします。②資料等はクラスルームに配布しますので、周辺機器等の準備をお願いします。		

科目名		作業療法評価法Ⅰ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0	
目標	総合	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。		
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①作業療法における「作業」の定義を説明できる。②人の暮らしにおける「作業」の種類を説明することができる。③分析項目について知ることができる。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①各作業の実演時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実演できる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;①作業活動を実践することができる。②活動の実演を通して、各領域の分析項目を記載できる。</p>		
講義計画	第1回	評価とは？作業療法の過程・情報収集段階・評価の目的と主眼①評価の手順・手段		
	第2回	実施上の留意点・評価のまとめと問題点・治療目標の設定②治療・指導・援助計画の立案		
	第3回	再評価・作業療法の効果		
	第4回	効果判定の方法・フォローアップ		
	第5回	意識の評価およびバイタルサインの測定		
	第6回	臨床検査の検査値の読み方・効果判定・治療への示唆		
	第7回	面接・観察法観察の種類～効果判定		
	第8回	形態計測、身体機能の検査測定に共通する項目・携帯測定の意味		
	第9回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地		
	第10回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地		
	第11回	まとめ		
	第12回	面接について①自己紹介		
	第13回	面接について②作業療法の説明		
	第14回	面接について③インタビュー面接		
	第15回	面接について④対象者にとっての作業		
教科書	①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版			
授業方法	講義、演習			
評定方法	①筆記試験 : 90% ②実技テスト（血圧測定・形態測定） : 10%			
履修アドバイス	①作業療法評価学Ⅰは、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科目もありますが、前期科目であやふやな知識については、改めて学びなおし（復習）し、授業に参加して下さい。必要に応じて、教科書を持参して下さい。②第1回～11回までは、作業療法の対象疾患（身体領域、精神			

科目名		作業療法評価法Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0
目標	総合	各検査・測定を理解し、かつ、それを説明できる。また、注意事項を守りながら、実施できる。	
	行動	<p>&lt; 認知領域 ～知識～ &gt;</p> <p>①各検査の目的を知る。          ②各検査の種類を知り、実施手順を説明できる。          ③各検査に使用する道具、または必要な道具を答えることができる。          ④各検査実施時の注意事項を知る。</p> <p>&lt; 情意領域 ～態度・習慣～ &gt;</p> <p>①各検査で使用する道具の準備や、操作について知り、理解することができる。</p>	
講義計画	第1回	関節可動域測定①目的、方法の説明・肩甲帯・肩関節 実技練習	
	第2回	関節可動域測定②肘関節・手関節 実技練習	
	第3回	関節可動域測定③手指・頸部・体幹 実技練習	
	第4回	関節可動域測定④上肢のまとめ	
	第5回	関節可動域測定⑤ 股関節・膝関節・足部 実技練習	
	第6回	関節可動域測定⑤ 下肢まとめ	
	第7回	関節可動域測定⑥記録の方法・効果判定について	
	第8回	感覚検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第9回	感覚検査②実技練習・記録練習	
	第10回	腱・表在・病的反射検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第11回	腱・表在・病的反射検査②練習・記録練習	
	第12回	姿勢反射検査・リーチ①目的の説明・実施方法の説明	
	第13回	姿勢反射検査・リーチ②実技練習・記録練習	
	第14回	筋緊張検査①目的の説明・実施方法の説明	
	第15回	筋緊張検査② 実技練習・記録練習	
教科書	標準作業療法学第3版 作業療法評価学 理学療法評価学 第5班		
授業方法	講義・実技		
評定方法	実技試験40%、筆記試験60%		
履修 アドバイス	①解剖・運動・生理学を基礎とし、身体の評価を行います。基礎の復習を行い、基本評価項目の習得に取り組んで下さい。 ②作業療法評価学Ⅱは、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科目もありますが、		



科目名		作業療法評価法Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0	
目標	総合	各評価の項目における必要な基礎知識をもって、評価が実施できる。		
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;徒手筋力検査・脳神経検査・ADL評価・協調性検査・上肢機能検査の意義と目的および実施方法について説明できる。&lt;情意領域（週間・態度）&gt;書く検査に必要な道具の扱いや物品の管理ができる。書く検査を安全にじっしできるように配慮できる。検査測定実施時に、模擬患者へのメモの確認やインフォームドコンセントが行える。&lt;技能領域&gt;各検査を実施できる。また道具や環境についても適切に扱うことができる。</p>		
講義計画	第1回	オリエンテーション・脳神経検査①		
	第2回	脳神経検査②		
	第3回	協調性検査①		
	第4回	協調性検査② ～実技練習～		
	第5回	徒手筋力検査① ～肩甲帯・上肢の実技練習～		
	第6回	徒手筋力検査② ～上肢の実技練習～		
	第7回	徒手筋力検査③ ～上肢・手の実技練習～		
	第8回	徒手筋力検査④～体幹の実技練習～		
	第9回	徒手筋力検査⑤ ～下肢の実技練習～		
	第10回	徒手筋力検査⑥ ～下肢の実技練習～		
	第11回	ADL評価① ～評価の目的～		
	第12回	ADL評価② ～ADL評価の種類～		
	第13回	ADL評価③ ～観察・記録練習～		
	第14回	上肢機能検査① ～意義・目的・種類～		
	第15回	上肢機能検査② ～実技練習～		
教科書	①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検査法 原著第10版			
授業方法	講義・実技			
評定方法	実技試験、筆記試験、中間テスト			
履修アドバイス	①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。			

科目名		内科学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	濱田 賢治	科目副担当	0	
目標	総合	0		
	行動	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について理解する。3. 主要な内科疾患の治療方法について理解する。		
講義計画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方		
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理学A発熱B全身倦		
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT、OTの関連4循環器A解剖生		
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性心疾患 7		
	第5回	5 呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハビリFPT		
	第6回	6 消化管疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連		
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H腹膜疾患		
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FPT・OT		
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリノーマ 3 脂質異常症 4 メタボ		
	第10回	1 0 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2 下垂体疾		
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論 1 腎不全		
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾患C膠原病		
	第13回	1 3 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識		
	第14回	まとめ		
	第15回	まとめ		
教科書	標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第4版 内科学			
授業方法	講義			
評定方法	期末試験			
履修 アドバイス	0			

科目名		整形外科学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	安田 知子	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。	
	行動	運動器疾患である整形外科学の診断と治療について述べられるようになる。 それぞれの疾患の概要からリスク管理ができるようになる。	
講義計画	第1回	整形外科学総論/整形外科とは、整形外科学とはなにか	
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断	
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法	
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷	
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靭帯損傷・脱臼	
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節	
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手	
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節	
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節	
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患	
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首	
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症	
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症	
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患	
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科学と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線障害と子	
教科書	整形外科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修アドバイス	整形外科学は、運動器疾患の基礎です。リハビリテーションの対象疾患としての基礎を学んでいきましょう		

科目名		神経内科学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0
目標	総合	神経内科学全般の知識を習得する	
	行動	<p>&lt;認知領域 ～知識～&gt;</p> <p>①各検査の目的を知る。            ②各検査の種類を知り、実施手順を説明できる。            ③各検査に使用する道具、または必要な道具を答えることができる。            ④各検査実施時の注意事項を知る。</p> <p>&lt;情意領域 ～態度・習慣～&gt;</p> <p>①各検査で使用する道具の準備や、操作について知り、理解することができる。</p>	
講義計画	第1回	脳・神経解剖・生理学復習 神経診断学 神経兆候①(意識障害)	
	第2回	神経徴候②(脳神経)	
	第3回	神経徴候③(運動系、感覚系)	
	第4回	脳血管障害① 脳梗塞	
	第5回	脳血管障害② 脳出血	
	第6回	脳血管障害③ 頭部外傷	
	第7回	脳血管障害④ 高次脳機能(注意機能、記憶)	
	第8回	脳血管障害⑤ 高次脳機能(失行・失認・失語)	
	第9回	脳血管障害⑥ 高次脳機能(身体・空間無視、遂行・認知機能)	
	第10回	脳画像の診かた(CT、MRIを中心に)	
	第11回	各疾患グループワーク①	
	第12回	各疾患グループワーク②	
	第13回	プレゼンテーション①: パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症	
	第14回	プレゼンテーション②: 多発性硬化症、ニューロパチー(ギランバレー症候群)、筋ジストロフ	
	第15回	まとめ	
教科書	①神経内科学テキスト 改訂第4版 南江堂 ②ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂 ③病気がみえる vol7 第2版 脳・神経 MEDIC		
授業方法	講義、グループワーク、発表		
評価方法	・筆記試験(期末試験80%) ・課題(20%)		
履修アドバイス	範囲の広い神経内科学の分野を効率よく効果的に学習できるよう基礎的知識の復習を適時行うこと。レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーションも評価に含まれる。		

科目名		小児科学	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	利根川 尚也	科目副担当	0
目標	総合	0	
	行動	①主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。②小児疾患全般を理解し、リハビリテーションへの応用へ繋げることができる。	
講義計画	第1回	発達について	
	第2回	新生児について	
	第3回	2～7か月の発達	
	第4回	重症心身障害児について	
	第5回	9～14か月の発達	
	第6回	14か月～2歳の発達	
	第7回	2～3歳の発達について	
	第8回	3～4歳の発達について	
	第9回	5～10歳の発達について	
	第10回	11～17歳の発達について	
	第11回	発達障害の特徴1	
	第12回	発達障害の特徴2	
	第13回	発達障害の特徴3	
	第14回	発達障害の特徴4	
	第15回	まとめ	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学		
授業方法	講義・グループワーク		
評定方法	・筆記試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		病理学総論	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	知花 裕子	科目副担当	0
目標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。	
	行動	①病気の発生機序を説明できる。②病気の回復メカニズムを説明できる。③医療現場で留意すべき感染症への対策が説明できる。	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書	資料配布		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修アドバイス	0		

科目名	リハビリテーション関連医学
-----	---------------

履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	村 克徳、池村 憲明・潮平 英	科目副担当	0

目標	総合	0
	行動	①健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程について理解できる。②知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養う。③高度化する医療ニーズに対応するため栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命学等の基礎を学ぶ

講義計画	第1回	0
	第2回	0
	第3回	0
	第4回	0
	第5回	0
	第6回	0
	第7回	0
	第8回	0
	第9回	0
	第10回	0
	第11回	0
	第12回	0
	第13回	0
	第14回	0
	第15回	0

教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやすい薬理学 ヒロカワ DT、OTのための画像評価に基づく疾患別アプローチ
-----	--

授業方法	講義
------	----

評定方法	期末試験・小テスト
------	-----------

履修 アドバイス	0
-------------	---

科目名		基礎作業学 II	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0
目標	総合	・作業種目を包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。また、作業種目の特性を理解し適応可能な対象疾患を列挙することができる。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる②作業種目が持つ特性（身体、精神、発達側面）を理解する③疾患別、障害別の作業活動の有効性、禁忌事項を理解する&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①作業課題のリスク管理ができる②セラピストとして、安全管理、作業介入ができる③円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる&lt;技能領域（技術）&gt;①分析シートを用いて、各作業の特性とその理由について、分析内容を書き出すことができる。②分析種目の作業と、類似する性質をもつ作業を抽出</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション、基礎作業学 I のおさらい(ペドレッティを使った作業分析)	
	第2回	基礎作業学 I のおさらい(ペドレッティを使った作業分析)、次回の活動について話し合い	
	第3回	園芸活動(実践)	
	第4回	園芸活動(分析)	
	第5回	革細工(実践)	
	第6回	革細工(分析)	
	第7回	調理(実践)	
	第8回	調理(分析)	
	第9回	木工(実践)	
	第10回	木工(実践)と 課題(分析)	
	第11回	絵手紙(実践)	
	第12回	絵手紙(分析)	
	第13回	疾患と活動のつながり(動画)を分析する	
	第14回	疾患と活動のつながり(動画)を分析する	
	第15回	まとめ	
教科書	ゴールド・マスター・テキスト作業学 第3版		
授業方法	講義・実践・グループワーク		
評定方法	・筆記試験（期末試験80%） ・課題（20%）		
履修アドバイス	①ipadを使用しますので毎回持参し、タッチペンなどの周辺機器も整えておいてください。②ipad内の「クラスルーム」に資料を添付し授業で使用します。③15回目は、配布された資料をすべて持参してください。		



科目名		作業療法管理学		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0	
目標	総合	作業療法サービスを効率よく安全に提供するための管理（マネジメント）の視点を養う。		
	行動	①組織の役割を理解する②チーム医療の役割を理解する③各種制度を理解する ④各種管理を理解する		
講義計画	第1回	オリエンテーション ～講義の流れ、検査の目的・意義・方法を理解する		
	第2回	病院の分類と組織		
	第3回	専門職とチームケア		
	第4回	専門職とは		
	第5回	社会保障の仕組み		
	第6回	医療保険制度		
	第7回	介護保険制度		
	第8回	職業倫理		
	第9回	業務管理		
	第10回	情報管理		
	第11回	感染管理		
	第12回	教育管理		
	第13回	リスク管理①		
	第14回	リスク管理②		
	第15回	報告会		
教科書	①作業療法管理学 中山書店 リハビリテーション管理学 医学書院		②	
授業方法	講義・グループワーク・演習			
評定方法	筆記試験、中間試験			
履修アドバイス	様々な視点から全体を見つめ観察する能力を養う科目です。今後、働くには必要な知識となります。実習に向けて、各グループワークや報告会なども積極的に参加しましょう。			

科目名		作業療法評価法Ⅳ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0	
目標	総合	ADLの理念・概要を理解する。標準化されたADL評価法を理解し、評価を実施することができる。高次脳機能障害の基礎となる脳解剖やメカニズムを理解し、高次脳機能障害における観察・検査・測定が実施できる。		
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①標準化されたADL評価法の概要や各項目を理解することができる。また精神領域におけるADL評価の意義や目的を説明できる。②片麻痺機能の神経生理学的な機序を理解し、検査の意義目的を説明できる。③高次脳昨日検査に必要な脳解剖や画像診断の見方を修得し、各症状の定義やメカニズムを理解することができる</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①各検査の観察・検査・測定に必要な道具を準備することができる。②安全かつ検査・測定に適した環境を設定し実施することができる。</p>		
講義計画	第1回	ADLの評価について① ～1年時の復習～		
	第2回	ADL評価について② ～精神領域のADL評価～		
	第3回	ADL評価について③ ～精神領域のADL評価～		
	第4回	ADL評価について④ ～まとめ～		
	第5回	片麻痺上肢機能検査① ～意義・目的～		
	第6回	片麻痺上肢機能検査② ～実技練習～		
	第7回	片麻痺上肢機能検査③ ～実技練習～		
	第8回	高次脳機能障害の評価① ～高次脳機能障害とは～		
	第9回	高次脳機能障害② ～注意障害～		
	第10回	高次脳機能障害③ ～記憶障害～		
	第11回	高次脳機能障害④ ～失行～		
	第12回	高次脳機能障害⑤ ～失認～		
	第13回	高次脳機能障害⑥ ～空間無視・身体無視～		
	第14回	高次脳機能障害⑦ ～失語～		
	第15回	高次脳機能障害⑥ ～遂行機能障害・社会的行動障害・認知機能検査～		
教科書	①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5班③新・徒手筋力検査法 原著第10版			
授業方法	講義・実技			
評定方法	実技試験、筆記試験、中間テスト			
履修アドバイス	①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。			

科目名		身体作業治療学Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	澤田 祥子	科目副担当	0
目標	総合	身体機能作業療法学の基礎知識を習得し、各治療原理を説明することができる	
	行動	<認知領域（知識）> ①身体機能治療の目的を述べることができる。 ②作業療法の過程を説明でき、トップダウンとボトムアップについて述べるができる。 ③各回の主題について、必要な知識を説明することができる。 <情意領域（習慣・態度）> ①資料と教科書の主要ポイントに印を入れることができる	
講義計画	第1回	身体作業療法の目的～ 治療推論、診療報酬、治療方式について ～	
	第2回	治療原理～ ボディメカニクス・理論・フィードバックとフィードフォワード～	
	第3回	リスク管理～インシデント・アクシデント～	
	第4回	関節可動域訓練①上肢の基本的なハンドリング	
	第5回	関節可動域訓練②下肢の基本的なハンドリング	
	第6回	筋力増強訓練①機能的な機能訓練方法	
	第7回	筋力増強訓練②ADLにつなげた方法	
	第8回	知覚再教育訓練	
	第9回	物理療法①臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果	
	第10回	物理療法②臨床で関わりやすい物理療法の実施と効果	
	第11回	切断と義肢①切断部位・義肢総論	
	第12回	切断と義肢②義手各種	
	第13回	切断と義肢③チェックアウト、まとめ	
	第14回	装具・スプリント①各疾患の装具・splint・自助具（末梢神経障害、関節リウマチ、骨折など）	
	第15回	装具・スプリント②実技・作製	
教科書	身体機能作業療法学第3版 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 <small>副読本</small>		
授業方法	講義・実技		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。 また、動きやすい服装で参加して下さい。		

科目名		身体作業治療学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	0	
目標	総合	脳血管障害に対する作業療法を実施できるようになるために、この疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。		
	行動	<p>【知識 - 認知領域-】</p> <p>①脳血管障害の発生機序と臨床像の違いを説明できる。</p> <p>②脳血管障害の病期に応じた作業療法の概要について述べるができる。</p> <p>【習慣・態度 - 情意領域-】</p> <p>①各評価や治療に必要な道具の扱いや、物品管理を行える。</p> <p>②各評価や治療を安全に行えるよう、配慮できる。</p> <p>③各評価や治療を通して学んだことを他者と討議できる。</p>		
講義計画	第1回	オリエンテーション、作業療法ガイドラインについて		
	第2回	脳血管障害に対する作業療法(作業療法ガイドライン 脳卒中について)		
	第3回	脳血管障害に対する作業療法(急性期)(亜急性期)		
	第4回	脳血管障害に対する作業療法(亜急性期)(回復期)		
	第5回	脳血管障害に対する作業療法(回復期)		
	第6回	脳血管障害に対する作業療法(生活期)		
	第7回	脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技		
	第8回	脳血管障害に対する作業療法 促通法・治療手技・介助方法		
	第9回	筋緊張異常に対する作業療法		
	第10回	協調運動障害に対する作業療法		
	第11回	廃用症候群に対する作業療法		
	第12回	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)		
	第13回	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案discussion)		
	第14回	CVAに対する作業療法(作業療法計画立案presentation)		
	第15回	まとめ		
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 作業療法学 専門分野 脳卒中に対する作業療法 第3版 身体障害者作業療法学			
授業方法	講義・実技・グループワーク			
評定方法	筆記試験、グループワークディスカッション			
履修アドバイス	<p>※実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。</p> <p>※事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。</p> <p>※積極的なディスカッションや発表が行えるよう、調べ学習や振り返り(復習等)を行ってください</p>			

科目名		身体作業治療学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	0	
目標	総合	変性・脱髄疾患、内部疾患、ターミナル等の評価から治療までの流れを把握し、治療計画立案について理解することができる		
	行動	①各疾患の病態及び予後について説明できる ②各疾患の評価について説明できる。 ③各疾患の作業療法目標、治療、対象者が地域生活・社会参加のための方法について知ることができる。 ④基本的な介入について、国家試験を題材とした対象者について考えることができる。		
講義計画	第1回	神経筋疾患の作業療法①	多発性硬化症 (MS)	
	第2回	神経筋疾患の作業療法②	ギラン・バレー症候群 (GBS)	
	第3回	神経筋疾患の作業療法③	筋ジストロフィ (MD)	
	第4回	神経変性疾患の作業療法①	パーキンソン病 (PD)	
	第5回	神経変性疾患の作業療法②	脊髄小脳変性症 (SCD)	
	第6回	神経変性疾患の作業療法③	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	
	第7回	内部疾患の作業療法①	心疾患 (心臓の機能解剖・心電図)	
	第8回	内部疾患の作業療法②	心疾患 (心疾患と作業療法1)	
	第9回	内部疾患の作業療法③	心疾患 (心疾患と作業療法2)	
	第10回	内部疾患の作業療法④	呼吸器疾患 (呼吸器の解剖生理・疾患学)	
	第11回	内部疾患の作業療法⑤	呼吸器疾患 (作業療法・喀痰吸引)	
	第12回	内部疾患の作業療法⑥	糖尿病	
	第13回	悪性腫瘍疾患の作業療法①	OPE後対応	
	第14回	悪性腫瘍疾患の作業療法②	ターミナルケア	
	第15回	まとめ		
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修アドバイス	実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。			

科目名		身体作業治療学Ⅳ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	澤田 祥子	科目副担当	0	
目標	総合	履修した基礎医学知識を駆使して、脊髄損傷、RA、骨折、腱損傷などの病理病態を理解する。		
	行動	<認知領域（知識）> ①修復した各疾患特性を理解し説明できる。 ②修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価の説明や計画出来る。 <情意領域（習慣・態度）> ①期限内に与えられた課題を遂行し提出することが出来る。 <技能領域（技術）> ①修復した各疾患特性の時期に合わせたリスク管理、評価、目標設定、プログラム		
講義計画	第1回	脊髄損傷①オリエンテーション		
	第2回	脊髄損傷②概論		
	第3回	脊髄損傷③身体機能などの評価		
	第4回	脊髄損傷④急性期：画像評価、プロトコール、リスク管理		
	第5回	脊髄損傷⑤回復期：評価、プロトコール		
	第6回	脊髄損傷⑥社会復帰・在宅復帰に向けて		
	第7回	脊髄損傷⑦まとめ		
	第8回	RA① 病態・評価・治療		
	第9回	RA② 自助具・環境調整		
	第10回	骨折① 評価・治療（上肢）		
	第11回	骨折② 評価・治療（体幹・下肢）		
	第12回	腱損傷・腱板損傷		
	第13回	末梢神経損傷 ①疾患概要・評価		
	第14回	末梢神経損傷②治療		
	第15回	熱傷		
教科書	身体機能作業療法学第3版 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 <small>配布資料</small>			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修アドバイス	実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。			

科目名		精神科作業治療学Ⅰ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0	
目標	総合	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する		
	行動	①精神科領域における治療概要を理解できる ②回復段階における作業療法の目的が理解でき、立案できるようになる ③各疾患の作業療法について説明・模擬実践できる		
講義計画	第1回	講義内容説明・回復過程について		
	第2回	治療過程治療構造・治療的態度、関わり方・集団について		
	第3回	認知行動療法精神科作業療法・精神科療養病棟の治療		
	第4回	疾患別作業療法①-1急性期統合失調症		
	第5回	疾患別作業療法①-1急性期統合失調症		
	第6回	疾患別作業療法①-3回復期・維持期統合失調症		
	第7回	疾患別作業療法①-4回復期維持期統合失調症		
	第8回	疾患別作業療法①気分障害		
	第9回	疾患別作業療法②てんかん		
	第10回	疾患別作業療法③パーソナリティ障害		
	第11回	疾患別作業療法④広汎性発達障害・知的障害		
	第12回	疾患別作業療法⑤神経性症障害		
	第13回	疾患別作業療法⑥摂食障害		
	第14回	疾患別作業療法⑦物質依存性障害		
	第15回	まとめ		
教科書	<b>【教科書】</b> 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで <b>【参考文献】</b> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎科目 精神医学			
授業方法	講義			
評定方法	・グループ課題取り組み・課題提出 20%・期末試験 80%			
履修アドバイス	精神科実習での治療実践には必ず必要となる技術・知識となります。 知識だけでなく、創造性も必要となるので、グループワークで他者の意見を吸収し、柔軟な思考にしていきましょう			

科目名		精神科作業治療学 II		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0	
目標	総合	精神科作業療法に関する概要や評価知識、技術を理解し、修得する		
	行動	①精神科分野における作業療法評価の目的を把握できる ②評価、面接、観察、情報収集を行える ③得られた情報から統合と解釈を行い、問題解決に向けたプログラム立案ができる		
講義計画	第1回	講義内容説明沖縄県における精神科医療及び作業療法の歴史と現状		
	第2回	精神科作業療法の領域と十字する場・入院形態・診療報酬		
	第3回	回復段階における作業療法の目的（急性期・回復期・維持期）		
	第4回	精神科における作業療法評価①（目的、手段、方法）		
	第5回	精神科における作業療法評価②（情報収集について）		
	第6回	精神科における作業療法評価③-1（行動観察）		
	第7回	精神科における作業療法評価③-2（評価ツール）		
	第8回	精神科における作業療法評価④-1（能力評価）		
	第9回	精神科における作業療法評価④-2（観察記録からの能力評価）		
	第10回	精神科における作業療法評価⑤-1（統合と解釈、問題点の抽出）		
	第11回	精神科における作業療法評価⑤-2（統合と解釈、問題点の抽出 実践）		
	第12回	精神科における作業療法評価⑥-1（目標設定プログラムと立案）		
	第13回	精神科における作業療法評価⑥-2（プログラム選択方法）		
	第14回	事例検討（初期評価実践）		
	第15回	まとめ		
教科書	<b>【教科書】</b> 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践まで <b>【参考文献】</b> 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修アドバイス	0			



科目名		発達障害作業治療学Ⅰ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	加藤 綾乃	科目副担当	0	
目標	総合	小児における作業療法の基礎介入を理解し、各発達障害の特性と作業療法アプローチについて説明できる。 作業療法士国家試験問題程度の問題を解くことができる。		
	行動	①正常発達の理解をもとに、小児の作業療法の役割は何かを理解する ②発達理論やモデルに基づいた、小児の作業療法の評価・治療・援助の流れを理解する ③遊びの治療的意味や発達にとっての遊びの重要性を理解する ④各発達障害の特性について理解する ⑤発達に応じた評価や治療を選択することができる ⑥発達領域に関する国家試験出題傾向を理解し、問題を解くことができる		
講義計画	第1回	小児の作業療法について		
	第2回	作業療法と人間発達、小児の生活と作業遂行とは		
	第3回	発達の基礎		
	第4回	心身機能の発達過程		
	第5回	心身機能の発達過程		
	第6回	心身機能の発達過程(国家試験問題の傾向を知る)		
	第7回	評価・治療・援助の理論とモデル、発達評価		
	第8回	発達評価 (国家試験問題の傾向を知る)		
	第9回	感覚統合理論とアプローチ		
	第10回	感覚統合理論とアプローチ		
	第11回	発達障害—広汎性発達障害1		
	第12回	発達障害—広汎性発達障害2		
	第13回	発達障害—注意欠如・多動症		
	第14回	発達障害—学習障害		
	第15回	まとめ、国家試験問題の傾向を知る		
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修アドバイス	人間発達学の知識を基本ベースに各疾患の特徴や基礎介入などを学んでいきます。講義の前半は人間発達学に関する事項を行います。必要に応じて人間発達学で使用した教科書等を持参してください。			

科目名		発達障害作業治療学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	末吉 静	科目副担当	0	
目標	総合	各発達障害の評価と治療の概念を把握する		
	行動	各疾患の評価を理解し説明できる。各疾患の治療を理解し説明できる。		
講義計画	第1回	発達障害領域の評価		
	第2回	脳性麻痺 総論 ～姿勢・運動へのアプローチ～		
	第3回	脳性麻痺 ～痙直型片麻痺		
	第4回	脳性麻痺 ～失調児への援助～		
	第5回	脳性麻痺 ～痙直型四肢麻痺時への援助～		
	第6回	脳性麻痺 ～アテトーゼ型四肢麻痺児への援助～		
	第7回	重症心身障害児・者への援助		
	第8回	ADL支援		
	第9回	発達障害児への援助		
	第10回	感覚統合理論とアプローチ		
	第11回	知的障害児への援助		
	第12回	二分脊椎・ダウン症・分娩麻痺・骨形成不全について		
	第13回	筋ジストロフィーについて		
	第14回	対人援助職としてのOTに求められるもの		
	第15回	まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		作業療法技術論Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	天久 藍	科目副担当	澤田祥子/加藤綾乃/矢内和香/宗像暁美
目標	総合	PBLを通して、身体障害領域の作業療法の一連の流れを体験することができる。また、内省的実践家として成長することができる	
	行動	<p>&lt;認知領域&gt;身体機能領域のCVAと大腿骨頸部骨折の各疾患の特徴を理解できる。そして、そのケースのニーズに対応する為の評価や治療を立案することができる。</p> <p>&lt;情意領域&gt;グループワークを通して自他の意見を伝え・受け入れ討議できる。また、グループにおける自身の役割を理解し遂行できる。</p> <p>&lt;技能領域&gt;各界の授業の振り返りを行い、取り組んだ内容をポートふぉりをにすることができる。PBLを通して、ケースに必要な検査測定や治療が指導を受けながら実施できる。</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション・情報提示：脳血管障害の症例 ～初期評価プランの立案①～	
	第2回	初期評価プランの立案②	
	第3回	評価実技練習①	
	第4回	評価実技練習②	
	第5回	評価実技練習③	
	第6回	評価実技 ～スキルチェック	
	第7回	情報提示② ～治療目標・治療プラン立案～	
	第8回	治療プラン立案	
	第9回	治療プラン立案	
	第10回	実技練習	
	第11回	情報提示①大腿骨頸部骨折症例 ～初期評価立案～	
	第12回	初期評価立案・実技練習	
	第13回	評価実技練習	
	第14回	情報提示② ～治療目標・治療プランの立案～	
	第15回	治療プランの立案	
教科書	身体障害領域に関するこれまで使用してきた教科書		
授業方法	講義、グループワーク、実技		
評定方法	毎回の授業時の課題、毎週提出するポートフォリオ		
履修アドバイス	臨床実習での患者様と関わる一連の流れを、ゆっくり順を追ってワークしていきます。グループワークを主に授業を進めていくので、メンバーで意見を出し合い、積極的に意見をまとめていきましょう。		

科目名		作業療法技術論 II	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	梶原 利彦	科目副担当	吉田恭子/井上美和/大城圭
目標	総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害領域における作業療法の実際を理解し、実践できる</li> <li>・内省的実践家として成長することができる</li> </ul>	
	行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①精神障害領域の統合失調症・認知症を主とした各疾患・回復段階（Sch）の特徴を説明でき、評価項目とその内容を説明できる。</li> <li>②実践を通して学んだことを他者と討議できる。</li> <li>③実践を通して作業療法評価（情報収集、各種面接）が実施でき面接に必要なコミュニケーションスキルを身に着ける。</li> </ul>	
講義計画	第1回	オリエンテーション精神科作業療法実践までの流れを説明	
	第2回	対象症例2疾患に必要な評価項目に関するグループワーク	
	第3回	PBL（統合失調症）多職種への情報収集に必要な内容・技術をまとめ発表	
	第4回	実技練習グループで多職種情報収集に関する練習を行う	
	第5回	PBL（統合失調症）インテーク面接に必要な情報を調べ発表	
	第6回	実技練習インテーク面接	
	第7回	PBL（認知症）インテーク面接に必要な情報を調べ発表	
	第8回	実技練習インテーク面接	
	第9回	PBL（認知症）認知機能の検査（種類・適切なもの・方法など）について調べる	
	第10回	実技練習認知機能検査	
	第11回	実技練習	
	第12回	実技試験	
	第13回	実技練習	
	第14回	実技試験	
	第15回	まとめ/実技試験	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 生活を支援する精神障害作業療法 第二版 各地期入生地域実践まで		
授業方法	講義		
評定方法	・実技試験（12～15回目実施）・講義終了後のリフレクションシート作成・最終の課題提出		
履修 アドバイス	※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい		

科目名		作業療法技術論Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	澤田 祥子	科目副担当	上美和/加藤綾乃/梶原利彦/天久藍/吉田恭子/鈴
目標	総合	精神障がい領域および身体障がい領域における生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を活用した作業療法実践にむけたプロセスを理解し、マネジメントシート・レジюме作成できる	
	行動	①MTDLPの概要を理解し、各シートの使用方法について理解し、作成する ②レジюме作成(考察)が専門用語を用い作成できる ③ICFの分類について知ることができる	
講義計画	第1回	オリエンテーションMTDLP復習	
	第2回	症例確認(技術論ⅠのCVA症例) MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第3回	精神科領域オリエンテーション	
	第4回	事例検討(担当事例は裏面参照) 事例の追加情報配布演習:生活行為聞き取りシート・アセス	
	第5回	症例検討MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第6回	症例検討MTDLP:生活行為工程分析作成	
	第7回	グループワークMTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第8回	グループワークMTDLP:生活行為工程分析作成	
	第9回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第10回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第11回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集	
	第12回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム立案(集	
	第13回	症例検討レジюме作成	
	第14回	症例検討レジюме作成	
	第15回	演習レジюме作成発表	
教科書	作業療法ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 2版 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 作業療法学 第3版 生活行為向上マネジメントシート 改訂第2版		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	授業態度・課題提出・MTDLPマネジメントシート(グループ課題)・レジюме A3(個人)		
履修 アドバイス	※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい		

科目名		作業療法技術論Ⅳ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	天久 藍	科目副担当	0
目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける	
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる	
講義計画	第1回	共通認知症	
	第2回	共通運動学	
	第3回	共通運動学	
	第4回	共通高次脳機能障害	
	第5回	共通てんかん他	
	第6回	専門脊損・装具	
	第7回	専門運動学	
	第8回	専門脳血管障害・嚥下	
	第9回	共通生理学(消化器系)	
	第10回	共通気分障害	
	第11回	専門膠原病	
	第12回	専門物質依存	
	第13回	専門統合失調症	
	第14回	専門末梢神経障害	
	第15回	専門ADL評価	
教科書	1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント(医歯薬出版)などの国家試験対策用参考書		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修 アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。		

科目名		作業療法技術論Ⅴ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	0
目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける	
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる	
講義計画	第1回	共通中枢神経	
	第2回	共通統合失調症	
	第3回	共通整形外科学	
	第4回	共通整形外科学	
	第5回	共通末梢神経	
	第6回	専門切断・義肢	
	第7回	専門認知症	
	第8回	共通生理学循環器系	
	第9回	専門循環器系	
	第10回	専門自閉・ADHD	
	第11回	専門感覚・高次脳機能評価	
	第12回	専門感覚高次脳機能評価	
	第13回	共通神経症性障害	
	第14回	専門各種保険・PTOT法	
	第15回	専門神経症性障害	
教科書	1・3年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント(医歯薬出版)などの国家試験対策用参考書		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修 アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。		

科目名	作業療法技術論VI
-----	-----------

履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0

目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる

講義計画	第1回	共通精神医学総論
	第2回	共通生理学(泌尿器)
	第3回	共通生理学(循環器)
	第4回	共通防衛機制
	第5回	共通精神医学評価
	第6回	共通解剖学
	第7回	共通生理学(呼吸器)
	第8回	共通アルコール依存症
	第9回	専門生理学(呼吸器)
	第10回	専門気分障害
	第11回	共通人間発達学
	第12回	専門RA・骨折
	第13回	専門脳性まひ
	第14回	専門発達OT
	第15回	専門老年期・内科疾患

教科書	1・4年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント(医歯薬出版)などの国家試験対策用参考書
-----	--

授業方法	講義、グループワーク
------	------------

評定方法	単位認定試験(筆記)
------	------------

履修 アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。
-------------	--



科目名		地域作業療法治療学Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0
目標	総合	老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療および評価を学ぶ	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①老年期障害の一般疾患特性について説明できる②病因、症候について説明できる③診断、評価、治療について説明できる④認知症の症候と作業療法の実際について説明できる⑤身体障害領域における法律や地域支援について説明できる</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①高齢者の心身の特徴，リスクについて説明できる②認知症の特徴を踏まえた対応の仕方について挙げることができる</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;①高齢期の作業療法の評価，治療介入方法について説明，実施ができる②各疾患に応じた地域支援を選択しプログラムを検討することができる</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション、高齢者をとりまく環境や心身面の特徴について	
	第2回	高齢者に必要な疾患と治療について①	
	第3回	高齢者に必要な疾患と治療について②	
	第4回	高齢者に実施する作業療法評価について	
	第5回	社会情勢の変化と法改正 身体障害領域介護保険、身体障害者手帳、新オレンジプラン	
	第6回	地域包括ケアシステムについて	
	第7回	高齢者の住宅環境整備について	
	第8回	高齢者の福祉用具について、まとめ	
	第9回	認知症の症状①	
	第10回	認知症の症状②	
	第11回	認知症の症候学①（診断，MCI）	
	第12回	認知症の症候学②（AD/VD/DLB/FTD）	
	第13回	認知症の症候学③（薬物療法ほか）	
	第14回	認知症の理解（評価・目標）	
	第15回	認知症の作業療法の実際、まとめ	
教科書	1. 標準作業療法学 高齢期作業療法学第3版 医学書院(著) 2. 日本作業療法士協会 映像教材		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修アドバイス	① 配布資料をipad内のクラスルームに添付しますので毎回必ず持参してください。②タッチペンなどの周辺機器を準備してください。③10回目、15回目は「まとめ」をします。配布資料をすべて持参してください。		

科目名		地域作業療法治療学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	吉田 恭子	
目標	総合	地域リハビリテーションの理念や現状を学び、作業療法士の役割を理解する。		
	行動	①地域社会で生活するための環境要因を列举で社会保障制度などを理解する ②各疾患に併せた地域支援・作業療法の役割を列举し理解する。 ③生活行為向上マネジメントの概要や考え方について学習し、模擬患者を通して演習シートを用いマネジメントができる		
講義計画	第1回	0		
	第2回	0		
	第3回	0		
	第4回	0		
	第5回	0		
	第6回	0		
	第7回	0		
	第8回	0		
	第9回	0		
	第10回	0		
	第11回	社会情勢の変化と法改正② 精神障害領域		
	第12回	精神科作業療法における地域作業療法①		
	第13回	精神科作業療法における地域作業療法②		
	第14回	精神科作業療法における地域作業療法③		
	第15回	まとめ		
教科書	その他参考図書：①社会福祉概論 中央法規 ②事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会（著） <small>③配布資料 ④作業療法士と地域社会 生活行為向上マネジメント改訂第2版</small>			
授業方法	講義			
評定方法	・筆記試験（期末試験90%）， ・まとめ資料修正・復習（10%） ・出席状況，授業態度			
履修アドバイス	① 症例に関しては個人情報に留意し、情報の取り扱いに気をつけること ② 15回目は、今まで配布した資料をすべて持参すること。			

科目名		実習Ⅳ（総合実習）		
履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	10単位/450	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0	
目標	総合	①指導者の元で対象者に必要な評価技能を身につける ②対象者の改善課題の整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける ③プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける		
	行動	実習指導者をモデルとし、その臨床技能の真似ができ汎化できること、および実習指導者の臨床家庭を理解し解説できる		
講義計画	第1回	0		
	第2回	0		
	第3回	0		
	第4回	0		
	第5回	0		
	第6回	0		
	第7回	0		
	第8回	0		
	第9回	0		
	第10回	0		
	第11回	0		
	第12回	0		
	第13回	0		
	第14回	0		
	第15回	0		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		実習Ⅴ（総合実習）	
履修時期	作業療法学科 昼間主 3年生	単位/時間数	8単位/360
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0
目標	総合	①対象者の改善課題の整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける ③プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける ④プログラム効果を判定する能力を身につける	
	行動	実習指導者をモデルとし、その臨床技能の真似ができ汎化できること、および実習指導者の臨床家庭を理解し解説できる	
講義計画	第1回	0	
	第2回	0	
	第3回	0	
	第4回	0	
	第5回	0	
	第6回	0	
	第7回	0	
	第8回	0	
	第9回	0	
	第10回	0	
	第11回	0	
	第12回	0	
	第13回	0	
	第14回	0	
	第15回	0	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		リハビリテーションセミナー	
履修時期	作業療法学科 昼間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	その他	必選区分	必修
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	0
目標	総合	対象者との関わりを通して、作業療法の実際を理解し、プランニングすることができる。	
	行動	<認知領域（知識）> ①疾患特性や、地域で活用できる各種制度の理解を深める。 <情意領域（習慣・態度）> ①各回のテーマに沿った資料・教科書を準備する ②グループメンバーの意見を取り入れ、またアドバイスしあうことができる。ことができる。 ③調べ学習の時間では、自分の担当について責任をもって取り組める。	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	オリエンテーション	
	第3回	疾患学習①脊損とは	
	第4回	疾患学習②脊損の作業療法	
	第5回	評価立案①評価の選択・目的を考える	
	第6回	評価立案②評価の実技練習	
	第7回	評価実施①各評価の実施	
	第8回	評価実施②評価のまとめ、情報共有	
	第9回	グループワーク①各グループのテーマを決定する	
	第10回	グループワーク②各グループでスケジュールをたてる	
	第11回	グループワーク③地域で使える各種制度を調べる	
	第12回	グループワーク④地域で使える各種制度を調べる	
	第13回	グループワーク⑤現場検証など	
	第14回	グループワーク⑥現場検証など	
	第15回	報告会	
教科書	必要な教科書		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	報告会		
履修 アドバイス	・対象者に関しては個人情報に留意し、情報の取り扱いに気をつけること ・リスク管理に気を付けること		

科目名		基礎総合	
履修時期	作業療法学科 昼間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	その他	必選区分	必修
科目主担当	天久 藍	科目副担当	澤田祥子・伊佐綾乃
目標	総合	3科目（生理・運動・解剖）の知識を深めることができる。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①解剖学の知識を深めることができる②生理学の知識を深めることができる③運動学の知識を深めることができる&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;④グループ学習に必要な準備をし、積極的に参加することができる⑤グループ学習法を身につけ、学習効果を高めることができる&lt;技能領域（技術）&gt;⑥必要に応じ教科書を調べ、答えを導くことができる</p>	
講義計画	第1回	骨・関節について(解剖学)	
	第2回	骨・関節について(解剖学)	
	第3回	骨・関節について(解剖学)	
	第4回	骨・関節について(解剖学)	
	第5回	消化と吸収について（生理学）	
	第6回	消化と吸収について（生理学）	
	第7回	呼吸器について（生理学）	
	第8回	筋について（運動学）	
	第9回	筋について（運動学）	
	第10回	筋について（運動学）	
	第11回	筋について（運動学）	
	第12回	神経について（解剖学）	
	第13回	神経について（解剖学）	
	第14回	神経について（解剖学）	
	第15回	神経について（解剖学）	
教科書	標準 解剖学、系統看護学講座 解剖生理学、基礎運動学		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	課題		
履修アドバイス	基礎3科目(解剖・生理・運動学)を理解するための講義です。日頃の講義にもしっかり参加しましょう。		

科目名		情報処理	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0
目標	総合	在学中の専門課程や卒業後の就職先においてコンピュータを活用するためのWord、Excel、PowerPointの基礎を習得することができる。基本的な研究方法論・基本の統計法を理解し、研究計画を立てられるようになること	
	行動	①作業療法の専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を習得する②作業療法効果の明示方法を理解する③課題物作成に必要なMicrosoft Officeの基本的な操作方法を理解する④文献レビューを実施し、研究論文を読み解くことができる⑤Microsoft officeを使い、情報を視覚化し、伝える技術を身に着ける	
講義計画	第1回	タブレット操作方法①（グーグル機能について）	
	第2回	タブレット操作方法②（Goodnoteについて）	
	第3回	Microsoft Office ～ word の使い方について①～	
	第4回	Microsoft Office ～ word の使い方について②～	
	第5回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について①～	
	第6回	Microsoft Office ～ Excel の使い方について②～	
	第7回	Microsoft Office ～ Power Point の使い方について～	
	第8回	研究とは？ 気になること・疑問に思うことは何？	
	第9回	文献検索とレビューについて 先行研究の探し方	
	第10回	グループディスカッション	
	第11回	作業療法の効果判定について 統計のお話し①（基本統計）	
	第12回	作業療法の効果判定について 統計のお話し②（群間比較）	
	第13回	作業療法の効果判定について 統計のお話し③（多重比較）	
	第14回	作業療法の効果判定について 統計のお話し④（相関関係）	
	第15回	グループ発表	
教科書	適宜配布標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論（医学書院）		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	レポート課題・成果物 80%、講義受講状況20%		
履修アドバイス	PC操作に慣れ、情報の整理ができるよう日頃からタブレットPCに触れていきましょう		

科目名		医学英語	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーション・作業療法場面で使用する医学英単語を理解し、簡単な表現を理解し活用する事ができる。	
	行動	医療現場で、使用する英単語、表現を理解し、使用の習慣化を図る。 興味・関心がある医学英語資料を調べ、グループでパワーポイントを用い行える。 英語を学ぶことを通して世界のリハビリテーション、作業療法に関心を持つことができる。	
講義計画	第1回	Orientation	
	第2回	Various medical courses / Medical English words Name of body part	
	第3回	Check Medical English words (Mini test) ①Posture and position /Plane and direction	
	第4回	Check Medical English words (Mini test) ②Range of motion(ROM)	
	第5回	Check Medical English words (Mini test) ③The structure of the human body(The skeleton)	
	第6回	Check Medical English words (Mini test) ④English words that are used in the state of health	
	第7回	Check Medical English words(Mini test) ⑤English words that are used in the state of disease	
	第8回	Check Medical English words(Mini test)⑥Disease, Disorder, Pathological condition(Definition)	
	第9回	Check Medical English words(Mini test)⑦Disease, Disorder, Pathological condition(Definition)	
	第10回	Check Medical English words (Mini test) ⑧Medical abbreviations	
	第11回	Check Medical English words (Mini test) ⑨Global medical and rehabilitation field and its development	
	第12回	Explain how to make a presentationPrepare presentation (each groups)	
	第13回	generalization Final Report	
	第14回	Check Medical English words (Mini test) ⑩Presentation by group①	
	第15回	Presentation by group②generalization	
教科書	Distribution prints / Movies (Title undecided) / Dictionary		
授業方法	Lectures		
評定方法	INI Examination①~⑩ (35%) Final Report & Presentation with English (25%)		
履修アドバイス	To deepen your knowledge by taking mini examination at the beginning of the lecture. At medical field, It is so many English abbreviations, so let's be able to use and write		



科目名		実践コミュニケーション		
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	宗像 暁美	科目副担当	0	
目標	総合	<p>「人と関わることは楽しい」と思うことができる。</p> <p>「人間関係を通じて、自分が成長できた」と思えるコミュニケーションが取れる。</p> <p>心と心の通じ合いによる、あたたかな人間関係を目指す。</p>		
	行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良質なコミュニケーションがもたらす人間関係が、医療従事者として必要なことを理解する</li> <li>・社会的マナーを基礎として、医療従事者としてのコミュニケーションに発展させる</li> <li>・標準的なスキルをもとに、TPOに応じた対応を考えることができる</li> </ul>		
講義計画	第1回	オリエンテーション コミュニケーションとは		
	第2回	自己理解を深める		
	第3回	コミュニケーション力を高める（非言語コミュニケーション）		
	第4回	コミュニケーション力を高める（言語コミュニケーション）		
	第5回	コミュニケーション力を高める（聞く力）		
	第6回	コミュニケーション力を高める（実践・面接）		
	第7回	対人関係技能（頼む）		
	第8回	対人関係技能（断る）		
	第9回	感情コントロール（不安）		
	第10回	感情コントロール（怒り）		
	第11回	対人関係技能（相手の気持ちを考える）		
	第12回	対人関係技能（相手への気遣い）		
	第13回	社会に必要なコミュニケーション能力（学校・日常場面）		
	第14回	社会に必要なコミュニケーション能力（社会人としてのマナー）		
	第15回	統括		
教科書	・PTOTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド第二版 山口美和（医			
授業方法	講義、演習、グループワーク			
評定方法	授業参加の姿勢（50%）レポート課題（50%）			
履修アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言をしましょう</li> <li>・相手の意見を否定しないようにしましょう</li> <li>・新しいスキルを身につけ、自己理解を深めましょう</li> </ul>			

科目名		作業療法概論	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	上江洲 聖	科目副担当	0
目標	総合	作業療法の概要を理解し説明する事が出来る。	
	行動	<認知領域（知識）> ①「作業とは何か」を知り、作業療法の定義、原理、歴史を理解する ②リハビリテーションの関連性を理解し、諸外国、日本の作業療法の現状を理解する。 ③作業療法の理論を理解し、作業療法の対象者や領域を把握する。 <情意領域（習慣・態度）> ①作業療法士になるための教育体制を知り、求められる資質を理解する事で習慣化する ②多職種連携の重要性と作業療法のエビデンスを理解する	
講義計画	第1回	作業とは何か	
	第2回	作業療法の歴史(諸外国)	
	第3回	作業療法の歴史(日本)	
	第4回	世界のOT/日本のOT	
	第5回	作業療法の領域・他職種連携	
	第6回	EBMとOT	
	第7回	作業療法の過程	
	第8回	医療福祉制度	
	第9回	作業療法の実際①精神障害分野におけるOT	
	第10回	作業療法の実際②身体障害分野におけるOT	
	第11回	作業療法の実際③高齢期分野におけるOT	
	第12回	作業療法の理論	
	第13回	作業療法の実際④「作業」について	
	第14回	作業療法の管理運営、記録と報告	
	第15回	まとめ	
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第3版 (医学書院)		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	① 筆記試験：80%②授業態度：10%③提出課題：10%		
履修 アドバイス	0		

科目名		作業療法評価法 I		
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0	
目標	総合	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。		
	行動	作業療法評価（身体領域・精神領域）の主要評価項目について説明し、理解することができる。また、形態測定・血圧測定においては、スムーズに計測することができる。		
講義計画	第1回	評価とは？作業療法の過程・情報収集段階・評価の目的と主眼①評価の手順・手段		
	第2回	実施上の留意点・評価のまとめと問題点・治療目標の設定②治療・指導・援助計画の		
	第3回	再評価・作業療法の効果		
	第4回	効果判定の方法・フォローアップ		
	第5回	意識の評価およびバイタルサインの測定		
	第6回	臨床検査の検査値の読み方・効果判定・治療への示唆		
	第7回	面接・観察法観察の種類～効果判定		
	第8回	形態計測、身体機能の検査測定に共通する項目・携帯測定の意味		
	第9回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地		
	第10回	形態計測の基準点・指標・種類、形態計測実地		
	第11回	まとめ		
	第12回	面接について①自己紹介		
	第13回	面接について②作業療法の説明		
	第14回	面接について③インタビュー面接		
	第15回	面接について④対象者にとっての作業		
教科書	①標準作業療法学 作業療法評価学 第3版			
授業方法	講義、演習			
評定方法	①筆記試験 : 90% ②実技テスト（血圧測定・形態測定） : 1			
履修アドバイス	①作業療法評価学 I は、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科目もありますが、前期科目であやふやな知識については、改めて学びなおし（復習）し、授業に参加して下さい。必要に応じて、教科書を持参して下さい。②第 1			

科目名		作業療法評価法Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修	
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0	
目標	総合	各検査・測定目的を理解し、かつ、それを説明できる。また、注意事項を守りながら、実施できる。		
	行動	<認知領域 ～知識～ > ①各検査の目的を知る。 ②各検査の種類を知り、実施手順を説明できる。 ③各検査に使用する道具、または必要な道具を答えることができる。 ④各検査実施時の注意事項を知る。 <情意領域 ～態度・習慣～ > ①各検査で使用する道具の準備や、操作について知り、理解することができる。		
講義計画	第1回	関節可動域測定①目的、方法の説明・肩甲帯・肩関節 実技練習		
	第2回	関節可動域測定②肘関節・手関節 実技練習		
	第3回	関節可動域測定③手指・頸部・体幹 実技練習		
	第4回	関節可動域測定④上肢のまとめ		
	第5回	関節可動域測定⑤ 股関節・膝関節・足部 実技練習		
	第6回	関節可動域測定⑤ 下肢まとめ		
	第7回	関節可動域測定⑥記録の方法・効果判定について		
	第8回	感覚検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第9回	感覚検査②実技練習・記録練習		
	第10回	腱・表在・病的反射検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第11回	腱・表在・病的反射検査②練習・記録練習		
	第12回	姿勢反射検査・リーチ①目的の説明・実施方法の説明		
	第13回	姿勢反射検査・リーチ②実技練習・記録練習		
	第14回	筋緊張検査①目的の説明・実施方法の説明		
	第15回	筋緊張検査② 実技練習・記録練習		
教科書	標準作業療法学第3版 作業療法評価学理学療法評価学 第5班			
授業方法	講義・実技			
評定方法	実技試験40%、筆記試験60%			
履修アドバイス	①解剖・運動・生理学を基礎とし、身体の評価を行います。基礎の復習を行い、基本評価項目の習得に取り組んで下さい。 ②作業療法評価学Ⅱは、下記のような位置づけになっています。現在学んでいる科			

科目名		作業療法評価法Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0
目標	総合	各評価の項目における必要な基礎知識をもって、評価が実施できる。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;徒手筋力検査・脳神経検査・ADL評価・協調性検査・上肢機能検査の意義と目的および実施方法について説明できる。&lt;情意領域（週間・態度）&gt;書く検査に必要な道具の扱いや物品の管理ができる。書く検査を安全にじっしできるように配慮できる。検査測定実施時に、模擬患者へのメモの確認やインフォームドコンセントが行える。&lt;技能領域&gt;各検査を実施できる。また道具や環境についても適切に扱うことができる。</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション・脳神経検査①	
	第2回	脳神経検査②	
	第3回	協調性検査①	
	第4回	協調性検査② ～実技練習～	
	第5回	徒手筋力検査① ～肩甲帯・上肢の実技練習～	
	第6回	徒手筋力検査② ～上肢の実技練習～	
	第7回	徒手筋力検査③ ～上肢・手の実技練習～	
	第8回	徒手筋力検査④～体幹の実技練習～	
	第9回	徒手筋力検査⑤ ～下肢の実技練習～	
	第10回	徒手筋力検査⑥ ～下肢の実技練習～	
	第11回	ADL評価① ～評価の目的～	
	第12回	ADL評価② ～ADL評価の種類～	
	第13回	ADL評価③ ～観察・記録練習～	
	第14回	上肢機能検査① ～意義・目的・種類～	
	第15回	上肢機能検査② ～実技練習～	
教科書	①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5班③新・徒手筋力検査		
授業方法	講義・実技		
評定方法	実技試験、筆記試験、中間テスト		
履修アドバイス	①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。		

科目名		運動学 I	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	鈴木 啓	科目副担当	0
目標	総合	①正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ②筋の起始・停止・神経支配を知り、走行や位置関係を理解することが出来る。	
	行動	<認知領域(知識)> ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ②各筋の位置関係を知ることが出来る。 ③各筋の起始・停止・走行・神経支配を知ることが出来る。 ④身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 <情意領域(習慣・態度)> ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②教科書以外の資料も参考にしながら、各筋の特徴を覚える。 <技能領域(技術)> ①自身の体やクラスメイトの体で筋の位置を確認することが出来る。 ②基本的な運動器を触診できる。	
講義計画	第1回	運動学の定義(運動学とは、運動学の歴史)	
	第2回	生体力学の基礎(肢位、面と軸、運動方向)	
	第3回	運動器の構造と機能①(骨の構造と機能・関節の構造と機能)	
	第4回	運動器の構造と機能②(腱および靭帯の構造と機能・骨格筋)	
	第5回	上肢帯の運動学と筋	
	第6回	肩周囲の運動学と筋①	
	第7回	肩周囲の運動学と筋②	
	第8回	肩周囲の運動学と筋③	
	第9回	肘関節・前腕の運動と筋①	
	第10回	肘関節・前腕の運動と筋②	
	第11回	手関節・手指の運動と筋①	
	第12回	手関節・手指の運動と筋②	
	第13回	手関節・手指の運動と筋③	
	第14回	手関節・手指の運動と筋④	
	第15回	まとめ	
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版 【参考書】標準理学療法・作		
授業方法	講義・演習・グループワーク		
評定方法	・筆記試験・課題		
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。		

科目名		運動学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0
目標	総合	①生体力学の基礎を身につけ、運動器や神経系の構造と機能を理解する。 ②正常な身体構造と運動機能との関連を理解する。 ③理学療法や作業療法に重要な、身体構造と運動機能との異常を分析する方法を学ぶ。	
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; ①身体運動と作用する力との基本的な関係を理解する。 ③運動器の</p> <p>②身体の運動を記述する基本的な方法を把握する。 ④運動学的視点から運動器を理解する。 ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②教科書以外の資料も参考にしながら、各筋の特徴を覚える。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt; ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的な運動器を触診できる。</p>	
講義計画	第1回	下肢帯の運動学と筋	
	第2回	股関節の運動学と筋①	
	第3回	股関節の運動学と筋②	
	第4回	膝関節の運動と筋①	
	第5回	膝関節の運動と筋②	
	第6回	まとめ	
	第7回	足関節と足部の運動と筋①	
	第8回	足関節と足部の運動と筋②	
	第9回	体幹の運動学と筋①（頸部・胸部・腰部）	
	第10回	体幹の運動学と筋②（頸部・胸部・腰部）	
	第11回	体幹の運動学と筋③（頸部・胸部・腰部）	
	第12回	頭部・顔面の運動と筋	
	第13回	歩行と走行①（重心移動と体節回旋・下肢の角度変化・歩行時の上肢の運動）	
	第14回	歩行と走行②（歩行時のエネルギー代謝、小児、高齢者の歩行、歩行の神経機構、異	
	第15回	まとめ	
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版		【参考書】PT
授業方法	講義・演習・グループワーク		
評定方法	・筆記試験・課題		
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。		

科目名		運動学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	0	
目標	総合	①人の運動分析項目を知り、様々な姿勢の重心変化について理解することができる。また、その運動の学習について、理論をもとに説明することができる。		
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; ①運動と動作の分析について理解できる。</p> <p>②姿勢について理解できる。 ③歩行と走行について理解できる。</p> <p>④運動学習について理解できる。 ⑤力が与える作用を、量的な表現である仕事やエネルギーなどの概念を用いて説明できる。⑥関節運動を回転運動としてとらえ、その作用を説明できる。 &lt;情意領域（習慣・態度）&gt; ①人間の基本的な運動に対して興味を示し、自ら学ぶ姿勢を身につける。 ②基本的な運動器を触診できる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt; ①人間の行為を運動学的視点で観察できる。 ②基本的</p>		
講義計画	第1回	筋収縮・神経系（筋収縮の様態、運動単位、末梢神経・シナプス・中枢神経）		
	第2回	運動の中樞神経機構①（反射運動・脊髄反射・姿勢と立ち直り反射）		
	第3回	運動の中樞神経機構②（姿勢保持・随意運動）		
	第4回	姿勢①（姿勢とその制御、重心、立位の安定性、姿勢の記載と類型）		
	第5回	姿勢②（立位姿勢と異常について）		
	第6回	身体とてこ		
	第7回	起居動作・立ち上がり（動作分析）		
	第8回	体力と運動処方①（身体運動のエネルギー代謝）		
	第9回	体力と運動処方②（運動処方）		
	第10回	運動学習①（学習と記憶・運動機能とパフォーマンス）		
	第11回	運動学習②（運動学習の理論）		
	第12回	運動学習③（練習と訓練）		
	第13回	生体力学の基礎①（加速度・ベクトル・モーメント）		
	第14回	生体力学の基礎②（運動法則・てこ・骨と関節の運動）		
	第15回	まとめ		
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版		【参考書】PT	
授業方法	講義・演習・グループワーク			
評定方法	・筆記試験・課題			
履修アドバイス	運動学は、人間の心身の機構を科学的に分析する学問であり、基礎医学から臨床や保健福祉に至るまで幅広い分野の基礎となります。臨床医学を考察する際の基盤となります。			



科目名		人間発達学	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0
目標	総合	作業療法介入の基礎となる、ヒトの生涯発達について概説できる	
	行動	①発達段階について説明できる ②発達理論を理解し、ヒト（対象者）の発達過程における問題を想像することができる ③乳幼児期における姿勢反射・反応および運動発達について説明できる ④乳幼児期における認知（感覚・知覚）・社会性（ADL・遊び等）の発達について説明できる ⑤各年齢における運動・認知・社会性の発達について説明できる ⑥発達領域における検査の目的を理解し、各検査道具の特徴を説明できる ⑦学習した発達段階から各段階にそった遊びを立案することができる	
講義計画	第1回	発達概念	
	第2回	発達理論	
	第3回	乳幼児期：姿勢反射・反応	
	第4回	乳幼児期：運動発達1	
	第5回	乳幼児期：運動発達2	
	第6回	姿勢反射・反応と6歳までの発達	
	第7回	乳幼児期：上肢機能の発達	
	第8回	乳幼児期：感覚・知覚・認知・社会性の発達	
	第9回	乳幼児期：日常生活活動(ADL)の発達	
	第10回	学童・青年・成人・老年期の発達1	
	第11回	学童・青年・成人・老年期の発達2	
	第12回	発達検査	
	第13回	グループ学習（各段階にそった遊びの企画）	
	第14回	グループ学習（各段階にそった遊びの企画）	
	第15回	あそびについて発表	
教科書	イラストでわかる人間発達学		
授業方法	講義・グループワーク		
評定方法	グループ学習（発表+課題）20%小テスト×4回 40%期末試験 40%		
履修アドバイス	子どものリハビリテーションの基礎となりますので、きちんと習得できるよう、すべての講義を受けれるようにしましょう。グループワークでは積極的に参加し、内容をきちんと把握しましょう。		

科目名		精神医学	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	大城 圭
目標	総合	主要な精神疾患を知る。	
	行動	①主要な精神疾患の症状・発症契機・予後について知ることができる。 ②一般的な精神科の治療方法について知ることができる。 ③各症状について説明することができる。	
講義計画	第1回	1章：総論（精神医学とは）	
	第2回	3章：総論（精神機能とその異常）	
	第3回	8章：精神医療と社会	
	第4回	10章：統合失調症	
	第5回	19章：脳器質性精神障害（認知症など）	
	第6回	20章：てんかん	
	第7回	5章：精神医学的診察と診断7章：コンサルテーション・リエゾン	
	第8回	23章：症状精神病	
	第9回	9.22章：発達障害/精神遅滞/心理発達など	
	第10回	18章：物質関連商連・アルコール	
	第11回	11.12章：気分障害（12章双極・11章うつ）	
	第12回	13～15章：神経症性障害	
	第13回	2.6.17章脳科学と精神医学/摂食障害/睡眠覚醒障害	
	第14回	21章：パーソナリティ障害	
	第15回	6章：精神科治療学	
教科書	標準精神医学 第8版		
授業方法	講義		
評定方法	期末筆記試験		
履修アドバイス	精神科領域に限らず、身体障害領域でも精神疾患を合併している対象者は多くいます。必ず主要疾患の理解と、一般的な治療方法は理解しておくこと。		

科目名		リハビリテーション概論Ⅰ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0
目標	総合	自律した作業療法士になるため、社会人としての必要なマナーと臨床現場で使えるコミュニケーションスキルについて身に付ける。	
	行動	①自分自身を客観的に分析し、良い部分や改善が必要な部分を具体的に述べる事ができる。 ②作業療法士に必要な専門用語や社会人として必要な敬語を使いコミュニケーションを取ることができる。 ③社会人として必要な態度・姿勢・規律を理解し、実践する。 ④国家試験に出題される医学用語について理解する。	
講義計画	第1回	リハビリテーションの定義と歴史・領域リハビリテーションの理念・成り立ちなど	
	第2回	リハビリテーションの定義と歴史・領域医療・保健・福祉・介護について	
	第3回	リハビリテーションマインドと関連法規① 医療安全対策・感染対策・個人情報保護	
	第4回	リハビリテーションマインドと関連法規② その他リハビリテーションに関連する法	
	第5回	障害分類について① ICD・ICIDH・ICFについて	
	第6回	障害分類について② 国際生活機能分類について	
	第7回	ADLの概念と阻害因子①	
	第8回	ADLの概念と阻害因子②	
	第9回	障害につながる疾患概要①	
	第10回	障害につながる疾患概要②	
	第11回	障害につながる疾患概要③	
	第12回	障害につながる疾患概要④	
	第13回	臨床でのコミュニケーション① 医療面接の基本とテクニック	
	第14回	臨床でのコミュニケーション②クリニカルパスについて	
	第15回	まとめ	
教科書	・配布資料		
授業方法	講義・グループワーク・発表		
評定方法	・課題の提出状況、課題の内容 ・期末試験		
履修アドバイス	リハビリテーションに関する基本的内容を理解する科目となります。作業療法に関わる上で重要なものが多いため、積極的に学習へ取り組んで下さい。		

科目名		基礎作業学 I	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	矢内 和香	科目副担当	0
目標	総合	・作業療法における「作業」の重要性を理解する	
	行動	<認知領域（知識）> ・作業療法における「作業」の定義を説明することができる ・ひとの暮らしにおける「作業」の種類を理解することができる ・作業分析の概要（分析の意味、分析項目、分析方法）を理解することができる ・全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる ・作業種目が持つ特性（身体、精神、発達側面）を理解する <情意領域（習慣・態度）> ・各作業実践時に、分析シートに繋がる項目を見ながら実践できる。 ・円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる	
講義計画	第1回	「作業」とは / ひとと作業とは 作業・生活行為・分類など	
	第2回	分析項目について ペドレッティの分析項目	
	第3回	分析項目について ペドレッティの分析項目	
	第4回	作業・工程分析をやってみよう！	
	第5回	作業実践と分析アンデルセン手芸	
	第6回	アンデルセン手芸の作業・工程分析をやってみよう！	
	第7回	作業実践と分析裁縫（雑巾縫い）	
	第8回	裁縫（雑巾縫い）の作業・工程分析をやってみよう！	
	第9回	作業実践と分析e-sports（ぷよぷよ）	
	第10回	e-sports（ぷよぷよ）の作業・工程分析をやってみよう！	
	第11回	作業実践と分析 調理	
	第12回	調理の作業・工程分析をやってみよう！	
	第13回	作業実践と分析 散歩	
	第14回	散歩の作業・工程分析をやってみよう！	
	第15回	まとめ	
教科書	①作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版		②他必要資
授業方法	講義・演習・課題作成		
評定方法	各作業種目の作業分析課題提出状況60% 内容40%		
履修アドバイス	作業を知るには、体験することが最も重要です。積極的に取り組み、それぞれの作業特性を理解することに努めましょう。		

科目名		基礎作業学Ⅱ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 1年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0
目標	総合	・作業種目を包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。また、作業種目の特性を理解し適応可能な対象疾患を列挙することができる。	
	行動	<認知領域（知識）> ①全領域（身体、精神、発達等）において、項目に沿った分析を列挙することができる ②作業種目が持つ特性（身体、精神、発達側面）を理解する ③疾患別、障害別の作業活動の有効性、禁忌事項を理解する <情意領域（習慣・態度）> ①作業課題のリスク管理ができる ②セラピストとして、安全管理、作業介入ができる ③円滑な対人交流を図りながら課題に取り組むことができる <技能領域（技術）> ①分析シートを用いて、各作業の特性とその理由について、分析内容を書き出すことができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション・集団活動	
	第2回	集団活動の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）	
	第3回	手工芸（編み物、塗り絵、ビーズ）	
	第4回	手工芸（編み物、塗り絵、ビーズ）の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）	
	第5回	オリエンテーション・革細工	
	第6回	革細工の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）	
	第7回	木工（本棚作り）	
	第8回	木工（本棚作り）	
	第9回	木工（本棚作り）	
	第10回	木工（本棚作り）の作業分析（分析と治療適応用例の検討）	
	第11回	園芸	
	第12回	園芸の作業分析（分析と類似する生活動作の検討）	
	第13回	作業の治療適応用に関連する国試問題の解答・解説①	
	第14回	作業の治療適応用に関連する国試問題の解答・解説①	
	第15回	まとめ	
教科書	①作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 ②他必要資		
授業方法	講義・演習・課題作成		
評定方法	各作業種目の作業分析課題提出状況60% 内容40%		
履修アドバイス	作業を治療的に応用するうえで必要な知識を得るための科目です。体験する作業と類似する生活動作やどのような疾患に治療適応用が可能かを考えていきましょう。		

科目名		作業療法管理学	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	上江洲 聖	科目副担当	0
目標	総合	・ADLを包括的（行程や道具、運動機能や感覚・知覚機能、精神・認知機能、対人交流やリスク管理など）に分析することができる。	
	行動	組織の役割を理解する チーム医療の役割を理解する 各種制度を理解する 各種管理を理解する	
講義計画	第1回	作業とは何か	
	第2回	作業療法の歴史（諸外国・日本）	
	第3回	世界の作業療法と日本の作業療法	
	第4回	作業療法の領域・他職種連携について	
	第5回	EBMとOT	
	第6回	作業療法の過程	
	第7回	医療福祉制度	
	第8回	作業療法の実際① ～発達領域におけるOT～	
	第9回	作業療法の実際② ～精神領域におけるOT～	
	第10回	作業療法の実際③ ～身体領域におけるOT～	
	第11回	作業療法の実際④ ～高齢期におけるOT～	
	第12回	作業療法の実際⑤ ～教育現場におけるOT～	
	第13回	作業療法の理論	
	第14回	作業療法の実際⑥ ～作業について～	
	第15回	作業療法の管理運営・記録と報告	
教科書	作業療法管理学（中山書店）リハビリテーション管理学（医学書院）		
授業方法	講義 報告会 グループワーク		
評定方法	筆記試験 報告会 グループワーク プレゼンテーション		
履修 アドバイス	0		

科目名		作業療法評価法Ⅳ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	0	
目標	総合	ADLの理念・概要を理解する。標準化されたADL評価法を理解し、評価を実施することができる。高次脳機能障害の基礎となる脳解剖やメカニズムを理解し、高次脳機能障害における観察・検査・測定が実施できる。		
	行動	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;①標準化されたADL評価法の概要や各項目を理解することができる。また精神領域におけるADL評価の意義や目的を説明できる。②片麻痺機能の神経生理学的な機序を理解し、検査の意義目的を説明できる。③高次脳昨日検査に必要な脳解剖や画像診断の見方を修得し、各症状の定義やメカニズムを理解することができる</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;①各検査の観察・検査・測定に必要な道具を準備することができる。②安全かつ検査・測定に適した環境を設定し実施することができる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;①標準化されたADL評価法を実施することができる。また、精神領域のADLに</p>		
講義計画	第1回	ADLの評価について① ～1年時の復習～		
	第2回	ADL評価について② ～精神領域のADL評価～		
	第3回	ADL評価について③ ～精神領域のADL評価～		
	第4回	ADL評価について④ ～まとめ～		
	第5回	片麻痺上肢機能検査① ～意義・目的～		
	第6回	片麻痺上肢機能検査② ～実技練習～		
	第7回	片麻痺上肢機能検査③ ～実技練習～		
	第8回	高次脳機能障害の評価① ～高次脳機能障害とは～		
	第9回	高次脳機能障害② ～注意障害～		
	第10回	高次脳機能障害③ ～記憶障害～		
	第11回	高次脳機能障害④ ～失行～		
	第12回	高次脳機能障害⑤ ～失認～		
	第13回	高次脳機能障害⑥ ～空間無視・身体無視～		
	第14回	高次脳機能障害⑦ ～失語～		
	第15回	高次脳機能障害⑧ ～遂行機能障害・社会的行動障害・認知機能検査～		
教科書	①標準作業療法学第3版 作業療法評価学②理学療法評価学 第5版③新・徒手筋力検査			
授業方法	講義・実技			
評定方法	実技試験、筆記試験、中間テスト			
履修アドバイス	①事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行ってください。②実技の復習を必ず行ってください（実技試験あり）。			

科目名		身体作業治療学 I	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	澤田祥子	科目副担当	0
目標	総合	身体機能作業療法学の基礎知識を習得し、各治療原理を説明することができる	
	行動	<認知領域（知識）> ①身体機能治療の目的を述べることができる。 ②作業療法の過程を説明でき、トップダウンとボトムアップについて述べることができる。 ③各回の主題について、必要な知識を説明することができる。 <情意領域（習慣・態度）> ①資料と教科書の主要ポイントに印を入れることができる ②各回の実技時に、ポイントをメモし、練習時に確認することができる。	
講義計画	第1回	情報提示① ～一般情報・医学的情報から初期評価プラン立案～	
	第2回	初期評価プランの立案	
	第3回	評価実技練習	
	第4回	評価実技練習	
	第5回	評価実技練習	
	第6回	評価実技 ～スキルチェック～	
	第7回	情報提示② ～評価結果から治療目標および治療プラン立案～（フォーマットに沿って）	
	第8回	治療プラン立案 ～評価結果から治療目標および治療プラン立案～（フォーマットに沿って）	
	第9回	治療プラン立案	
	第10回	治療プラン立案（実施）	
	第11回	情報提示① ～一般情報・医学的情報～	
	第12回	初期評価計画立案	
	第13回	評価実技練習	
	第14回	情報提示② ～評価結果～	
	第15回	治療プラン立案	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		



科目名		身体作業治療学Ⅲ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0	
目標	総合	変性・脱髄疾患、内部疾患、ターミナル等の評価から治療までの流れを把握し、治療計画立案について理解することができる		
	行動	①各疾患の病態及び予後について説明できる ②各疾患の評価について説明できる。 ③各疾患の作業療法目標、治療、対象者が地域生活・社会参加のための方法について知ることができる。 ④基本的な介入について、国家試験を題材とした対象者について考えることができる。		
講義計画	第1回	神経筋疾患の作業療法①	多発性硬化症 (MS)	
	第2回	神経筋疾患の作業療法②	ギラン・バレー症候群 (GBS)	
	第3回	神経筋疾患の作業療法③	筋ジストロフィ (MD)	
	第4回	神経変性疾患の作業療法①	パーキンソン病 (PD)	
	第5回	神経変性疾患の作業療法②	脊髄小脳変性症 (SCD)	
	第6回	神経変性疾患の作業療法③	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	
	第7回	内部疾患の作業療法①	心疾患 (心臓の機能解剖・心電図)	
	第8回	内部疾患の作業療法②	心疾患 (心疾患と作業療法1)	
	第9回	内部疾患の作業療法③	心疾患 (心疾患と作業療法2)	
	第10回	内部疾患の作業療法④	呼吸器疾患 (呼吸器の解剖生理・疾患学)	
	第11回	内部疾患の作業療法⑤	呼吸器疾患 (作業療法・喀痰吸引)	
	第12回	内部疾患の作業療法⑥	糖尿病	
	第13回	悪性腫瘍疾患の作業療法①	OPE後対応	
	第14回	悪性腫瘍疾患の作業療法②	ターミナルケア	
	第15回	まとめ		
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版作業療法学 ゴールド・マ			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修アドバイス	実習や国試、臨床に直結する授業です。分からないことは確実に理解する努力を行ってください。 事前学習を行うことでスムーズに進行が可能となるため、予め予習・復習を行って			

科目名		精神科作業治療学 I	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0
目標	総合	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する	
	行動	①精神科領域における治療概要を理解できる ②回復段階における作業療法の目的が理解でき、立案できるようになる ③各疾患の作業療法について説明・模擬実践できる	
講義計画	第1回	講義内容説明・回復過程について	
	第2回	治療過程治療構造・治療的態度、関わり方・集団について	
	第3回	認知行動療法精神科作業療法・精神科療養病棟の治療	
	第4回	疾患別作業療法①-1急性期統合失調症	
	第5回	疾患別作業療法①-1急性期統合失調症	
	第6回	疾患別作業療法①-3回復期・維持期統合失調症	
	第7回	疾患別作業療法①-4回復期維持期統合失調症	
	第8回	疾患別作業療法①気分障害	
	第9回	疾患別作業療法②てんかん	
	第10回	疾患別作業療法③パーソナリティ障害	
	第11回	疾患別作業療法④広汎性発達障害・知的障害	
	第12回	疾患別作業療法⑤神経性症障害	
	第13回	疾患別作業療法⑥摂食障害	
	第14回	疾患別作業療法⑦物質依存性障害	
	第15回	まとめ	
教科書	【教科書】 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践		
授業方法	講義		
評定方法	・グループ課題取り組み・課題提出 20%・期末試験 80%		
履修アドバイス	精神科実習での治療実践には必ず必要となる技術・知識となります。知識だけでなく、創造性も必要となるので、グループワークで他者の意見を吸収し、柔軟な思考にしていきましょう		

科目名		精神科作業治療学Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0	
目標	総合	精神科作業療法に関する概要や評価知識、技術を理解し、修得する		
	行動	①精神科分野における作業療法評価の目的を把握できる ②評価、面接、観察、情報収集を行える ③得られた情報から統合と解釈を行い、問題解決に向けたプログラム立案ができる		
講義計画	第1回	講義内容説明沖縄県における精神科医療及び作業療法の歴史と現状		
	第2回	精神科作業療法の領域と十字する場・入院形態・診療報酬		
	第3回	回復段階における作業療法の目的（急性期・回復期・維持期）		
	第4回	精神科における作業療法評価①（目的、手段、方法）		
	第5回	精神科における作業療法評価②（情報収集について）		
	第6回	精神科における作業療法評価③-1（行動観察）		
	第7回	精神科における作業療法評価③-2（評価ツール）		
	第8回	精神科における作業療法評価④-1（能力評価）		
	第9回	精神科における作業療法評価④-2（観察記録からの能力評価）		
	第10回	精神科における作業療法評価⑤-1（統合と解釈、問題点の抽出）		
	第11回	精神科における作業療法評価⑤-2（統合と解釈、問題点の抽出 実践）		
	第12回	精神科における作業療法評価⑥-1（目標設定プログラムと立案）		
	第13回	精神科における作業療法評価⑥-2（プログラム選択方法）		
	第14回	事例検討（初期評価実践）		
	第15回	まとめ		
教科書	【教科書】 生活を支援する 精神障害作業療法学 第2版 急性期から地域実践			
授業方法	講義			
評定方法	筆記試験			
履修 アドバイス				0

科目名		発達障害作業治療学 I	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	加藤 綾乃	科目副担当	0
目標	総合	小児における作業療法の基礎介入を理解し、各発達障害の特性と作業療法アプローチについて説明できる。 作業療法士国家試験問題程度の問題を解くことができる。	
	行動	①正常発達の理解をもとに、小児の作業療法の役割は何かを理解する ②発達理論やモデルに基づいた、小児の作業療法の評価・治療・援助の流れを理解する ③遊びの治療的意味や発達にとっての遊びの重要性を理解する ④各発達障害の特性について理解する ⑤発達に応じた評価や治療を選択することができる	
講義計画	第1回	小児の作業療法について	
	第2回	作業療法と人間発達、小児の生活と作業遂行とは	
	第3回	発達の基礎	
	第4回	心身機能の発達過程	
	第5回	心身機能の発達過程	
	第6回	評価・治療・援助の理論とモデル、発達評価	
	第7回	感覚統合理論とアプローチ	
	第8回	感覚統合理論とアプローチ	
	第9回	発達障害—広汎性発達障害1	
	第10回	発達障害—広汎性発達障害2	
	第11回	発達障害—注意欠如・多動症	
	第12回	発達障害—学習障害	
	第13回	摂食・嚥下について	
	第14回	発達に関する国家試験対策	
	第15回	まとめ	
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法		
授業方法	講義		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	人間発達学の知識を基本ベースに各疾患の特徴や基礎介入などを学んでいきます。講義の前半は人間発達学に関する事項を行います。必要に応じて人間発達学で使用した教科書等を持参してください。		

科目名		作業療法技術論Ⅱ		
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0	
目標	総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害領域における作業療法の実際を理解し、実践できる</li> <li>・内省的実践家として成長することができる</li> </ul>		
	行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①精神障害領域の統合失調症・認知症を主とした各疾患・回復段階（Sch）の特徴を説明でき、評価項目とその内容を説明できる。</li> <li>②実践を通して学んだことを他者と討議できる。</li> <li>③実践を通して作業療法評価(情報収集、各種面接)が実施でき面接に必要なコミュニケーションスキルを身に着ける。</li> </ul>		
講義計画	第1回	オリエンテーション精神科作業療法実践までの流れを説明		
	第2回	対象症例2疾患に必要な評価項目に関するグループワーク		
	第3回	PBL（統合失調症）多職種への情報収集に必要な内容・技術をまとめ発表		
	第4回	実技練習グループで多職種情報収集に関する練習を行う		
	第5回	PBL（統合失調症）インテーク面接に必要な情報を調べ発表		
	第6回	実技練習インテーク面接		
	第7回	PBL(認知症) インテーク面接に必要な情報を調べ発表		
	第8回	実技練習インテーク面接		
	第9回	PBL(認知症) 認知機能の検査（種類・適切なもの・方法など）について調べる		
	第10回	実技練習認知機能検査		
	第11回	実技練習		
	第12回	実技試験		
	第13回	実技練習		
	第14回	実技試験		
	第15回	まとめ/実技試験		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版標準作業療法学 専門分			
授業方法	講義			
評定方法	・実技試験（12～15回目実施）・講義終了後のリフレクションシート作成・最終の講			
履修 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します</li> <li>※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい</li> </ul>			

科目名		作業療法技術論Ⅲ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田恭子、西村昭宣	科目副担当	0
目標	総合	精神障がい領域および身体障がい領域における生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を活用した作業療法実践にむけたプロセスを理解し、マネジメントシート・レジュメ作成できる	
	行動	①MTDLPの概要を理解し、各シートの使用方法について理解し、作成する ②レジュメ作成(考察)が専門用語を用い作成できる ③ICFの分類について知ることができる	
講義計画	第1回	オリエンテーションMTDLP復習	
	第2回	症例確認(技術論ⅠのCVA症例) MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメント	
	第3回	精神科領域オリエンテーション	
	第4回	事例検討(担当事例は裏面参照) 事例の追加情報配布演習:生活行為聞き取りシート	
	第5回	症例検討MTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第6回	症例検討MTDLP:生活行為工程分析作成	
	第7回	グループワークMTDLP:生活行為聞き取りシート・アセスメントシート作成	
	第8回	グループワークMTDLP:生活行為工程分析作成	
	第9回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第10回	症例検討MTDLPプランシート作成	
	第11回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム	
	第12回	グループワーク①MTDLP:プラン演習シート・マネジメントシート作成※プログラム	
	第13回	症例検討レジュメ作成	
	第14回	症例検討レジュメ作成	
	第15回	演習レジュメ作成発表	
教科書	作業療法ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 2版標準作業療法学 専		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法	授業態度・課題提出・MTDLPマネジメントシート(グループ課題)・レジュメ A		
履修 アドバイス	※各自が真剣に取り組んだ分だけ、成長します ※実習や臨床に影響する科目ですので、積極的に取り組んで下さい		

科目名		作業療法技術論Ⅳ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 圭	科目副担当	0
目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける	
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる	
講義計画	第1回	共通認知症	
	第2回	共通運動学	
	第3回	共通運動学	
	第4回	共通高次脳機能障害	
	第5回	共通てんかん他	
	第6回	専門脊損・装具	
	第7回	専門運動学	
	第8回	専門脳血管障害・嚥下	
	第9回	共通生理学(消化器系)	
	第10回	共通気分障害	
	第11回	専門膠原病	
	第12回	専門物質依存	
	第13回	専門統合失調症	
	第14回	専門末梢神経障害	
	第15回	専門ADL評価	
教科書	1・2年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など理学療法士・作業療		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。		

科目名		作業療法技術論Ⅴ	
履修時期	作業療法学科 夜間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	西村 昭宣	科目副担当	0
目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける	
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる	
講義計画	第1回	共通中枢神経	
	第2回	共通統合失調症	
	第3回	共通整形外科学	
	第4回	共通整形外科学	
	第5回	共通末梢神経	
	第6回	専門切断・義肢	
	第7回	専門認知症	
	第8回	共通生理学循環器系	
	第9回	専門循環器系	
	第10回	専門自閉・ADHD	
	第11回	専門感覚・高次脳機能評価	
	第12回	専門感覚高次脳機能評価	
	第13回	共通神経症性障害	
	第14回	専門各種保険・PTOT法	
	第15回	専門神経症性障害	
教科書	1・3年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など理学療法士・作業療法士		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。		



科目名		作業療法技術論VI	
履修時期	作業療法学科 夜間主 3年生	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	吉田 恭子	科目副担当	0
目標	総合	国家試験に合格できる知識を身につける	
	行動	①各講義のテーマに関連する基礎・臨床知識を知ることができる ②各講義のテーマに関連する専門的治療方法について知ることができる ③グループワークにおいて、メンバーと協力して調べ共有することができる	
講義計画	第1回	共通精神医学総論	
	第2回	共通生理学(泌尿器)	
	第3回	共通生理学(循環器)	
	第4回	共通防衛機制	
	第5回	共通精神医学評価	
	第6回	共通解剖学	
	第7回	共通生理学(呼吸器)	
	第8回	共通アルコール依存症	
	第9回	専門生理学(呼吸器)	
	第10回	専門気分障害	
	第11回	共通人間発達学	
	第12回	専門RA・骨折	
	第13回	専門脳性まひ	
	第14回	専門発達OT	
	第15回	専門老年期・内科疾患	
教科書	1・4年次に使用してきた教科書、個人の参考書、配布資料など理学療法士・作業療法士		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	単位認定試験(筆記)		
履修アドバイス	①GWにて解説を行っていきます。教科書を開きながらみんなでアウトプットしながら行ってください。 ②学修時には、色ペンや付箋紙を活用し、学修の足跡を残してください。		

科目名		神経内科学		
履修時期	作業療法学科 夜間主 2年生	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	金城 徳明	科目副担当	0	
目標	総合	神経内科学全般の知識を習得する		
	行動	<認知領域（知識）> ①神経診断学に必要な評価を説明出来る ②主要な神経内科学疾患の病態を説明出来る ③神経疾患の発生機序、内容を説明出来る ④各疾患についての診断・病因・症状・検査・治療・予後について説明出来る <情意領域（習慣・態度）> ①上記知識について他者と議論できる ②グループワークで自分の意見を言える <技能領域（技術）> ①各疾患対象者の担当時に適切な対応が出来る ②ポイントを押さえたプレゼンテーションが出来る		
講義計画	第1回	脳・神経解剖・生理学復習 神経診断学 神経兆候①(意識障害)		
	第2回	神経徴候②(脳神経)		
	第3回	神経徴候③(運動系、感覚系)		
	第4回	脳血管障害① 脳梗塞		
	第5回	脳血管障害② 脳出血		
	第6回	脳血管障害③ 頭部外傷		
	第7回	脳血管障害④ 高次脳機能(注意機能、記憶)		
	第8回	脳血管障害⑤ 高次脳機能(失行・失認・失語)		
	第9回	脳血管障害⑥ 高次脳機能(身体・空間無視、遂行・認知機能)		
	第10回	脳画像の診かた(CT、MRIを中心に)		
	第11回	各疾患グループワーク①		
	第12回	各疾患グループワーク②		
	第13回	プレゼンテーション①：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症		
	第14回	プレゼンテーション②：多発性硬化症、ニューロパチー(ギランバレー症候群)、筋シ		
	第15回	まとめ		
教科書	①神経内科学テキスト 改訂第4版 南江堂		②ベッドサ	
授業方法	講義、グループワーク、発表			
評定方法	・筆記試験(期末試験80%)		・課題(20%)	
履修アドバイス	範囲の広い神経内科学の分野を効率よく効果的に学習できるよう基礎的知識の復習を適時行うこと。 レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーションも評定に含まれる。			

■授業科目		外傷の保存療法	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師として、正しく人体の筋肉を把握することができる。①上肢・下肢の起始停止作用を述べることができる。②上肢・下肢の起始停止を理解した上で手技療法を身に付けることができる。③患者の基礎的状态や体力、機能、環境について知ることができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 手技療法における心得</li> <li>② 上肢の筋肉（大胸筋・広背筋・起立筋の起始停止作用）</li> <li>③ 上肢の筋肉（肩甲挙筋・回旋腱板筋・前腕屈筋伸筋群の起始停止作用）</li> <li>④ 下肢の筋肉（中殿筋・ハムストリングス・内転筋群の起始停止作用）</li> <li>⑤ 下肢の筋肉（下腿三頭筋・前脛骨筋の起始停止作用）</li> <li>⑥ 上肢の手技（講義②③の復習）</li> <li>⑦ 下肢の手技（講義③④の復習）</li> <li>⑧ 手技療法実技試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第7版)・解剖学(改訂第2版) <b>【参考文献】</b> プロメテウス(第3版)		
授業方法	講義、実技		
評価方法	実技試験(50%)を総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		基礎柔道整復学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師の業務についてと骨折の総論について理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 柔道整復師の業務</li> <li>③ 骨の解剖</li> <li>④ 分類①</li> <li>⑤ 分類②</li> <li>⑥ 分類③</li> <li>⑦ 分類④</li> <li>⑧ 骨折の症状</li> <li>⑨ 骨折の合併症</li> <li>⑩ 骨折の合併症</li> <li>⑪ 小児骨折</li> <li>⑫ 高齢者骨折</li> <li>⑬ 骨折の治癒</li> <li>⑭ 骨折の治癒</li> <li>⑮ まとめ・復習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編実技編 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	柔道整復師の根幹となる講義であるため日頃から復習を行うこと。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		基礎柔道整復学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	各損傷における固定法や後療法について総論的な理解を深める。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 評価①</li> <li>② 評価②</li> <li>③ 評価③</li> <li>④ 評価④</li> <li>⑤ 骨折の整復法</li> <li>⑥ 骨折の整復法</li> <li>⑦ 小テスト</li> <li>⑧ 脱臼の整復</li> <li>⑨ 軟部組織処置</li> <li>⑩ 固定法</li> <li>⑪ 後療法</li> <li>⑫ 小テスト</li> <li>⑬ 指導管理</li> <li>⑭ 指導管理</li> <li>⑮ まとめ・復習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編実技編 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・小テスト		
履修アドバイス	固定法や後療法の総論のためイメージできるように日々学習に取り組むこと。小テストは評価に入れるのでしっかり復習するように。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		基礎柔道整復学Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①関節周囲の解剖について理解する。②軟部組織損傷の基礎的な知識を習得し、2年生での各論に結びつけるようになる。③脱臼について基礎的な知識を習得し、2年生での各論に結びつけるようになる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 関節の構造</li> <li>③ 関節構成組織</li> <li>④ 脱臼の分類</li> <li>⑤ 脱臼の分類</li> <li>⑥ 脱臼の症状</li> <li>⑦ 脱臼の合併症・整復障害</li> <li>⑧ 関節損傷</li> <li>⑨ 関節周辺部の損傷</li> <li>⑩ 筋の解剖</li> <li>⑪ 筋損傷の分類</li> <li>⑫ 腱損傷の分類</li> <li>⑬ 腱損傷の分類</li> <li>⑭ 神経の解剖・損傷分類</li> <li>⑮ 神経損傷の分類・治癒機序</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 南江堂 柔道整復学 理論編 <b>【参考文献】</b> プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法	講義		
評価方法	小テスト・定期試験		
履修アドバイス	脱臼、軟部組織損傷に対する基礎として重要であることを意識して臨むこと。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		応用柔道整復学（上肢Ⅰ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	肩甲骨～上腕骨遠位端部骨折において発生・症状・整復法・固定法・後療法までの特徴を理解し、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 鎖骨骨折Ⅰ</li> <li>② 鎖骨骨折Ⅱ</li> <li>③ 鎖骨骨折Ⅲ</li> <li>④ 肩甲骨骨折</li> <li>⑤ 上腕骨骨折Ⅰ</li> <li>⑥ 上腕骨骨折Ⅱ</li> <li>⑦ 上腕骨骨折Ⅲ</li> <li>⑧ 上腕骨骨折Ⅳ</li> <li>⑨ 上腕骨骨折Ⅴ</li> <li>⑩ 上腕骨骨折Ⅵ</li> <li>⑪ 上腕骨骨折Ⅶ</li> <li>⑫ 上腕骨骨折Ⅷ</li> <li>⑬ 上腕骨骨折Ⅸ</li> <li>⑭ ①～⑦模擬試験</li> <li>⑮ ⑧～⑫模擬試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第6版)・実技編(改訂2版)南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験(90%)、小テスト(10%)を総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目	応用柔道整復学（上肢Ⅱ）		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢脱臼について症状・整復法・固定法・後療法まで総合的に理解する。そして鑑別診断がしっかりできるようにし、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 脱臼総論</li> <li>② 胸鎖関節脱臼</li> <li>③ 肩鎖関節脱臼①</li> <li>④ 肩鎖関節脱臼②</li> <li>⑤ 肩関節脱臼①</li> <li>⑥ 肩関節脱臼②</li> <li>⑦ 反復性肩関節脱臼</li> <li>⑧ 肘関節脱臼①</li> <li>⑨ 肘関節脱臼②</li> <li>⑩ 肘内障</li> <li>⑪ 手関節部の脱臼</li> <li>⑫ 指節関節脱臼①</li> <li>⑬ 指節関節脱臼②</li> <li>⑭ 指節関節脱臼③</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学 理論編</p> <p>【参考文献】プロメテウス解剖学アトラス</p>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	各損傷の各論になるため解剖学的な知識が必要となる。講義では解剖学的なイメージを付けるため別冊の解剖書を毎回持ってくるように。		
担当教員(分担者)	小森		



■授業科目		応用柔道整復学（上肢Ⅲ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	前腕骨近位端部～指骨骨折において発生・症状・整復法・固定法・後療法までの特徴を理解し、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 前腕骨骨幹部骨折①</li> <li>② 前腕骨骨幹部骨折②</li> <li>③ 前腕骨骨幹部骨折③</li> <li>④ 前腕骨遠位端部骨折①</li> <li>⑤ 前腕骨遠位端部骨折②</li> <li>⑥ 前腕骨遠位端部骨折③</li> <li>⑦ 舟状骨骨折</li> <li>⑧ 月状骨骨折</li> <li>⑨ 中手骨骨折①</li> <li>⑩ 中手骨骨折②</li> <li>⑪ 基節骨骨折</li> <li>⑫ 中節骨骨折</li> <li>⑬ 末節骨骨折</li> <li>⑭ まとめ①</li> <li>⑮ まとめ②</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第6版)・実技編(改訂2版) 南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験（90％）、小テスト（10％）を総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		応用柔道整復学（上肢Ⅳ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	上肢軟部組織損傷について症状・検査法・後療法まで総合的に理解する。そして鑑別診断がしっかりできるようにし、柔道整復師の業務範囲を適切に判断できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 肩の軟部組織損傷①</li> <li>② 肩の軟部組織損傷②</li> <li>③ 肩の軟部組織損傷③</li> <li>④ 肩の軟部組織損傷④</li> <li>⑤ 肘の軟部組織損傷①</li> <li>⑥ 肘の軟部組織損傷②</li> <li>⑦ 肘の軟部組織損傷③</li> <li>⑧ 前腕部の軟部組織損傷・神経損傷①</li> <li>⑨ 前腕部の軟部組織損傷・神経損傷②</li> <li>⑩ 前腕部の軟部組織損傷・神経損傷③</li> <li>⑪ 手部の軟部組織損傷①</li> <li>⑫ 手部の軟部組織損傷②</li> <li>⑬ 手部の軟部組織損傷③</li> <li>⑭ 手部の変形</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学 理論編 <b>【参考文献】</b> プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	各損傷の各論になるため解剖学的な知識が必要となる。講義では解剖学的なイメージを付けるため別冊の解剖書を毎回持ってくるように。		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		応用柔道整復学（下肢Ⅰ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①解剖学的特徴を理解する。②下肢の骨折について、発生機序や症状などから損傷を判断できる能力を身につける。③固定方法や後療法について適切に判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 骨盤骨骨折</li> <li>② 骨盤骨骨折</li> <li>③ 大腿骨骨折</li> <li>④ 大腿骨骨折</li> <li>⑤ 大腿骨骨折</li> <li>⑥ 大腿骨骨折</li> <li>⑦ 大腿骨骨折</li> <li>⑧ 膝蓋骨骨折</li> <li>⑨ 下腿骨骨折</li> <li>⑩ 下腿骨骨折</li> <li>⑪ 下腿骨骨折</li> <li>⑫ 足・足指骨骨折</li> <li>⑬ 足・足指骨骨折</li> <li>⑭ 足・足指骨骨折</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第5版)・実技編南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	講義の小テスト及び期末テストで総合的に評価する		
履修アドバイス	下肢の骨折をイメージできるよう下肢の解剖学をきちんと理解すること。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		応用柔道整復学（下肢Ⅱ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	下肢のスポーツ外傷、障害の特徴等を理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① スポーツ外傷・障害（股関節）</li> <li>② スポーツ外傷・障害（股関節）</li> <li>③ スポーツ外傷・障害（膝関節）</li> <li>④ スポーツ外傷・障害（膝関節）</li> <li>⑤ スポーツ外傷・障害（足部・足趾）</li> <li>⑥ スポーツ外傷・障害（足部・足趾）</li> <li>⑦ スポーツ外傷・障害（足部・足趾）</li> <li>⑧ 疲労骨折①</li> <li>⑨ 疲労骨折②</li> <li>⑩ 半月板損傷におけるバイオメカニクス（臨床スポーツ医学）</li> <li>⑪ スポーツにおける半月板損傷の原因と特徴</li> <li>⑫ 大腿部の肉離れ</li> <li>⑬ 反復性膝蓋骨脱臼</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編・実技編 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	講義の小テスト及び期末テストで総合的に評価する		
履修アドバイス	下肢の軟部組織損傷をイメージできるよう下肢の解剖学をきちんと理解すること。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		応用柔道整復学（下肢Ⅲ）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①解剖学的特徴を理解する。②下肢の脱臼・軟部組織損傷について、発生機序や症状などから損傷を判断できる能力を身につける。③固定方法や後療法について適切に判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 股関節脱臼①</li> <li>② 股関節脱臼②</li> <li>③ 膝蓋骨脱臼</li> <li>④ 膝関節脱臼、足部の脱臼</li> <li>⑤ 股関節部軟部組織損傷①</li> <li>⑥ 股関節部軟部組織損傷②</li> <li>⑦ 股関節部軟部組織損傷③</li> <li>⑧ 大腿部軟部組織損傷</li> <li>⑨ 膝関節部軟部組織損傷①</li> <li>⑩ 膝関節部軟部組織損傷②</li> <li>⑪ 膝関節部軟部組織損傷③</li> <li>⑫ 下腿部軟部組織損傷①</li> <li>⑬ 下腿部軟部組織損傷②</li> <li>⑭ 足部軟部組織損傷①</li> <li>⑮ 足部軟部組織損傷②</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第6版)南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・小テスト等		
履修アドバイス	各損傷の各論になるため解剖学的な知識が必要となる。講義では解剖学的なイメージを付けるため別冊の解剖書を毎回持ってくるように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		応用柔道整復学（頭部・体幹）	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	頭部・体幹部の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、柔道整復師の業を成す上で基盤となる外傷、障害の理論を理解し、適切な対応をするための基礎的・臨床的事項を習得する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 頭部の解剖 頭蓋冠骨折 頭蓋底骨折</li> <li>② 頭部骨折（小児の頭部骨折）・眼窩底骨折・上顎骨骨折・下顎骨骨折</li> <li>③ 頬骨骨折・鼻骨骨折・顎関節脱臼</li> <li>④ 顎関節捻挫 顎関節症</li> <li>⑤ 胸郭 肋骨骨折</li> <li>⑥ 胸骨骨折 頭部・胸郭損傷復習</li> <li>⑦ 脊椎の解剖 頸椎の骨折（ジェファーソン骨折）</li> <li>⑧ 頸椎骨折および胸椎骨折 脊椎脱臼</li> <li>⑨ 鞭打ち損傷 外傷性腕神経叢麻痺等</li> <li>⑩ 斜頸・頸椎椎間板ヘルニア・先天性奇形</li> <li>⑪ 胸郭出口症候群 副神経麻痺</li> <li>⑫ 脊椎分離症 すべり症 腰部脊柱管狭窄</li> <li>⑬ 腰部の軟部組織損傷</li> <li>⑭ 腰椎の骨折・胸背部・腰部の軟部組織損傷</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 「柔道整復学・理論編（改訂第6版）」南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験の成績、中間試験（授業内）、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に		
履修アドバイス	頭部・体幹の骨折は合併症や後遺症を残しやすいことを理解し、取り扱う際の危機管理を十分に理解するように。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		物理療法機器等の取扱い	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師が取り扱う物理療法について学ぶ。物理療法とは電気、光線、熱などの刺激を用いて、疼痛の緩和や循環の改善、創傷治癒などを目的とした治療法であり、特に臨床現場ではその機器の特性、使用法と禁忌について学ぶ必要がある。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 物理療法とは</li> <li>② 電気刺激療法</li> <li>③ 温熱療法</li> <li>④ 寒冷療法</li> <li>⑤ その他の物理療法</li> <li>⑥ 電気刺激療法の実技</li> <li>⑦ 超音波療法の実技</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第7版)・実技編(改訂2版)南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義、実技		
評価方法	定期試験(90%)、小テスト(10%)を総合的に評価する。		
履修アドバイス	実技の際、物理療法機器の数は限られています。欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	责任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学の応用に対応していく為に基礎的な知識をしっかりと学ぶ。①骨折・脱臼、関節構成組織損傷の基礎力を口頭で説明できる。②応用問題の解く力を身につける事ができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 骨の損傷（骨折の分類）</li> <li>② "（骨折の症状）</li> <li>③ "（骨折の合併症①）</li> <li>④ "（骨折の合併症②）</li> <li>⑤ "（小児骨折）</li> <li>⑥ "（高齢者骨折）</li> <li>⑦ "（骨折の治癒経過・骨折の治癒に影響を与える因子）</li> <li>⑧ 関節の損傷（脱臼の分類）</li> <li>⑨ "（脱臼の症状）</li> <li>⑩ "（脱臼の整復障害）</li> <li>⑪ "（関節構成組織損傷）</li> <li>⑫ 末梢神経の損傷（神経損傷の分類）</li> <li>⑬ "（神経損傷の症状）</li> <li>⑭ "（神経損傷の治癒過程）</li> <li>⑮ 復習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） <b>【参考文献】</b> プロメテウス（第3版）		
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+タブレットや筆記用具）→講義終了後小テスト		
評価方法	定期試験（90%）、小テスト（10%）を総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		



■授業科目		臨床柔道整復学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 鎖骨骨折・肩甲骨骨折復習</li> <li>② 鎖骨骨折・肩甲骨骨折問題演習</li> <li>③ 上腕骨近位・骨幹部骨折復習</li> <li>④ 上腕骨近位・骨幹部骨折問題演習</li> <li>⑤ 上腕骨骨遠位部骨折復習</li> <li>⑥ 上腕骨遠位部骨折問題演習</li> <li>⑦ 前腕骨近位部骨折復習</li> <li>⑧ 前腕骨近位部骨折問題演習</li> <li>⑨ 前腕骨骨幹部骨折復習</li> <li>⑩ 前腕骨骨幹部骨折問題演習</li> <li>⑪ 前腕骨遠位部骨折復習</li> <li>⑫ 前腕骨遠位部骨折問題演習</li> <li>⑬ 手部骨折復習</li> <li>⑭ 手部骨折復習</li> <li>⑮ 手部骨折問題演習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 「柔道整復学・理論編 (改訂第5版)」南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験の成績、中間試験（授業内）、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①下肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 骨盤骨折復習</li> <li>② 骨盤骨折問題演習</li> <li>③ 大腿骨近位部骨折復習</li> <li>④ 大腿骨近位部骨折問題演習</li> <li>⑤ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折復習</li> <li>⑥ 大腿骨骨幹部・遠位部骨折問題演習</li> <li>⑦ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折復習</li> <li>⑧ 膝蓋骨骨折・下腿近位部骨折問題演習</li> <li>⑨ 下腿部骨折復習</li> <li>⑩ 下腿部骨折問題演習</li> <li>⑪ 足根骨骨折復習</li> <li>⑫ 足根骨骨折問題演習</li> <li>⑬ 足趾骨折復習</li> <li>⑭ 足趾骨折問題演習</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学 理論編 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅳ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	责任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学の応用に対応していく為に基礎的な知識をしっかりと学ぶ。①診察・治療法・指導管理の対応力をあげる。②臨床では治療法も含め愛護的に診察の流れを身に付けることができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 診察（注意点・進め方・流れ）</li> <li>② 診察（診察時期による分類）</li> <li>③ 診察（治療計画の作成、施術録の扱いと記載）</li> <li>④ 治療法（骨折の整復法）</li> <li>⑤ 治療法（脱臼の整復法）</li> <li>⑥ 治療法（軟部組織損傷の初期処置）</li> <li>⑦ 治療法（固定施行時の配慮）</li> <li>⑧ 治療法（後療法）</li> <li>⑨ 治療法（運動療法）</li> <li>⑩ 治療法（物理療法①）</li> <li>⑪ 治療法（物理療法②）</li> <li>⑫ 治療法（物理療法③）</li> <li>⑬ 指導管理①</li> <li>⑭ 指導管理②</li> <li>⑮ 復習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編（改訂第7版）、柔道整復学・実技編（改訂第6版） <b>【参考文献】</b> プロメテウス（第3版）		
授業方法	講義（教員：スクリーン使用+板書、学生：参考文献+タブレットや筆記用具）⇒講義終了後小テスト		
評価方法	定期試験（90%）、小テスト（10%）を総合的に評価する。		
履修アドバイス	欠席、遅刻、早退は、十分な学習理解ができない最大の要因。1/3以上の欠席は定期試験の受験はできない。やむを得ない理由で欠席した場合は次回講義までに担当教員を訪ね配布資料や講義内容を必ず確認し、分からない所は教員に質問するなどの学習が遅れないよう行動すること。試験終了後は早急に採点し、その後試験の解説を行う。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅴ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 胸鎖関節・肩鎖関節脱臼復習</li> <li>② 胸鎖関節・肩鎖関節脱臼問題演習</li> <li>③ 肩関節脱臼復習</li> <li>④ 肩関節脱臼問題演習</li> <li>⑤ 肘関節脱臼・肘内障復習</li> <li>⑥ 肘関節脱臼・肘内障問題演習</li> <li>⑦ 手部脱臼復習</li> <li>⑧ 手部脱臼問題演習</li> <li>⑨ 肩部軟部組織損傷復習</li> <li>⑩ 肩部軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑪ 肘部軟部組織損傷復習</li> <li>⑫ 肘部軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑬ 手部軟部組織損傷復習</li> <li>⑭ 手部軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑮ 復習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 「柔道整復学・理論編 (改訂第5版)」南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験の成績、中間試験(授業内)、学習態度、授業内レポート、出席数等を総合的に		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅵ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①下肢の脱臼・軟部組織損傷について復習をする。②復習範囲の国家試験過去問を解き、知識を定着させる。③臨床問題を通して現場で判断できる知識を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 股関節脱臼復習</li> <li>② 股関節骨折問題演習</li> <li>③ 膝蓋骨脱臼膝関節脱臼復習</li> <li>④ 膝蓋骨脱臼膝関節脱臼問題演習</li> <li>⑤ 足部脱臼復習</li> <li>⑥ 足部脱臼問題演習</li> <li>⑦ 股関節部軟部組織損傷復習</li> <li>⑧ 股関節軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑨ 膝関節軟部組織損傷復習</li> <li>⑩ 膝関節軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑪ 膝関節軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑫ 下腿部軟部組織損傷復習</li> <li>⑬ 下腿部軟部組織損傷問題演習</li> <li>⑭ 足部軟部組織損傷復習</li> <li>⑮ 足部軟部組織損傷問題演習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学 理論編 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	講義は各部位の損傷の復習と問題演習を交互に実施する。毎回プリントを配布する。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅶ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	责任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	頭部・体幹部の骨折、脱臼、軟部組織損傷について解剖学から治療法まで詳細に学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 頭部、顔面の解剖</li> <li>② 脊椎の解剖</li> <li>③ 頭蓋骨骨折</li> <li>④ 眼窩底破裂骨折</li> <li>⑤ 上顎骨、頬骨、頬骨弓骨折</li> <li>⑥ 鼻骨、鼻軟骨骨折</li> <li>⑦ 下顎骨骨折</li> <li>⑧ 顎関節軟部組織損傷</li> <li>⑨ 胸部骨折</li> <li>⑩ 胸部・背部軟部組織損傷</li> <li>⑪ 頸椎骨折、頸椎脱臼、頸部軟部組織損傷</li> <li>⑫ 胸腰椎骨折、</li> <li>⑬ 腰部の軟部組織損傷</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・理論編(改訂第6版)南江堂 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する		
履修アドバイス	わからない事は積極的に質問すること。指定の教科書のみではなく様々な教科書を参考に にする事。		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		臨床柔道整復学Ⅷ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師の業務範囲について学び、対応を考える。そしてその判断をする為に画像診断が理解できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 柔道整復師の業務範囲</li> <li>② 損傷に類似した疾患①</li> <li>③ 損傷に類似した疾患②</li> <li>④ 損傷に類似した疾患③</li> <li>⑤ 画像診断基礎</li> <li>⑥ 画像診断の実際①</li> <li>⑦ 画像診断の実際②</li> <li>⑧ 画像診断の実際③</li> <li>⑨ 画像診断の実際④</li> <li>⑩ 画像診断の実際⑤</li> <li>⑪ 画像問題演習</li> <li>⑫ 画像問題演習</li> <li>⑬ 画像問題演習</li> <li>⑭ 画像問題演習</li> <li>⑮ 画像問題演習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学・理論編 施術の適応と医用画像の理解</p> <p>【参考文献】医療の中の柔道整復</p>		
授業方法	講義		
評価方法	期末試験や小テスト、講義における姿勢など総合的に判断する		
履修アドバイス	柔道整復師は適応する損傷に対して質の高い柔道整復術を提供するだけでなく、その特徴、限界を知り、症状や所見かた適否を厳密に判断して、最適な治療環境が選択できるように支援することも重要な使命です。		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		基礎柔道整復実技Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復に必要な骨・関節の構造を理解し、解剖学的な位置を正しく把握する事ができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション・全身の骨格の触察</li> <li>② 脊柱・胸郭の触察</li> <li>③ 肩甲骨と鎖骨の触察</li> <li>④ 上腕骨の触察</li> <li>⑤ 前腕骨の触察</li> <li>⑥ 手根骨の触察</li> <li>⑦ 指骨の触察</li> <li>⑧ 寛骨の触察</li> <li>⑨ 大腿骨・膝蓋骨の触察</li> <li>⑩ 下腿骨の触察</li> <li>⑪ 足根骨の触察</li> <li>⑫ 趾骨の触察</li> <li>⑬ 骨の種類と構造</li> <li>⑭ 関節の軟部組織</li> <li>⑮ 骨盤の性差と計測</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 解剖学(改訂2版) 【参考文献】プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法	実技		
評価方法	期末試験や小テスト、講義における姿勢など総合的に判断する		
履修アドバイス	運動器を覚えることはその他勉強にもつながるのでしっかり講義にのぞむこと。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		



■授業科目		基礎柔道整復実技Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復に必要な筋の起始停止神経作用を理解し、解剖的な位置を正しく把握ことができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 骨格筋の機能と形状による分類</li> <li>② 上肢の筋①</li> <li>③ 上肢の筋②</li> <li>④ 上肢の筋③</li> <li>⑤ 上肢の筋④</li> <li>⑥ 下肢の筋①</li> <li>⑦ 下肢の筋②</li> <li>⑧ 下肢の筋③</li> <li>⑨ 下肢の筋④</li> <li>⑩ 頸部の筋</li> <li>⑪ 体幹の筋</li> <li>⑫ 筋収縮と関節運動</li> <li>⑬ 筋線維の種類</li> <li>⑭ 骨格筋の構造</li> <li>⑮ 筋収縮のメカニズム</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 解剖学(改訂2版) 【参考文献】プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法	実技		
評価方法	期末試験や小テスト、講義における姿勢など総合的に判断する		
履修アドバイス	運動器を覚えることはその他勉強にもつながるのでしっかり講義にのぞむこと。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		基礎固定学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①包帯の名称を覚える。②基本包帯法の技術を身につける。③足関節の基礎テーピングの技術を身につける。		
授業内容	① 導入 ② 用具・材料確認 ③ 基本包帯1 ④ 基本包帯2 ⑤ 基本包帯3 ⑥ 基本包帯4 ⑦ 基本包帯5 ⑧ 基本包帯6 ⑨ 基本包帯7 ⑩ 基本包帯8 ⑪ 基本包帯9 ⑫ 基本包帯10 ⑬ 基本包帯11 ⑭ 基本包帯12 ⑮ 試験		
教科書 参考文献	【教科書】 包帯固定学 【参考文献】		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	包帯を使った実技を中心に行う。受講時は必ず白衣着用するように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		基礎固定学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①応用包帯固定法の技術を身につける。②足関節と膝関節の応用テーピング技術を身につける。③各種固定材料を作成する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本包帯復習1</li> <li>② 基本包帯復習2</li> <li>③ ウェルポー包帯</li> <li>④ ジュール包帯</li> <li>⑤ デゾー包帯</li> <li>⑥ 復習</li> <li>⑦ テーピング</li> <li>⑧ テーピング</li> <li>⑨ テーピング</li> <li>⑩ 応用固定法1</li> <li>⑪ 応用固定法2</li> <li>⑫ 応用固定法3</li> <li>⑬ 応用固定法4</li> <li>⑭ 応用固定法5</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 包帯固定学 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	包帯を使った実技を中心に行う。受講時は必ず白衣着用するように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目	応用柔道整復実技Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折・脱臼の整復法を学び実践できる技術を身につける。②上肢の骨折・脱臼の固定法を学び実践できる技術を身につける。③上肢の軟部組織損傷の検査法を学び実践できる技術を身につける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 包帯固定復習</li> <li>② 鎖骨骨折整復・固定</li> <li>③ 鎖骨骨折整復・固定</li> <li>④ 肩鎖関節脱臼整復・固定</li> <li>⑤ 肩鎖関節脱臼整復・固定</li> <li>⑥ 外科頸骨折整復・固定</li> <li>⑦ 上腕骨骨幹部骨折整復・固定</li> <li>⑧ 小テスト</li> <li>⑨ 肩関節脱臼整復・固定</li> <li>⑩ 肩関節脱臼整復・固定</li> <li>⑪ 肘関節脱臼整復・固定</li> <li>⑫ 肘関節脱臼整復・固定</li> <li>⑬ 肘内障</li> <li>⑭ 小テスト</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学・理論編実技編</p> <p>【参考文献】配布プリント</p>		
授業方法	実技		
評価方法	小テスト、定期試験		
履修アドバイス	座学で学習した各部位の整復・固定・検査法を学ぶ		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		応用柔道整復実技Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	责任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①上肢の骨折・脱臼の整復法を学び実践できる技術を身につける。②上肢の骨折・脱臼の固定法を学び実践できる技術を身につける。③上肢の軟部組織損傷の検査法を学び実践できる技術を身につける。		
授業内容	① 前期復習 ② 前期復習 ③ 肩部軟部組織損傷 ④ 肩部軟部組織損傷 ⑤ 肩部軟部組織損傷 ⑥ 肘部軟部組織損傷 ⑦ 肘部軟部組織損傷 ⑧ 小テスト ⑨ コーレス骨折整復・固定 ⑩ コーレス骨折整復・固定 ⑪ 前腕手技療法、手関節部固定 ⑫ 指部固定 ⑬ 指部固定 ⑭ 小テスト ⑮ 試験		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学・理論編実技編 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	小テスト、定期試験		
履修アドバイス	座学で学習した各部位の整復・固定・検査法を学ぶ		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		応用柔道整復実技Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	<p>下肢の各軟部組織損傷の固定法を臨床で活用できる。①患者の患部の処置部位を愛護的にできる。②患肢と損傷部位の状態把握ができる。③固定後の確認が適切にできる。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 固定の実際①</li> <li>③ 固定の実際②</li> <li>④ 固定の実際③</li> <li>⑤ 硬性材料を用いた固定①</li> <li>⑥ 硬性材料を用いた固定②</li> <li>⑦ 硬性材料を用いた固定③</li> <li>⑧ 軟性材料を用いた固定①</li> <li>⑨ 軟性材料を用いた固定②</li> <li>⑩ 関節モビライゼーション①</li> <li>⑪ 関節モビライゼーション②</li> <li>⑫ 関節モビライゼーション③</li> <li>⑬ 関節モビライゼーション④</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学・実技編、資料プリント 【参考文献】</p>		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる		
履修アドバイス	認定実技審査に出題される項目が含まれる重要な授業であるので、真摯な態度で出席してほしい。授業中の私語、不適切な態度は一切認めない。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	応用柔道整復実技Ⅳ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の整復法・固定法について施すことができる。①患者に愛護的な対応が適切にできる。②助手への指示が適切にできる。③整復・固定のポイントを実践して適切にできる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 膝側副靭帯損傷①</li> <li>② 膝側副靭帯損傷②</li> <li>③ 膝側副靭帯損傷③</li> <li>④ 膝十字靭帯損傷①</li> <li>⑤ 膝十字靭帯損傷②</li> <li>⑥ 膝十字靭帯損傷③</li> <li>⑦ 半月板損傷①</li> <li>⑧ 半月板損傷②</li> <li>⑨ 下腿骨幹部骨折固定</li> <li>⑩ アキレス腱断裂固定</li> <li>⑪ 足外側靭帯損傷①</li> <li>⑫ 足外側靭帯損傷②</li> <li>⑬ 足外側靭帯損傷③</li> <li>⑭ 復習</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学・実技編、資料プリント</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる		
履修アドバイス	認定実技審査に出題される項目が含まれる重要な授業であるので、真摯な態度で出席してほしい。授業中の私語、不適切な態度は一切認めない。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	臨床柔道整復実技Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①骨折・脱臼の整復法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。②軟部組織損傷の検査法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。		
授業内容	<p>① オリエンテーション</p> <p>② 骨折の診察及び整復能力 鎖骨定型的骨折</p> <p>③ 骨折の診察及び整復能力 上腕骨外科頸外転型骨折</p> <p>④ 骨折の診察及び整復能力 コーレス骨折</p> <p>⑤ 脱臼の診察及び整復能力 肩鎖関節脱臼上方脱臼</p> <p>⑥ 脱臼の診察及び整復能力 肩関節前方烏口下脱臼</p> <p>⑦ 脱臼の診察及び整復能力 肘関節後方脱臼</p> <p>⑧ 脱臼の診察及び整復能力 肘内障</p> <p>⑨ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 肩腱板損傷</p> <p>⑩ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 上腕二頭筋長頭腱損傷</p> <p>⑪ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 大腿部軟部組織損傷</p> <p>⑫ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷</p> <p>⑬ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷</p> <p>⑭ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 膝関節軟部組織損傷</p> <p>⑮ 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 下腿部軟部組織損傷</p>		
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」 「柔道整復学・実技編 (改訂第2版)」 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験（実技試験、筆記試験）を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	認定実技審査、必修に出題される項目が含まれる重要な科目であるため、それを十分に意識し取り組むこと。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		



■授業科目		臨床柔道整復実技Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①骨折・脱臼の整復法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。②軟部組織損傷の検査法を復習し、認定実技試験に合格するレベルに到達する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 下腿部軟部組織損傷</li> <li>② 軟部組織損傷の診察及び検査の能力 足部軟部組織損傷</li> <li>③ 認定実技試験対策</li> <li>④ 認定実技試験対策</li> <li>⑤ 認定実技試験対策</li> <li>⑥ 臨床対応</li> <li>⑦ 臨床対応</li> <li>⑧ 臨床対応</li> <li>⑨ 臨床対応</li> <li>⑩ 臨床対応</li> <li>⑪ 臨床対応</li> <li>⑫ 臨床対応</li> <li>⑬ 臨床対応</li> <li>⑭ 臨床対応</li> <li>⑮ 臨床対応</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」 「柔道整復学・実技編 (改訂第2版)」 【参考文献】配布プリント		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験(実技試験、筆記試験)を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	認定実技審査、必修に出題される項目が含まれる重要な科目であるため、それを十分に意識し取り組むこと。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		臨床柔道整復実技Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	固定の施術に関する全身状態や患肢の確認、骨折や脱臼、打撲、捻挫、軟部組織損傷に対する基本的な臨床固定技能を身につけることができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 固定の能力 鎖骨骨折</li> <li>③ 固定の能力 コーレス骨折</li> <li>④ 固定の能力 第5指中手骨頸部骨折</li> <li>⑤ 固定の能力 下腿骨骨幹部骨折</li> <li>⑥ 固定の能力 上腕骨骨幹部骨折</li> <li>⑦ 固定の能力 肋骨骨折</li> <li>⑧ 固定の能力 肩鎖関節上方脱臼</li> <li>⑨ 固定の能力 肩関節前方脱臼</li> <li>⑩ 固定の能力 肘関節後方脱臼</li> <li>⑪ 固定の能力 手第2指PIP関節背側脱臼</li> <li>⑫ 固定の能力 アキレス腱断裂</li> <li>⑬ 固定の能力 足関節外側靭帯損傷</li> <li>⑭ 固定の能力 膝関節内側側副靭帯損傷テーピング</li> <li>⑮ 固定の能力 足関節外側靭帯損傷テーピング</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復学・実技編、資料プリント <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目		臨床柔道整復実技Ⅳ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	<p>下肢の各種損傷に対する理学的検査、整復技能、固定技能、臨床評価法、鑑別的评价法を身につけることができる。</p> <p>安心、安全な柔道整復施術を提供するための基本的な技能を身につけることができる。</p> <p>国家試験の出題基準に沿った問題演習を行い、国家試験対策をおこなう。</p>		
授業内容	<p>① 固定の能力 内側側副靭帯損傷テーピング</p> <p>② 固定の能力 足関節外側靭帯損傷（前距腓靭帯損傷）テーピング</p> <p>③ 固定の能力 （鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼）</p> <p>④ 固定の能力（肘関節後方脱臼・コーレス骨折）</p> <p>⑤ 固定の能力（第5中手骨頸部骨折・第2PIP背側脱臼）</p> <p>⑥ 固定の能力（肋骨骨折）</p> <p>⑦ 固定の能力 （上腕骨骨幹部骨折ミッドドルフ三角副子）</p> <p>⑧ 固定の能力（肩関節前方脱臼）</p> <p>⑨ 固定の能力（下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂）</p> <p>⑩ 問題演習</p> <p>⑪ 問題演習</p> <p>⑫ 問題演習</p> <p>⑬ 問題演習</p> <p>⑭ 問題演習</p> <p>⑮ 固定の能力 総まとめ</p>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 柔道整復学・実技編、資料プリント</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	実技		
評価方法	実技試験の成績によって評価するが、対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目		外傷予防学	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツトレーナーとしてフィジカルの、メディカルのにも対応できるように基礎から実践まで幅広く学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 運動生理学の概要</li> <li>③ 運動生理学の概要</li> <li>④ 運動生理学の概要</li> <li>⑤ 運動生理学の概要</li> <li>⑥ 種目別外傷予防（運動生理）肩</li> <li>⑦ 種目別外傷予防（運動生理）肩</li> <li>⑧ 種目別外傷予防（運動生理）体幹</li> <li>⑨ 種目別外傷予防（運動生理）膝</li> <li>⑩ 種目別外傷予防（運動生理）下腿</li> <li>⑪ 種目別外傷予防（運動生理）足部</li> <li>⑫ 種目別外傷予防（運動生理）高齢者の生理的特徴1</li> <li>⑬ 種目別外傷予防（運動生理）高齢者の生理的特徴2</li> <li>⑭ まとめ</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 競技者の外傷予防・柔道整復師と機能訓練指導員 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義・実技		
評価方法	定期試験・小テスト等		
履修アドバイス	生理学・運動学の復習をしておくように		
担当教員(分担者)			

■授業科目		基礎柔整トレーナー学	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツ現場におけるスポーツトレーナーの役割とその業務について理解し、選手をどのようにサポートしていくか現場に必要な知識や技術を身に付ける		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② スポーツとは</li> <li>③ スポーツトレーナーとは トレーニング指導者とは</li> <li>④ 競技種目特性の重要性</li> <li>⑤ スポーツトレーナーの心得（目視の重要性）</li> <li>⑥ 救急の連鎖 緊急度と重症度</li> <li>⑦ スポーツトレーナーに必要なA B C</li> <li>⑧ 頭部外傷の応急処置</li> <li>⑨ 出血の応急処置</li> <li>⑩ スポーツトレーナーにに必要な手技（さする）</li> <li>⑪ 柔道整復師が必要な手技療法（揉む 押す 叩く）</li> <li>⑫ 柔道整復師が必要な手技療法（足・下腿に対するアプローチ）</li> <li>⑬ 柔道整復師が必要な手技療法（大腿部前面・後面に対するアプローチ）</li> <li>⑭ 柔道整復師が必要な手技療法（腰部・背部アプローチ）</li> <li>⑮ 柔道整復師が必要な手技療法（肩から手アプローチ）</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 適宜プリントを配布 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法			
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目		応用柔整トレーナー学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツトレーナーとしてフィジカル的、メディカル的にも対応できるように基礎から実践まで幅広く学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 機能解剖</li> <li>③ 肩の診方①</li> <li>④ 肩の診方②</li> <li>⑤ 肩の診方③</li> <li>⑥ 肩の診方④</li> <li>⑦ 肩の診方⑤</li> <li>⑧ 肘の診方②</li> <li>⑨ 肘の診方①</li> <li>⑩ 手・指の診方②</li> <li>⑪ 手・指の診方①</li> <li>⑫ 頸部の診方①</li> <li>⑬ 頸部の診方②</li> <li>⑭ まとめ</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復師と機能訓練指導 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	基本的な運動器の解剖学や運動学をしっかり復習したうえで講義にのぞむこと。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		応用柔整トレーナー学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツトレーナーとしてフィジカル的、メディカル的にも対応できるように基礎から実践まで幅広く学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ストレッチ復習</li> <li>② 手技療法①</li> <li>③ 手技療法②</li> <li>④ 筋力トレーニング概論</li> <li>⑤ マシントレーニング</li> <li>⑥ フリーウエイトトレーニング</li> <li>⑦ 自重トレーニング</li> <li>⑧ 有酸素トレーニング</li> <li>⑨ 目的別トレーニング①</li> <li>⑩ 目的別トレーニング②</li> <li>⑪ 栄養と運動</li> <li>⑫ プログラム作成①</li> <li>⑬ プログラム作成②</li> <li>⑭ 応急処置</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 柔道整復師と機能訓練指導 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	基本的な運動器の解剖学や運動学をしっかり復習したうえで講義にのぞむこと。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		臨床柔整トレーナー学	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	スポーツ現場におけるスポーツトレーナーの役割とその業務について理解し、具体的な症例に対して柔道整復師が行うスポーツトレーナーとして臨症的な対応がグループワークを行いながら患者に寄り添うことができる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 講義の進め方 (例)</li> <li>② 外傷の発生原因</li> <li>③ 外傷の症状</li> <li>④ 外傷の治療法</li> <li>⑤ 外傷の予後</li> <li>⑥ 外傷の固定法</li> <li>⑦ 外傷の後療法</li> <li>⑧ 1回目の発表試験</li> <li>⑨ 外傷の発生原因</li> <li>⑩ 外傷の症状</li> <li>⑪ 外傷の治療法</li> <li>⑫ 外傷の予後</li> <li>⑬ 外傷の固定法</li> <li>⑭ 外傷の後療法</li> <li>⑮ 2回目の発表試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 「柔道整復学・理論編 (改訂第6版)」 「柔道整復学・実技編 (改訂第2版)」 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技		
評価方法	定期試験を中心に、受講態度、出席状況など総合的に評価する。		
履修アドバイス	基本的な運動器の解剖学や運動学をしっかり復習したうえで講義にのぞむこと。		
担当教員(分担者)			



■授業科目		臨床実習Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 通年	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	45時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①医療人として必要な挨拶や、礼儀作法を身につける。②付属整骨院にて患者対応のシミュレーションを経て現場で実践できるようになる。骨格筋の機能を理解し、実践できる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 付属整骨院在り方</li> <li>② 挨拶・掃除・準備・片付け</li> <li>③ 受付</li> <li>④ 電話対応</li> <li>⑤ 問診の進め方①</li> <li>⑥ 問診の進め方②</li> <li>⑦ 受領委任説明</li> <li>⑧ レセコン（カルテ）入力</li> <li>⑨ 伸長法</li> <li>⑩ 運動療法</li> <li>⑪ 手技療法</li> <li>⑫ 身体評価①</li> <li>⑬ 身体評価②</li> <li>⑭ 身体評価③</li> <li>⑮ シュミレーション</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技演習		
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する		
履修アドバイス	基本的な挨拶はしっかり行い、実習施設の規則に従う事。欠席は条件付き課題提出とする。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目		臨床実習Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	45時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	医療・福祉に従事する者としてまた一般社会人として必要な態度や心構えを対象者と接する中であるいは実習先職員の指導を受ける中で学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 評価（問診・視診・触診の理解）</li> <li>③ 評価（問診・視診・触診の理解）</li> <li>④ 評価（問診・視診・触診の理解）</li> <li>⑤ 評価（問診・視診・触診の理解）</li> <li>⑥ 評価（問診・視診・触診の理解）</li> <li>⑦ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑧ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑨ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑩ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑪ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑫ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑬ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑭ 治療法（整復法・固定法）</li> <li>⑮ 治療法（整復法・固定法）</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 【参考文献】		
授業方法	実技演習		
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する		
履修アドバイス	基本的な挨拶はしっかり行い、実習施設の規則にしたがう事。		
担当教員(分担者)	小森		

■授業科目		臨床実習Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	1単位	時間	45時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	個々の対象者の多様性から引き起こされる障害の複雑さを理解し、これまでの学習の重要性を再認識すると共に今後の学習目標を明確にする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中間評価</li> <li>② 実習前指導 (復習)</li> <li>③ 実習前指導 (復習)</li> <li>④ 外部実習</li> <li>⑤ 外部実習</li> <li>⑥ 外部実習</li> <li>⑦ 外部実習</li> <li>⑧ 外部実習</li> <li>⑨ 外部実習</li> <li>⑩ 外部実習</li> <li>⑪ 外部実習</li> <li>⑫ 外部実習</li> <li>⑬ 外部実習</li> <li>⑭ 外部実習</li> <li>⑮ 最終評価</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】</b>		
授業方法	実技演習		
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する		
履修アドバイス	基本的な挨拶はしっかり行い、実習施設の規則にしたがう事。		
担当教員 (分担者)	小森		

■授業科目		臨床実習Ⅳ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 通年	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	45時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師が施術する外傷の病態を把握するための評価(問診、視診、触診)を学び、実践できるようにする。外傷、障害の検査法、評価法を学習する。骨折、脱臼、捻挫、挫傷といった枠にとらわれずに、各部位における外傷、障害について総合的に判断できる能力を養う。認定実技審査を見据えた知識だけでなく、臨床的能力の習得も目標とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 評価 (問診・視診・触診の理解)</li> <li>③ 評価 (問診・視診・触診の理解)</li> <li>④ 評価 (問診・視診・触診の理解)</li> <li>⑤ 評価 (問診・視診・触診の理解)</li> <li>⑥ 評価 (問診・視診・触診の理解)</li> <li>⑦ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑧ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑨ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑩ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑪ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑫ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑬ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑭ 治療法 (整復法・固定法)</li> <li>⑮ 治療法 (整復法・固定法)</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 柔道整復学 (理論編・実技編) 【参考文献】		
授業方法	実技演習		
評価方法	取り組みの態度、出席状況等で総合的に評価する		
履修アドバイス	実習施設の状況により講義内容は前後、変更することがあります。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		基礎演習Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①国家試験出題科目について合格できる知識を身につける。②毎週確認テストを実施することにより学習の継続力を身につける。		
授業内容	① コツコツ小テスト1 ② コツコツ小テスト2 ③ コツコツ小テスト3 ④ コツコツ小テスト4 ⑤ コツコツ小テスト5 ⑥ コツコツ小テスト6 ⑦ コツコツ小テスト7 ⑧ コツコツ小テスト8 ⑨ コツコツ小テスト9 ⑩ コツコツ小テスト10 ⑪ コツコツ小テスト11 ⑫ コツコツ小テスト12 ⑬ コツコツ小テスト13 ⑭ コツコツ小テスト14 ⑮ コツコツ小テスト15		
教科書 参考文献	【教科書】 毎日コツコツ丸暗記 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	国家試験合格するためには毎日暗記することが重要です。毎週の確認テストが主な内容ですのでしっかりと取り組んでください。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R6年度

■授業科目		基礎演習Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	①国家試験出題科目について合格できる知識を身につける。②毎週確認テストを実施することにより学習の継続力を身につける。		
授業内容	① コツコツ小テスト16 ② コツコツ小テスト17 ③ コツコツ小テスト18 ④ コツコツ小テスト19 ⑤ コツコツ小テスト20 ⑥ コツコツ小テスト21 ⑦ コツコツ小テスト22 ⑧ コツコツ小テスト23 ⑨ コツコツ小テスト24 ⑩ コツコツ小テスト25 ⑪ コツコツ小テスト26 ⑫ コツコツ小テスト27 ⑬ コツコツ小テスト28 ⑭ コツコツ小テスト29 ⑮ コツコツ小テスト30		
教科書 参考文献	【教科書】 毎日コツコツ丸暗記 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	国家試験合格するためには毎日暗記することが重要です。毎週の確認テストが主な内容ですのでしっかりと取り組んでください。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目		柔道整復セミナーⅠ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師が行う後療法を基礎から各損傷別に行っていく。正しく測定し、治療方法を選択、評価に至るまでの流れをしっかりと行えるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 講義の進め方</li> <li>② 国家試験対策問題演習①</li> <li>③ 国家試験対策問題演習②</li> <li>④ 国家試験対策問題演習③</li> <li>⑤ 国家試験対策問題演習④</li> <li>⑥ 国家試験対策問題演習⑤</li> <li>⑦ 国家試験対策問題演習⑥</li> <li>⑧ 国家試験対策問題演習⑦</li> <li>⑨ 国家試験対策問題演習⑧</li> <li>⑩ 国家試験対策問題演習⑨</li> <li>⑪ 国家試験対策問題演習⑩</li> <li>⑫ 国家試験対策問題演習⑪</li> <li>⑬ 国家試験対策問題演習⑫</li> <li>⑭ 国家試験対策問題演習⑬</li> <li>⑮ 国家試験対策問題演習⑭</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	国家試験出題科目について、各科目の講義あるいは問題演習とその解説などを行う。評価のために実施する試験の日程は別途通知する。欠席の場合、国家試験受験資格を喪失することがあるので試験を必ず受験すること		
評価方法	単位認定試験は柔道整復師国家試験模擬試験として実施する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目		柔道整復セミナーⅡ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城 聡裕
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師が行う後療法を基礎から各損傷別に行っていく。正しく測定し、治療方法を選択、評価に至るまでの流れをしっかりと行えるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 国家試験対策問題演習①</li> <li>② 国家試験対策問題演習②</li> <li>③ 国家試験対策問題演習③</li> <li>④ 国家試験対策問題演習④</li> <li>⑤ 国家試験対策問題演習⑤</li> <li>⑥ 国家試験対策問題演習⑥</li> <li>⑦ 国家試験対策問題演習⑦</li> <li>⑧ 国家試験対策問題演習⑧</li> <li>⑨ 国家試験対策問題演習⑨</li> <li>⑩ 国家試験対策問題演習⑩</li> <li>⑪ 国家試験対策問題演習⑪</li> <li>⑫ 国家試験対策問題演習⑫</li> <li>⑬ 国家試験対策問題演習⑬</li> <li>⑭ 国家試験対策問題演習⑭</li> <li>⑮ 国家試験対策問題演習⑮</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	国家試験出題科目について、各科目の講義あるいは問題演習とその解説などを行う。評価のために実施する試験の日程は別途通知する。欠席の場合、国家試験受験資格を喪失することがあるので試験を必ず受験すること		
評価方法	単位認定試験は柔道整復師国家試験模擬試験として実施する。		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			



■授業科目		柔道整復セミナーⅢ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	基礎医学および臨床医学の柔道整復学関連領域の知識と、その応用能力により柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 運動器の構造と機能</li> <li>③ 運動器の構造と機能</li> <li>④ 運動器の構造と機能</li> <li>⑤ 運動器の構造と機能</li> <li>⑥ 運動器の構造と機能</li> <li>⑦ 運動器の構造と機能</li> <li>⑧ 運動器の構造と機能</li> <li>⑨ 運動器の構造と機能</li> <li>⑩ 運動器の構造と機能</li> <li>⑪ 運動器の構造と機能</li> <li>⑫ 運動器の構造と機能</li> <li>⑬ 運動器の構造と機能</li> <li>⑭ 運動器の総合的把握</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学 【参考文献】		
授業方法	講義・演習		
評価方法	定期試験 小テストなど		
履修アドバイス	わからない事は積極的に質問すること。指定の教科書のみではなく様々な教科書を参考にする事。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		柔道整復セミナーⅣ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	基礎医学および臨床医学の柔道整復学関連領域の知識と、その応用能力により柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達する。		
授業内容	① 復習 (測定) ② 復習 (後療法) ③ 演習 ④ 演習 ⑤ 演習 ⑥ 演習 ⑦ 演習 ⑧ 演習 ⑨ 演習 ⑩ 演習 ⑪ 演習 ⑫ 演習 ⑬ 演習 ⑭ 演習 ⑮ 演習		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義・演習		
評価方法	期末試験、講義内発表、課題提出などで総合的に評価する		
履修アドバイス	わからない事は積極的に質問すること。指定の教科書のみではなく様々な教科書を参考にすること。		
担当教員 (分担者)			

■授業科目		スポーツ科学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	瑞慶覧 健
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	①各スポーツ競技の特性やルールを習得する。②興味と意欲を持って取り組む姿勢を学ぶ。③運動技能を一層向上させ事故の能力を知る。 ④健康・安全に留意して運動をする態度の育成。⑤障害スポーツとして継続的に楽しむ習慣を身に付ける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体育概要・スポーツアンケート作成・自己紹介</li> <li>② 筋肉の構造と骨格の仕組み</li> <li>③ トレーニング器具の名称と基本動作・体幹ストレッチ</li> <li>④ マシントレーニングの動作解析</li> <li>⑤ 実技（ネット系スポーツ）</li> <li>⑥ 実技（ネット系スポーツ）</li> <li>⑦ 実技（ゴール系スポーツ）</li> <li>⑧ 実技（ゴール系スポーツ）</li> <li>⑨ 実技（野球系スポーツ）</li> <li>⑩ 実技（野球系スポーツ）</li> <li>⑪ 実技（ゴルフ系スポーツ）</li> <li>⑫ 実技（ゴルフ系スポーツ）</li> <li>⑬ オリンピックの歴史と背景</li> <li>⑭ パラリンピックについて障害の階級と競技種目の説明</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】</b> ひらめきの極意とプレッシャー克服法戦うリハビリ（脳の可能性/常識への挑戦）		
授業方法	実技・講義		
評価方法	筆記試験：100点 実技点：各種目毎ポイント制		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目		スポーツ科学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	瑞慶覧 健
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	<p>①各スポーツ競技の特性やルールを習得する。②興味と意欲を持って取り組む姿勢を学ぶ。③運動技能を一層向上させ事故の能力を知る。 ④健康・安全に留意して運動をする態度の育成。⑤障害スポーツとして継続的に楽しむ習慣を身に付ける。</p>		
授業内容	<p>① 関節可動域とスポーツマッサージ ② 関節可動域とスポーツマッサージ ③ パターゴルフ18H大会 ④ ボルダリングに挑戦 ⑤ 実技（ネット系スポーツ） ⑥ 実技（ネット系スポーツ） ⑦ 実技（ゴール系スポーツ） ⑧ 実技（ゴール系スポーツ） ⑨ 初心者向けゴルフレッスン基本編 ⑩ 空手普及型実践（スポーツコート） ⑪ 3つのエネルギー育成（ATP再合成）機構の説明 ⑫ 静的ストレッチと動的ストレッチの違いと効果 ⑬ 伸張性反射と筋収縮について ⑭ 石川青少年センター集合 トレッキング（石川岳） ⑮ まとめ（試験）</p>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 【参考文献】ひらめきの極意とプレッシャー克服法戦うリハビリ（脳の可能性/常識への挑戦）</p>		
授業方法	実技・講義		
評価方法	筆記試験：100点 実技点：各種目毎ポイント制		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目		解剖学Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	蔵元 秀一
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	人体の基本的構造機能について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション・骨の名称</li> <li>② 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>③ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>④ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑤ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑥ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑦ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑧ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑨ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑩ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑪ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑫ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑬ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑭ 構造と機能の基礎/人体構造</li> <li>⑮ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 解剖学 改訂第2版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	定期試験 小テストなど		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		解剖学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学を学修する上で基礎となる解剖学を系統的に理解する。消化器系では消化管、肝臓などについて学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人体の総合</li> <li>② 人体の総合</li> <li>③ 循環</li> <li>④ 循環</li> <li>⑤ 循環</li> <li>⑥ 循環</li> <li>⑦ 循環</li> <li>⑧ 循環</li> <li>⑨ 循環</li> <li>⑩ 循環</li> <li>⑪ 呼吸器</li> <li>⑫ 呼吸器</li> <li>⑬ 呼吸器</li> <li>⑭ 呼吸器</li> <li>⑮ 呼吸器</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 解剖学 改訂第2版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		解剖学Ⅲ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学を学修する上で基礎となる解剖学を系統的に理解する。循環器では心臓、血管、泌尿器では腎臓、膀胱などについて学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 消化器</li> <li>② 消化器</li> <li>③ 消化器</li> <li>④ 消化器</li> <li>⑤ 消化器</li> <li>⑥ 消化器</li> <li>⑦ 泌尿器</li> <li>⑧ 泌尿器</li> <li>⑨ 泌尿器</li> <li>⑩ 泌尿器</li> <li>⑪ 生殖器</li> <li>⑫ 生殖器</li> <li>⑬ 生殖器</li> <li>⑭ 生殖器</li> <li>⑮ 生殖器</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 解剖学 改訂第2版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目		解剖学Ⅳ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学を学修する上で基礎となる解剖学を系統的に理解する。脳や神経の構造などについて学ぶ		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 脳と神経とは</li> <li>② 神経の構造と機能</li> <li>③ 神経の構造と機能</li> <li>④ 伝導と伝達</li> <li>⑤ 神経の構造</li> <li>⑥ 脊髄の構造と機能</li> <li>⑦ 脊髄の構造と機能</li> <li>⑧ 脳の構造と機能</li> <li>⑨ 脳の構造と機能</li> <li>⑩ 脳の構造と機能</li> <li>⑪ 脳の構造と機能</li> <li>⑫ 脳室と脳脊髄液</li> <li>⑬ 脊髄神経と脳神経</li> <li>⑭ 下行伝導路と上行伝導路</li> <li>⑮ 下行伝導路と上行伝導路</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 解剖学 改訂第2版 【参考文献】初回の講義において説明する。		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			



■授業科目		解剖学Ⅴ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復学を学修する上で基礎となる解剖学を系統的に理解する。生殖器や感覚器では耳や眼などについて学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生殖器</li> <li>② 生殖器</li> <li>③ 生殖器</li> <li>④ 生殖器</li> <li>⑤ 生殖器</li> <li>⑥ 内分泌</li> <li>⑦ 内分泌</li> <li>⑧ 内分泌</li> <li>⑨ 内分泌</li> <li>⑩ 内分泌</li> <li>⑪ 内分泌</li> <li>⑫ 下行伝導路と上行伝導路</li> <li>⑬ 下行伝導路と上行伝導路</li> <li>⑭ 下行伝導路と上行伝導路</li> <li>⑮ 下行伝導路と上行伝導路</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 解剖学 改訂第2版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	生理学 I
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	责任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	人体の生理機能について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人体の総合</li> <li>② 人体の総合</li> <li>③ 循環</li> <li>④ 循環</li> <li>⑤ 循環</li> <li>⑥ 循環</li> <li>⑦ 循環</li> <li>⑧ 循環</li> <li>⑨ 循環</li> <li>⑩ 循環</li> <li>⑪ 呼吸器</li> <li>⑫ 呼吸器</li> <li>⑬ 呼吸器</li> <li>⑭ 呼吸器</li> <li>⑮ 呼吸器</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能 1 生理学 改訂第4版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	生理学Ⅱ
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	人体の生理機能について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 消化器</li> <li>② 消化器</li> <li>③ 消化器</li> <li>④ 消化器</li> <li>⑤ 消化器</li> <li>⑥ 消化器</li> <li>⑦ 泌尿器</li> <li>⑧ 泌尿器</li> <li>⑨ 泌尿器</li> <li>⑩ 泌尿器</li> <li>⑪ 生殖器</li> <li>⑫ 生殖器</li> <li>⑬ 生殖器</li> <li>⑭ 生殖器</li> <li>⑮ 生殖器</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 生理学 改訂第4版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	生理学Ⅲ
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	人体の生理機能について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 眼の構造と働き</li> <li>② 眼の構造と働き</li> <li>③ 眼の構造と働き</li> <li>④ 耳の構造と聴覚・平衡感覚</li> <li>⑤ 耳の構造と聴覚・平衡感覚</li> <li>⑥ 耳の構造と聴覚・平衡感覚</li> <li>⑦ 味覚と嗅覚</li> <li>⑧ 痛み</li> <li>⑨ 演習</li> <li>⑩ 脳の活動とリズム</li> <li>⑪ 脳の活動とリズム</li> <li>⑫ 体温調整</li> <li>⑬ 体温調整</li> <li>⑭ まとめ</li> <li>⑮ 演習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能1 生理学 改訂第4版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	生理学Ⅳ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	人体の生理機能について理解する。高齢者・競技者の特徴と変化		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 演習</li> <li>② 高齢者の生理学の特徴</li> <li>③ 細胞・組織の加齢現象</li> <li>④ 加齢による臓器の変化</li> <li>⑤ 加齢による臓器の変化</li> <li>⑥ 高齢者の疾患・障害 1</li> <li>⑦ 高齢者の疾患・障害 2</li> <li>⑧ 運動と加齢</li> <li>⑨ 運動と身体発育</li> <li>⑩ 運動と身体発育 2</li> <li>⑪ 競技者の生理学の特徴 1</li> <li>⑫ 競技者の生理学の特徴 2</li> <li>⑬ 競技者の生理学の特徴 3</li> <li>⑭ 演習</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 解剖生理学 人体の構造と機能 1 生理学 改訂第4版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	人の解剖学と生理学は、医学のみならず、臨床においても土台となる基礎科目のため積極的に取り組んでほしい。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	病理学概論 I
-------	---------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	病理学概論では病気の概念を原因から出発して系統的に学修する。それにより、炎症とは何か、腫瘍とは何か、血液循環の障害の結果何が起こるか、などを理解することによって、多くの病気に共通する性質を理解し、個々の疾患学の基礎を形成することを目標とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 病理学について</li> <li>② 病理学と疾病</li> <li>③ 細胞障害</li> <li>④ 細胞障害</li> <li>⑤ 細胞障害</li> <li>⑥ 細胞障害</li> <li>⑦ 循環障害</li> <li>⑧ 循環障害</li> <li>⑨ 循環障害</li> <li>⑩ 循環障害</li> <li>⑪ 進行性病変</li> <li>⑫ 進行性病変</li> <li>⑬ 進行性病変</li> <li>⑭ 進行性病変</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版 <b>【参考文献】</b> 初回の講義において説明する。		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	基礎的な部分になるので、できないことをそのままにせず1つ1つ理解していくこと。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	病理学概論Ⅱ
-------	--------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	病理学概論では病気の原因から出発して系統的に学修する。それにより、炎症とは何か、腫瘍とは何か、血液循環の障害の結果何が起こるか、などを理解することによって、多くの病気に共通する性質を理解し、個々の疾患学の基礎を形成することを目標とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 炎症とアレルギー</li> <li>② 炎症とアレルギー</li> <li>③ 炎症とアレルギー</li> <li>④ 炎症とアレルギー</li> <li>⑤ 炎症とアレルギー</li> <li>⑥ 腫瘍</li> <li>⑦ 腫瘍</li> <li>⑧ 腫瘍</li> <li>⑨ 腫瘍</li> <li>⑩ 先天性異常</li> <li>⑪ 先天性異常</li> <li>⑫ 先天性異常</li> <li>⑬ 病因</li> <li>⑭ 病因</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	基礎的な部分になるので、できないことをそのままにせず1つ1つ理解していくこと。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		医療概論Ⅰ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	医療全般に関する総括的知識を修得する。 1. 医療の歴史の変遷および医療従事者としての倫理を理解できる。 2. 現代社会における保健医療の仕組み、専門職者の本質と役割を理解できる。		
授業内容	① オリエンテーション ② 概要 ③ 医療の歴史 ④ 医療の歴史 ⑤ 医療の歴史 ⑥ 医療と生命科学 ⑦ 医療と生命科学 ⑧ 医療と生命科学 ⑨ 医療にかかわる生き方 ⑩ 医療にかかわる生き方 ⑪ 医療にかかわる生き方 ⑫ 健康とは何だろう ⑬ 健康とは何だろう ⑭ 総括 ⑮ 演習		
教科書 参考文献	【教科書】 医療概論 医学書院 【参考文献】初回の講義において説明する。		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	日々の復習を怠らずに講義に臨むこと		
担当教員(分担者)			



■授業科目	医療概論Ⅱ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	医療全般に関する総括的知識を修得する。 1. 医療の歴史の変遷および医療従事者としての倫理を理解できる。 2. 現代社会における保健医療の仕組み、専門職者の本質と役割を理解できる。		
授業内容	① オリエンテーション 保健医療マナーを活用 ② する人々にとっての医療 保健医療マナーを活用 ③ する人々にとっての医療 とけ ④ 保健医療の提供システム ⑤ 保健医療の提供システム ⑥ 保健医療の提供システム ⑦ 様々な医療分野の概観 ⑧ 様々な医療分野の概観 ⑨ 様々な医療分野の概観 ⑩ 様々な医療分野の概観 ⑪ 保健医療を支える専門職 ⑫ 保健医療を支える専門職 ⑬ 保健医療を支える専門職 ⑭ 総括 ⑮ 演習		
教科書 参考文献	【教科書】 医療概論 医学書院 【参考文献】初回の講義において説明する。		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	日々の復習を怠らずに講義に臨むこと		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目

衛生学・公衆衛生学Ⅰ

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	公衆衛生活動への取り組みや自己の健康状態の把握ができる。衛生学の基礎知識を習得し、個人の疾病予防、健康増進に関する方策について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 公衆衛生学総論</li> <li>② 公衆衛生学総論</li> <li>③ 健康の概念</li> <li>④ 健康の概念についてまとめる</li> <li>⑤ 健康管理</li> <li>⑥ 健康保健についてまとめる</li> <li>⑦ 感染症の予防</li> <li>⑧ 食品衛生</li> <li>⑨ 感染症の予防・食品衛生についてまとめる。</li> <li>⑩ 消毒</li> <li>⑪ 消毒についてまとめる</li> <li>⑫ 環境衛生</li> <li>⑬ 環境衛生についてまとめる</li> <li>⑭ 生活環境</li> <li>⑮ 生活環境についてまとめる</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版 <b>【参考文献】</b> 初回の講義において説明する。		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	基礎的な部分になるので、できないことをそのままにせず1つ1つ理解していくこと。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
-------	------------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	责任担当教員	
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	公衆衛生活動への取り組みや自己の健康状態の把握ができる。衛生学の基礎知識を習得し、個人の疾病予防、健康増進に関する方策について理解する		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 母子保健</li> <li>② 母子保健について</li> <li>③ 学校保健</li> <li>④ 学校保健についてまとめる</li> <li>⑤ 産業保健</li> <li>⑥ 産業保健についてまとめる</li> <li>⑦ 成人・高齢者保健</li> <li>⑧ 成人・高齢者保健についてまとめる</li> <li>⑨ 精神保健</li> <li>⑩ 精神保健についてまとめる</li> <li>⑪ 地域保健</li> <li>⑫ 地域保健についてまとめる</li> <li>⑬ 保健医療制度</li> <li>⑭ 医療倫理</li> <li>⑮ 疫学</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版</p> <p>【参考文献】初回の講義において説明する。</p>		
授業方法	講義・演習・グループディスカッション		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	基礎的な部分になるので、できないことをそのままにせず1つ1つ理解していくこと。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	社会保障概論
-------	--------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	15時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	①日本の社会保障制度について学び、医療人として必要な知識を得る。②療養費に仕組みについて学び柔道整復師として必要な知識を得る。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会保障の仕組み</li> <li>② 医療保険制度</li> <li>③ 医療保険制度</li> <li>④ 療養費</li> <li>⑤ 問題演習</li> <li>⑥ 問題演習</li> <li>⑦ 問題演習</li> <li>⑧ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	国民医療と柔道整復の業務に関わる療養費について卒後に関わることも多いのでしっかりと知識を身に付けてください。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目	関係法規
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	15時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	①柔道整復師の業をする上で必要な柔道整復師法を理解する。②医療法や各医療関係職種の法律について学ぶ。③日本の法体系について基礎的な知識を得る。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 序論</li> <li>② 法の体系</li> <li>③ 柔道整復師法</li> <li>④ 柔道整復師法</li> <li>⑤ 柔道整復師法</li> <li>⑥ 柔道整復師法</li> <li>⑦ 柔道整復師法</li> <li>⑧ その他関係法規</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 関係法規 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	スライドを中心に講義を進める。国家試験必修科目であるため講義後にはその都度復習するように。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

■授業科目	柔道Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道の基本的な動作を学ぶことを主体とし、講義を進行していく。具体的には、柔道の歴史、柔道着の着方や礼法から始まり、怪我防止のための受身、基本的な投技の習得をしていく。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 礼法（座礼・立礼）</li> <li>③ 礼法・後方受身</li> <li>④ 前受身</li> <li>⑤ 後方受身・前受身</li> <li>⑥ 横受身</li> <li>⑦ 後方受身・横受身</li> <li>⑧ 後受身・横受身・前方回転受身</li> <li>⑨ 後受身・横受身・前方回転受身</li> <li>⑩ 後受身・横受身・前方回転受身</li> <li>⑪ 後受身・横受身・前方回転受身（応用）</li> <li>⑫ 後受身・横受身・前方回転受身（応用）</li> <li>⑬ 後受身・横受身・前方回転受身（応用）</li> <li>⑭ 礼法・前方回転受身 試験</li> <li>⑮ 礼法・前方回転受身 まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】</p> <p>【参考文献】柔道実技 虎の巻</p>		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

■授業科目	柔道Ⅱ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	儀間 優汰
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道の基本的な動作を学ぶことを主体とし、講義を進行していく。具体的には、柔道の歴史、柔道着の着方や礼法から始まり、怪我防止のための受身、基本的な投技の習得をしていく。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 浮落（手技）</li> <li>③ 浮落（手技）</li> <li>④ 浮落・背負投・肩車（手技）</li> <li>⑤ 浮落・背負投（手技）</li> <li>⑥ 手技①</li> <li>⑦ 手技②</li> <li>⑧ 手技③</li> <li>⑨ 手技④</li> <li>⑩ 手技⑤</li> <li>⑪ 礼法・手技</li> <li>⑫ 礼法・手技</li> <li>⑬ 礼法・手技</li> <li>⑭ 礼法・手技 試験</li> <li>⑮ 礼法・手技まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】柔道実技 虎の巻</b>		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	儀間優汰		

R6年度

■授業科目	柔道Ⅲ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 礼法・手技</li> <li>③ 浮腰（腰技）</li> <li>④ 浮腰（腰技）</li> <li>⑤ 浮腰・払腰（腰技）</li> <li>⑥ 浮腰・払腰（腰技）</li> <li>⑦ 浮腰・払腰（腰技）</li> <li>⑧ 釣込腰（腰技）</li> <li>⑨ 釣込腰（腰技）</li> <li>⑩ 腰技①</li> <li>⑪ 腰技②</li> <li>⑫ 腰技③</li> <li>⑬ 礼法・腰技</li> <li>⑭ 礼法・腰技まとめ</li> <li>⑮ 礼法・腰技 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】</p> <p>【参考文献】柔道実技 虎の巻</p>		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		



■授業科目	柔道Ⅳ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	瀬戸口 大作
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 礼法・腰技</li> <li>② 礼法・腰技</li> <li>③ 送足払（足技）</li> <li>④ 送足払（足技）</li> <li>⑤ 送足払・支釣込足（足技）</li> <li>⑥ 送足払・支釣込足（足技）</li> <li>⑦ 送足払・支釣込足・内股（足技）</li> <li>⑧ 送足払・支釣込足・内股（足技）</li> <li>⑨ 手技・腰技・足技</li> <li>⑩ 礼法・投形</li> <li>⑪ 礼法・投形</li> <li>⑫ 礼法・投形</li> <li>⑬ 礼法・投形</li> <li>⑭ 礼法・投形 まとめ</li> <li>⑮ 礼法・投形 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】</p> <p>【参考文献】柔道実技 虎の巻</p>		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)	瀬戸口		

R6年度

■授業科目	柔道Ⅴ
-------	-----

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道における技の習熟を目標とし、乱取や試合練習ができるように学ぶ。また柔道における傷害の特徴と救急処置を理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 礼法・受身</li> <li>② 礼法・手技</li> <li>③ 礼法・腰技</li> <li>④ 礼法・足技</li> <li>⑤ 礼法・投形</li> <li>⑥ 礼法・投形</li> <li>⑦ 礼法・投形</li> <li>⑧ 約束乱取</li> <li>⑨ 約束乱取</li> <li>⑩ 約束乱取</li> <li>⑪ 約束乱取</li> <li>⑫ 約束乱取</li> <li>⑬ 礼法・受身・形・約束乱取 試験</li> <li>⑭ 礼法・受身・形・約束乱取 まとめ</li> <li>⑮ 礼法・受身・形・約束乱取 まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】</b> 柔道実技 虎の巻		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	柔道VI
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	
単位	1単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道における技の習熟を目標とし、乱取や試合練習ができるように学ぶ。また柔道における傷害の特徴と救急処置を理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 総まとめ副腫</li> <li>② 総まとめ副腫</li> <li>③ 総まとめ副腫</li> <li>④ 総まとめ副腫</li> <li>⑤ 総まとめ副腫</li> <li>⑥ 認定実技対策</li> <li>⑦ 認定実技対策</li> <li>⑧ 認定実技対策</li> <li>⑨ 認定実技対策</li> <li>⑩ 認定実技対策</li> <li>⑪ 認定実技対策</li> <li>⑫ 認定実技対策</li> <li>⑬ 認定実技対策</li> <li>⑭ 認定実技対策</li> <li>⑮ 認定実技対策 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> <b>【参考文献】柔道実技 虎の巻</b>		
授業方法	実技		
評価方法	授業への参加と試験の結果を総合的に判断して評価する。		
履修アドバイス	自己管理も含め不可抗力的な怪我もあることを留意し、危険が常に伴うことを考え行動すること。		
担当教員(分担者)			

■授業科目		職業倫理	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	小森 瑛梨奈
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	社会的な倫理や医療の倫理、柔道整復師としての倫理を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 柔道整復師の業務</li> <li>③ 社会保険制度とは</li> <li>④ 療養費とは 柔道整復療養費①</li> <li>⑤ 柔道整復師療養費②</li> <li>⑥ ケーススタディ①</li> <li>⑦ ケーススタディ②</li> <li>⑧ ケーススタディ③</li> <li>⑨ 社会保険制度発表①</li> <li>⑩ 社会保険制度発表②</li> <li>⑪ 医療保険制度とは</li> <li>⑫ 介護保険制度とは</li> <li>⑬ 機能訓練指導</li> <li>⑭ 高齢者に多い疾患</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 <b>【参考文献】</b> 柔道整復師と機能訓練指導		
授業方法	講義		
評価方法	講義内発表、レポート提出、試験などで総合的に評価する		
履修アドバイス	柔道整復師として必ず知っておかなくてはならない教科です。復習をしっかりと行いましょう。		
担当教員(分担者)	小森		

R6年度

■授業科目	人文科学Ⅰ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	比嘉 弘美
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	心理学に親しむことを通して、「人」というものに対して関心を持ち、理解を深める。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 言語・言語表現としてのインタビューとスピーチ</li> <li>② 文学とは何かを探る①</li> <li>③ 文学とは何かを探る②</li> <li>④ 沖縄文学</li> <li>⑤ 漢字語彙①</li> <li>⑥ 漢字語彙②</li> <li>⑦ 句読点・接続表現</li> <li>⑧ 語り口の特徴</li> <li>⑨ 地の文と会話の文</li> <li>⑩ 医療現場・日常で使われる漢字</li> <li>⑪ 漢字の音訓</li> <li>⑫ 敬語表現の基礎知識</li> <li>⑬ 詩の鑑賞①</li> <li>⑭ 詩の鑑賞②</li> <li>⑮ 期末テスト</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> はじめてふれる心理学、配布資料 <b>【参考文献】</b> 配布資料		
授業方法	講義		
評価方法	試験50点 平常点50点		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	人文科学Ⅱ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	比嘉 弘美
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	心理学に親しむことを通して、「人」というものに対して関心を持ち、理解を深める。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 琉球方言①</li> <li>② 琉球方言②</li> <li>③ 琉球方言③</li> <li>④ 琉球方言④</li> <li>⑤ 琉球文学</li> <li>⑥ 俳句と短歌の鑑賞</li> <li>⑦ 詩の紹介</li> <li>⑧ 現場日常で使われる用語</li> <li>⑨ 介護/福祉用語</li> <li>⑩ 文章要約</li> <li>⑪ 話し合いの仕方</li> <li>⑫ スピーチ概論</li> <li>⑬ スピーチ原稿の書き方</li> <li>⑭ スピーチ実技</li> <li>⑮ 期末テスト</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 はじめてふれる心理学、配布資料</p> <p>【参考文献】 配布資料</p>		
授業方法	講義		
評価方法	試験50点 平常点50点		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

■授業科目	社会科学Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	熊谷 久世
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	法律、政治、経済、国際社会など、社会科学領域において日常に起こる社会現象一般を題材として、「読み・書き・聞き・話す」を繰り返し、一般的・基礎的教養を習得するとともに、コミュニケーションの向上を図る。高校までの知識レベルから、これから高等専門教育を受けるための基礎的水準にまで到達することを目標とする。		
授業内容	<p>① 講義ガイダンス：社会科学とは/リーガルマインド/レジюме作成</p> <p>② レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>③ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>④ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑤ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑥ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑦ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑧ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑨ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑩ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑪ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑫ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑬ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑭ レジюме提出・報告・質疑応答・解説及び小論文</p> <p>⑮ 期末テスト</p>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 全国紙及び地方紙のコピー</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	講義・発表		
評価方法	試験40点平常点60点（提出レジюме、グループ報告、質疑応答、小論文など）		
履修アドバイス	各自作成したレジюмеを全員分コピー配布する（毎週）		
担当教員(分担者)			

■授業科目	社会科学Ⅱ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	熊谷 久世
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	法律、政治、経済、国際社会など、社会科学領域において日常に起こる社会現象一般を題材として、「読み・書き・聞き・話す」を繰り返し、一般的・基礎的教養を習得するとともに、コミュニケーションの向上を図る。高校までの知識レベルから、これから高等専門教育を受けるための基礎的水準にまで到達することを目標とする。		
授業内容	<p>① 講義ガイダンス：グループ学習の成果としてレジメを作成し、順次報告及び質疑応答</p> <p>② レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>③ レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>④ レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑤ レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑥ レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑦ レジメ提出・報告・質疑応答・解説及び小論文 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り） レジメ提出 グループ報告レジュメを全員に配布する。 グループ報告準備（テーマ設定、報告書作り）</p> <p>⑧ レジメ提出 グループごとに報告 報告①</p> <p>⑨ レジメ提出 グループごとに報告 報告②</p> <p>⑩ レジメ提出 グループごとに報告 報告③</p> <p>⑪ レジメ提出 グループごとに報告 報告④</p> <p>⑫ レジメ提出 グループごとに報告 報告⑤</p> <p>⑬ レジメ提出 グループごとに報告 報告⑥</p> <p>⑭ レジメ提出 グループごとに報告 報告⑦</p> <p>⑮ 期末テスト</p>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 全国紙及び地方紙のコピー</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	講義・発表		
評価方法	試験40点平常点61点（提出レジメ、グループ報告、質疑応答、小論文など）		
履修アドバイス	各自作成したレジメを全員分コピー配布する（毎週）		
担当教員(分担者)			



R6年度

■授業科目	自然科学Ⅰ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	宮里 幸利
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	生物の基本的な原理、法則への理解を深め、専門技能への深化につなげる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生物学を学ぶ基礎知識</li> <li>② 細胞の構造と機能</li> <li>③ 細胞分裂</li> <li>④ 発生と分化、ヒトの発生と成長</li> <li>⑤ 消化と吸収</li> <li>⑥ 栄養素の利用</li> <li>⑦ 血液と免疫Ⅰ</li> <li>⑧ 血液と免疫Ⅱ</li> <li>⑨ 血液の循環と呼吸</li> <li>⑩ 体液調節と尿生成</li> <li>⑪ 運動の法則</li> <li>⑫ てこの原理</li> <li>⑬ 問題演習と復習Ⅰ</li> <li>⑭ 問題演習</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 ていねいな生物学 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	試験		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	自然科学Ⅱ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	宮里 幸利
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	生物の基本的な原理、法則への理解を深め、専門技能への深化につなげる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 神経の構造と機能</li> <li>② 脳の構造と働き</li> <li>③ 筋収縮のしくみ</li> <li>④ 刺激の受容としくみⅠ</li> <li>⑤ 刺激の受容としくみⅡ</li> <li>⑥ ホルモンの種類と働き</li> <li>⑦ ホルモンによる生理機能の調節</li> <li>⑧ 化学基礎Ⅰ</li> <li>⑨ 化学基礎Ⅱ</li> <li>⑩ 遺伝の法則と血液型の遺伝</li> <li>⑪ 光合成と植物の生殖</li> <li>⑫ 沖縄の自然</li> <li>⑬ 問題演習と復習Ⅰ</li> <li>⑭ 問題演習</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 #N/A 【参考文献】#N/A		
授業方法	#N/A		
評価方法	#N/A		
履修アドバイス	#N/A		
担当教員(分担者)	#N/A		

■授業科目	外国語 I		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 前期	責任担当教員	新垣 實
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	患者さんと基礎英語でコミュニケーションができること。		
授業内容	<p>① Unit1:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>② Unit2:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>③ Unit3:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>④ Unit4:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑤ Unit5:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑥ Unit6:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑦ Unit7:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑧ Unit8:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑨ Unit9:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑩ Unit10:Substition Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice</p> <p>⑪ Unit11:Substition Practice2, Medical English Phrases4, Dialogue Practice</p> <p>⑫ Unit12:Substition Practice2, Medical English Phrases5, Dialogue Practice</p> <p>⑬ Unit13:Substition Practice2, Medical English Phrases6, Dialogue Practice</p> <p>⑭ Unit14:Substition Practice2, Medical English Phrases7, Dialogue Practice</p> <p>⑮ まとめ (試験)</p>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> プリント教材English Textbook I <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	試験60点 平常点40点		
履修アドバイス	1) Substitution Practice 医療英語の基本文型頭の置き換え練習を通して、話書く為に必要な構文を対話練習しながら身につける。ペアでレッスンする。 2) From Medical English Phrases 医療英語を通して英会話決して難しいものではない		
担当教員(分担者)			

■授業科目		外国語Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科1年 後期	責任担当教員	新垣 實
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	患者さんと基礎英語でコミュニケーションがとれること。		
授業内容	① Unit1: Dialogue Practice2 Medical English Phrases ② Unit2: Substitution Practice2, Medical English Phrases3, Dialogue Practice ③ Unit3: Substitution Practice2, Medical English Phrases4, Dialogue Practice ④ Unit4: Substitution Practice2, Medical English Phrases5, Dialogue Practice ⑤ Unit5: Substitution Practice2, Medical English Phrases6, Dialogue Practice ⑥ Unit6: Substitution Practice2, Medical English Phrases7, Dialogue Practice ⑦ Unit7: Substitution Practice2, Medical English Phrases8, Dialogue Practice ⑧ Unit8: Substitution Practice2, Medical English Phrases9, Dialogue Practice ⑨ Unit9: Substitution Practice2, Medical English Phrases10, Dialogue Practice ⑩ Unit10: Substitution Practice2, Medical English Phrases11, Dialogue Practice ⑪ Unit11: Substitution Practice2, Medical English Phrases12, Dialogue Practice ⑫ Unit12: Substitution Practice2, Medical English Phrases13, Dialogue Practice ⑬ Unit13: Substitution Practice2, Medical English Phrases14, Dialogue Practice ⑭ Unit14: Substitution Practice2, Medical English Phrases15, Dialogue Practice ⑮ まとめ (試験)		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> プリント教材English TextbookⅡ <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	試験60点 平常点41点		
履修アドバイス	1) Substitution Practice 医療英語の基本文型頭の置き換え練習を通して、話書く為に必要な構文を対話練習しながら身につける。ペアでレッスンする。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	運動学Ⅰ		
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	砂川 力也
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	本講義は、運動学を基礎として、科学的根拠に基づいたトレーニング方法を学習する。また、身体のメカニズムを理解するとともに、現代社会における様々な健康課題を取り上げ、生命維持の観点から体力の重要性を考え、日常生活で実践できるようにする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業ガイダンス</li> <li>② バイオメカニクスとは？</li> <li>③ スカラーとベクトル</li> <li>④ 並進運動と回転運動</li> <li>⑤ 並進運動の力学</li> <li>⑥ 回転運動の力学</li> <li>⑦ 流体力学</li> <li>⑧ 運動実践学</li> <li>⑨ 運動生理学と解剖学の基礎</li> <li>⑩ 立位姿勢の科学</li> <li>⑪ 歩行と走行の科学</li> <li>⑫ 筋腱複合体</li> <li>⑬ 運動スキル</li> <li>⑭ バイオメカニクスの測定と評価</li> <li>⑮ 授業統括</li> </ul>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 運動学</p> <p>【参考文献】 バイオメカニクスで読み解くスポーツ動作の科学</p>		
授業方法	PowerPointにてスライドを表示しながら、授業を進める。		
評価方法	毎回の小テスト100%		
履修アドバイス	授業で公開するスライド内に殆どの答えが載っているため小テストの難易度は高くない。		
担当教員(分担者)	砂川 力也		

■授業科目		運動学Ⅱ	
履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	砂川 力也
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	本講義は、運動学を基礎として、生体力学を中心とした運動やスポーツに関わる専門的知識を学ぶ。人の動きの仕組みを理解し、現代社会における様々な課題に対して対応できる能力を身に付ける。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業ガイダンス</li> <li>② 体力学総論</li> <li>③ 呼吸循環器系、エネルギー代謝と運動</li> <li>④ 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動</li> <li>⑤ 運動と栄養に関する基礎理論</li> <li>⑥ 運動と心理に関する基礎理論</li> <li>⑦ バイオメカニクスの基礎理論</li> <li>⑧ スポーツ・トレーニング動作のバイオメカニクス</li> <li>⑨ スポーツ傷害とリハビリテーション</li> <li>⑩ トレーニング計画の立案</li> <li>⑪ トレーニング法の理論とプログラム</li> <li>⑫ トレーニング効果の測定と評価</li> <li>⑬ 性・年齢に応じた運動</li> <li>⑭ 健康づくりと運動プログラム</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 運動学 <b>【参考文献】</b> トレーニング科学, 文光堂, 2011年ストレングス&コンディショニングⅠ [		
授業方法	PowerPointにてスライドを表示しながら、授業を進める。		
評価方法	定期試験70% 課題またはレポート30%		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)	砂川 力也		

■授業科目	リハビリテーション医学Ⅰ
-------	--------------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	金城 仁
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	リハビリテーション医学の基礎を学ぶ		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リハビリテーションの概念・歴史・定義・理念</li> <li>② リハビリテーションの4分野、国際障害分類 国際生活機能分類、リハビリテーション医学の流れ</li> <li>③ 運動学と機能解剖、四肢長、四肢周径、関節可動域、基本肢位</li> <li>④ 筋肉の構造、筋収縮 反射、重心、歩行</li> <li>⑤ 身体所見、バイタルサイン、意識障害 小児運動発達の評価、原始反射</li> <li>⑥ ADL、IADL、バーセル指数、FIM 心理的評価、認知症の評価、電気生理学的検査</li> <li>⑦ 画像診断、失調症</li> <li>⑧ 障害の評価、関節拘縮、関節変形、筋萎縮、痙縮 神経麻痺、徒手筋力テスト、ブルンストローム法ステージ</li> <li>⑨ 摂食嚥下障害、高次機能障害</li> <li>⑩ 障害の受容、廃用性症候群、関節可動域訓練、リンパ浮腫</li> <li>⑪ 運動単位、筋繊維の種類と性質、筋肉とエネルギー 筋収縮の種類、筋力強化、中枢性麻痺・痙縮へのアプローチ</li> <li>⑫ 慢性疼痛、痛みの伝導路、バイオフィードバック 歩行障害に対するリハビリ、全身運動、リスク管理</li> <li>⑬ リハビリ関連職種、理学療法（運動療法・物理療法）</li> <li>⑭ 作業療法、言語聴覚療法</li> <li>⑮ まとめ 試験</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> リハビリテーション医学 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	PC, プロジェクターの準備をしておくように		
担当教員(分担者)			

■授業科目	リハビリテーション医学Ⅱ
-------	--------------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	金城 仁
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	リハビリテーション医学の基礎を学ぶ		
授業内容	<p>① 上肢装具、下肢装具、体幹装具</p> <p>② 義肢、歩行補助具、車椅子、自助具</p> <p>③ 高齢者のリハビリテーション、平均寿命と健康寿命ノレイル、ロコモティブシンドローム</p> <p>④ パーキンソン病のリハビリテーション</p> <p>⑤ 脳卒中のリハビリテーション</p> <p>⑥ 骨折治癒機転、整復法と固定法、骨折の保存的治療と手術的治療 偽関節と骨折癒合遅延因子</p> <p>⑦ 骨粗鬆症、骨粗鬆症における骨折好発部位</p> <p>⑧ 脊椎骨折、橈骨遠位端骨折</p> <p>⑨ 上腕骨近位部骨折、捻挫、足関節捻挫</p> <p>⑩ 上肢損傷後症候群 肩関節・テニス肘・野球肘・変形性肘関節症</p> <p>⑪ 上肢損傷後症候群 Volkmann拘縮・手関節・手指</p> <p>⑫ 下肢損傷後症候群 大腿骨近位部骨折、股関節脱臼、ペルテス病、発育性股関節形成不全症</p> <p>⑬ 下肢損傷後症候群 膝関節靭帯損傷、変形性膝関節症、踵骨骨折、中足骨骨折</p> <p>⑭ 頸肩腕症候群、胸郭出口症候群、バレ・リュー症候群</p> <p>⑮ 脊髄損傷のリハビリテーション</p> <p>⑯ 腰痛症、肋骨骨折、アキレス腱断裂、リハビリテーションと福祉</p> <p>⑰ 試験</p>		
教科書 参考文献	<p>【教科書】 リハビリテーション医学</p> <p>【参考文献】</p>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス	PC, プロジェクターの準備をしておくように		
担当教員(分担者)			



R6年度

■授業科目	臨床医学Ⅰ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 前期	責任担当教員	松岡 理奈
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	実際の診察現場をイメージでき、適切な診察に繋げる事		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・診察概論・医療面接</li> <li>② 診察・視診①</li> <li>③ 診察・視診②</li> <li>④ 診察・打診</li> <li>⑤ 診察・聴診</li> <li>⑥ 診察・触診</li> <li>⑦ 診察・生命徴候</li> <li>⑧ 診察・感覚検査</li> <li>⑨ 診察・反射検査</li> <li>⑩ 診察・臨床症状①</li> <li>⑪ 診察・臨床症状②</li> <li>⑫ 検査法</li> <li>⑬ 症例揭示</li> <li>⑭ 期末試験</li> <li>⑮ 解説</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 一般臨床医学、配布資料 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・平常点		
履修アドバイス	パワーポイントでプレゼンテーションするため、講義前にパソコンを用意するように。		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	臨床医学Ⅱ
-------	-------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科2年 後期	責任担当教員	松岡 理奈
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	診察から得られた情報から、各疾患に結び付けられること。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 循環器①</li> <li>② 循環器②</li> <li>③ 消化器①</li> <li>④ 消化器②</li> <li>⑤ 代謝性疾患</li> <li>⑥ 内分泌疾患</li> <li>⑦ 血液・造血器疾患</li> <li>⑧ 腎・尿路疾患</li> <li>⑨ 脳・神経疾患</li> <li>⑩ 感染症</li> <li>⑪ アレルギー疾患</li> <li>⑫ 膠原病</li> <li>⑬ 環境因子による疾病・中毒</li> <li>⑭ 期末試験</li> <li>⑮ 解説</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 一般臨床医学、配布資料 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験・平常点		
履修アドバイス	パワーポイントでプレゼンテーションするため、講義前にパソコンを用意するように。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	整形外科学Ⅰ
-------	--------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	秋山 幸平
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師は筋、骨格や関節に関連した健康上の問題を扱う職業であり、その知識は医学の一分野である整形外科学と共有した部分が多い。実際の現場で臨機応変に対応するために、整形外科学の知識を深く理解することを目的とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 整形外科の基本</li> <li>② 運動・知覚(前半)</li> <li>③ 運動・知覚(後半)</li> <li>④ 検査</li> <li>⑤ 治療</li> <li>⑥ 骨折</li> <li>⑦ 感染症</li> <li>⑧ 腫瘍</li> <li>⑨ 関節炎</li> <li>⑩ 骨系統疾患</li> <li>⑪ 骨端症</li> <li>⑫ 神経絞扼性疾患</li> <li>⑬ 腕神経叢</li> <li>⑭ ダイジェスト</li> <li>⑮ まとめ(試験)</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 整形外科学(改訂4版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	成績評価基準は、期末試験の獲得点数が主であるが、それにて評価が難しい場合は、再評		
履修アドバイス	柔道整復師は、一対一で「病を持つ人」の前に立つことを許された国家資格である。整形外科学の知識が一般人以下であるのは、たとえ学生であっても恥ずべきことであると		
担当教員(分担者)			

■授業科目	整形外科学Ⅱ
-------	--------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	秋山 幸平
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	柔道整復師は筋、骨格や関節に関連した健康上の問題を扱う職業であり、その知識は医学の一分野である整形外科学と共有した部分が多い。実際の現場で臨機応変に対応するために、整形外科学の知識を深く理解することを目的とする。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 頸椎①</li> <li>② 頸椎②</li> <li>③ 胸椎</li> <li>④ 腰椎</li> <li>⑤ 肩</li> <li>⑥ 肘</li> <li>⑦ 前腕・手関節</li> <li>⑧ 手</li> <li>⑨ 骨盤・股関節</li> <li>⑩ 大腿</li> <li>⑪ 膝</li> <li>⑫ 下腿</li> <li>⑬ 足関節</li> <li>⑭ 期末試験</li> <li>⑮ まとめ</li> </ul>		
教科書 参考文献	【教科書】 整形外科学(改訂5版) 南江堂 【参考文献】		
授業方法	講義		
評価方法	成績評価基準は、期末試験の獲得点数が主であるが、それにて評価が難しい場合は、再試		
履修アドバイス	柔道整復師は、一対一で「病を持つ人」の前に立つことを許された国家資格である。整形外科学の知識が一般人以下であるのは、たとえ学生であっても恥ずべきことであると		
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	外科学Ⅰ
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 前期	責任担当教員	川崎 雅人
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	外科的疾患の特徴、治療法を理解し説明することができるようになる。EBM、インフォームドコンセントを理解し、患者対応に活かすことができるようになる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 損傷①</li> <li>② 損傷②</li> <li>③ 炎症、外科感染症①</li> <li>④ 外科感染症②</li> <li>⑤ 腫瘍①</li> <li>⑥ 腫瘍②</li> <li>⑦ ショック</li> <li>⑧ 輸血・輸液①</li> <li>⑨ 輸血・輸液②</li> <li>⑩ 消毒と滅菌</li> <li>⑪ 手術</li> <li>⑫ 麻酔</li> <li>⑬ 移植と免疫</li> <li>⑭ 出血と止血</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 外科学概論 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

R6年度

■授業科目	外科学Ⅱ
-------	------

履修時期	メディカルスポーツ柔道整復学科3年 後期	責任担当教員	川崎 雅人
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
授業の目標	外科的疾患の特徴、治療法を理解し説明することができるようになる。EBM、インフォームドコンセントを理解し、患者対応に活かすことが出来るようになる。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 心肺蘇生法</li> <li>② 脳外科疾患①</li> <li>③ 脳外科疾患②</li> <li>④ 甲状腺、頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患①</li> <li>⑤ 胸壁・呼吸器疾患②</li> <li>⑥ 心臓・脈管疾患①</li> <li>⑦ 心臓・脈管疾患②</li> <li>⑧ 乳腺疾患</li> <li>⑨ 腹部外科疾患①</li> <li>⑩ 腹部外科疾患②</li> <li>⑪ 腹部外科疾患③</li> <li>⑫ 腹部外科疾患④</li> <li>⑬ 前期・後期授業復習</li> <li>⑭ 前期・後期授業復習</li> <li>⑮ まとめ（試験）</li> </ul>		
教科書 参考文献	<b>【教科書】</b> 外科学概論 <b>【参考文献】</b>		
授業方法	講義		
評価方法	定期試験		
履修アドバイス			
担当教員(分担者)			

科目名		英語	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	玉城 麻乃	科目副担当	
目 標	GIO	英語に親しみ、簡単なスキット、ワーク等を通してコミュニケーション能力を向上する。 幼保英語検定の取得	
	SBOs	〈認知領域(知識)〉 保育現場で必要とする基本的な英語コミュニケーションを身につける。 異文化や多様性にふれ、理解や受容を深めることができる。 〈認知領域(習慣・態度)〉 表現や考え方の違いを尊重し、協調できる。 英語の基本的なコミュニケーションを効果的にできる。 〈認知領域(技術)〉 身振り手振りを添えた簡単な英会話の技術の習得ができる。	
講 義 計 画	第1回	自己紹介 英語実力テスト リスニング	
	第2回	幼保テキスト 第一章 登園 Going to school リスニング	
	第3回	幼保テキスト 第二章 屋内活動① Indoor activities① リスニング	
	第4回	幼保テキスト 第三章 屋内活動② Indoor activities② リスニング スキット	
	第5回	幼保テキスト 第四章 トイレ Going to the bathroom リスニング	
	第6回	幼保テキスト 第五章 屋外活動① Outside activities① リスニング スキット	
	第7回	幼保テキスト 第六章 屋外活動② Outside activities② リスニング	
	第8回	Movie time 英語を聞き取る力を身につけよう	
	第9回	幼保テキスト 第七章 お昼ごはん Lunch time リスニング	
	第10回	幼保テキスト 第八章 お昼寝 Nap time リスニング スキット	
	第11回	単語小テスト English game リスニング	
	第12回	幼保テキスト 第九章 お迎え Going home リスニング	
	第13回	幼保テキスト 第十章 乳児保育 Infant Care リスニング	
	第14回	幼保テキスト ふりかえり	
	第15回	まとめ 試験	
教科書	幼保英検テキスト4級		
授業方法	講義、ワーク		
評定方法	試験：20点、出席率：30点、		
履修 アドバイス	・クラスへの参加が最も重要視されます。自身の体調管理はしっかりと行い、理由のない欠席はしないこと。 ・グループや個人での発表は積極的に取り組むこと。		

24/13

科目名		社会的養護 I	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	古御堂 正	科目副担当	
目 標	GIO	社会的養護の歴史の変遷や現状、意義、制度について理解し、子どもの人権擁護や社会的養護を踏まえた「こども観」を持つとともに、社会的養護を実践するために必要な保育者としての基本的な知識を身につけることを目的とする。	
	SBOs	社会的養護の仕組みと現状、意義、課題、専門職の役割等について、子どもの育ちに関する様々な「社会問題」を紹介しながら整理していく。	
講 義 計 画	第1回	社会的養護①～改正児童福祉法～	
	第2回	社会的養護②～児童虐待～	
	第3回	措置制度①～乳児院、養護施設～	
	第4回	措置制度②～自立支援施設 他～	
	第5回	契約施設①～母子生活支援施設他～	
	第6回	契約施設②～障害 児童～	
	第7回	社会的養護の歴史	
	第8回	支援の実際①	
	第9回	支援の実際②	
	第10回	ソーシャルワークと家庭支援	
	第11回	里親制度	
	第12回	児童福祉施設の運営管理	
	第13回	こども家庭庁 子ども食堂	
	第14回	貧困、社会福祉、社会保障	
	第15回	まとめ	
教科書	社会的養護 I (萌文書林)		
授業方法	講義		
評定方法	ミニ感想文、ワークシートの活用、出席率等の総合判断。		
履修 アドバイス	ア		



科目名		社会福祉	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	新城 啓太	科目副担当	
目標	GIO	児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする保育士としての専門的な資質を身につけていく上で「社会福祉」における変遷・現状(課題)・仕組み・支援などを理解することを目的とする。	
	SBOs	多様化する福祉的なニーズに対応していく専門職の一員として「現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷」「社会福祉の制度と実施体系」「社会福祉における相談援助」「社会福祉における利用者の保護に関する仕組み」「社会福祉の動向と課題」の5つをテーマに分類し、座学・グループワークなどを用いて学びを深める。	
講義計画	第1回	社会福祉ってなんだろう？	
	第2回	子どもと家族の福祉①-1(出生、戸籍・親権・支援)	
	第3回	子どもと家族の福祉①-2(出生、戸籍・親権・支援)	
	第4回	子どもと家族の福祉①-3(出生、戸籍・親権・支援)	
	第5回	子どもと家族の福祉②-1(貧困、機関・法律・権利)	
	第6回	子どもと家族の福祉②-2(貧困、機関・法律・権利)	
	第7回	子どもと家族の福祉②-3(貧困、機関・法律・権利)	
	第8回	社会保障について	
	第9回	障害児(者)の福祉①(障害の捉え方・考え方)	
	第10回	障害児(者)の福祉②(障害の種類、法律、支援)	
	第11回	地域福祉について	
	第12回	ソーシャルワークについて	
	第13回	低所得者の福祉について	
	第14回	高齢者福祉について	
	第15回	まとめ(試験)	
教科書	図解で学ぶ保育 社会福祉 直島正樹・原田旬哉 編著/萌文書林		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	試験及び平常点を鑑みて、成績を評価する		
履修 ドバイス	ア	講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、自分の意見や思いを発言し、学びを深めること。新聞やニュースなどを閲覧し、子どもや教育、社会福祉を取り巻く時事問題や課題に関心を持ち、授業に取り組むこと。	

科目名		保育の心理学	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修科目
科目主担当	玉城 希望	科目副担当	
目 標	GIO	子どもの心身の発達及び学びの過程の理解	
	SBOs	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;  子どもの心身の発達の課程と特徴を理解することができる。また、子どもの学びの課程と特徴について理解することができる。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;  子どもの発達や学びに関心を持ち、グループ討議に積極的に取り組む。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;  子どもの発達や及び学びの過程を踏まえ、保育者として子どもへの関わり方を説明できる。</p>	
講 義 計 画	第1回	子どもの発達を理解することの意義 発達の原理	
	第2回	生涯発達、5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	
	第3回	ピアジェの認知発達理論と子ども観	
	第4回	さまざまな認知発達理論と子ども観	
	第5回	アタッチメント(愛着)の問題	
	第6回	アイデンティティの問題	
	第7回	非認知能力の重要性	
	第8回	0歳~2歳の発達	
	第9回	言語の発達、言語の起源、言語に関する一般的な発達傾向	
	第10回	3歳~5歳の発達	
	第11回	乳幼児期の学び(遊び)の課程	
	第12回	育ってほしい10の姿	
	第13回	育ってほしい10の姿②	
	第14回	乳幼児期を支える保育実践	
	第15回	まとめ	
教科書	保育の心理学：育ってほしい10の姿		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	試験40%、課題・提出物30%、受講態度15%、出席率15%を総合的に評価する。		
履修 アドバイス	講義前は、講義内容に関して、専門用語も多数存在するため、事前に予習することが望ましい。 また、受講上の注意として、本講義中の居眠り、無断でのスマホの使用、受講態度不良あった場合の出席を認めないものとする。		

科目名		保育見学実習Ⅳ	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/80時間
科目区分	実習	必選区分	必修科目
科目主担当	玉城 希望	科目副担当	安谷屋 千秋
目 標	GIO	実習を通して、子ども達の年齢ごとの姿や様子を理解する。 保育のあり方を学び、保育の重要性や人的環境としての保育者の役割を理解する。	
	SBOs	<認知領域（知識）> 子どもの特徴と関わり方を実践を通して、学びを深めることができる。 <情意領域（習慣・態度）> 自ら積極的に活動し、主体性をもって実習に取り組みことができる。 <技能領域（技術）> 手あそびや絵本の読み聞かせなど、保育者としての技術の向上に努めることができる。	
講 義 計 画	第1回	保育実習の概要について	
	第2回	名札制作	
	第3回	名札制作	
	第4回	保育園見学(きんのほし)	
	第5回	保育園見学(うるま市、浦添の保育園)	
	第6回	保育園見学(嘉手納、読谷の保育園)	
	第7回	保育園見学(宜野座の保育園)	
	第8回	認定こども園きんのほし 保育見学実習①	
	第9回	認定こども園きんのほし 保育見学実習②	
	第10回	認定こども園きんのほし 保育見学実習③	
	第11回	認定こども園きんのほし 保育見学実習④	
	第12回	認定こども園きんのほし 保育見学実習⑤	
	第13回	認定こども園きんのほし 保育見学実習⑥	
	第14回	認定こども園きんのほし 保育見学実習⑦	
	第15回	認定こども園きんのほし 保育見学実習⑧	
教科書	特になし		
授業方法	実習、グループワーク		
評定方法	課題・提出物30%、技術点10%、受講態度40%、出席率20%を総合的に評価する。		
履修 アドバイス	保育所や認定こども園などでの見学実習が主な内容となる。そのため、保育者としての心得を踏まえてうえで、取り組むことが望ましい。また、必要な教材作りなども意欲的に取り組み、実習では、子どもとの関わり方や保育のあり方を意識し、その都度学びを深められるようにすること。		

科目名		保育見学実指導Ⅳ	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	実習	必選区分	必修科目
科目主担当	玉城 希望	科目副担当	
目標	GIO	実習前後の学びや振り返りを通し、保育の質の向上をはかる。 保育のあり方を学び、保育の重要性や人的環境としての保育者の役割を理解する。	
	SBOs	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; 保育者としての心構えや必要な知識を身につける。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt; 自ら積極的に活動し、主体性をもって取り組むことができる。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt; 手あそびや絵本の読み聞かせなど、保育者としての技術の向上に努めることができる。</p>	
講義計画	第1回	保育実習の心構え①	
	第2回	保育実習の心構え②	
	第3回	保育技術①(絵本)	
	第4回	保育技術②(絵本)	
	第5回	保育技術③(紙芝居)	
	第6回	保育技術④(パネルシアター)	
	第7回	保育技術⑤(子どもとの関わり方)	
	第8回	保育見学実習の振り返り、考察① 実践練習①	
	第9回	保育見学実習の振り返り、考察② 実践練習②	
	第10回	保育見学実習の振り返り、考察③ 実践練習③	
	第11回	保育見学実習の振り返り、考察④ 実践練習④	
	第12回	保育見学実習の振り返り、考察⑤ 実践練習⑤	
	第13回	保育見学実習の振り返り、考察⑥ 実践練習⑥	
	第14回	保育見学実習の振り返り、考察⑦ 実践練習⑦	
	第15回	保育見学実習の振り返り、考察⑧ 実践練習⑧	
教科書	特になし		
授業方法	実習、グループワーク		
評定方法	課題・提出物30%、技術点10%、受講態度40%、出席率20%を総合的に評価する。		
履修 アドバイス	保育技術の向上のため、日頃から保育に関する情報収集に努めることが望ましい。 また、実習の振り返りを通して、一つ一つ学びを深められるように留意すること。		

科目名		保育原理		
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	教養分野	必選区分	必修	
科目主担当	安谷屋 千秋	科目副担当		
目標	GIO	保育の意義及び目的、方法、内容、保育に関する法令や制度等の基礎理論、特に保育所保育指針に基づく養護と教育が一体となった保育について理解する。また、子どもや保護者、保育を取り巻く社会の諸課題について理解する。		
	SBOs	<認知領域（知識）> 「保育」とは何かを考え、保育の意義や目的、保育の内容や方法を理解する。 <情意領域（習慣・態度）> 他者との討論を通して、保育を実践するための態度を獲得する。 <技能領域（技術）> 子どもや家庭を取り巻く社会環境について理解を深め、具体的な事例を踏まえながら様々な視点保育を考えることができる。		
講義計画	第1回	「保育」とは何か？～自らの保育歴を振り返りながら人を育てること、育つことについて考える～		
	第2回	保育の社会的役割と責任～保育における「養護」と「教育」の一体～		
	第3回	子ども・子育て支援新制度と保育に関わる関係法令～施設型保育、地域型保育について～		
	第4回	保育の実施体系		
	第5回	保育所保育指針に基づく保育		
	第6回	保育の目標と方法～子どもが育つ環境の理解～		
	第7回	保育内容・保育方法～乳児の保育～		
	第8回	保育内容・保育方法～1歳以上3歳未満児の保育～		
	第9回	保育内容・保育方法～3歳以上児の保育～		
	第10回	保育の計画と実践		
	第11回	諸外国の保育の思想と歴史		
	第12回	日本の保育の思想と歴史		
	第13回	現代の保育の現状と課題		
	第14回	多様な子どもと共に育つ保育～障がいのある子どもや特別な支援の必要な子どもの保育～		
	第15回	まとめ～「保育とは何か」自らの保育観についてまとめる～		
教科書	天野珠路 北野幸子 編集 『新基本保育シリーズ① 保育原理』 中央法規出版 2019年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2017年			
授業方法				
評定方法	試験50% 講義内課題10% 振り返りコメント10% 受講態度20% 討議10% 上記を総合的に評価する。			
履修 アドバイス	・講義の際には、毎回iPadを持参すること。 ・課題は提出期限は厳守すること。いかなる場合においても期限を過ぎた場合は受け取らない。			

科目名		保育実習指導 I	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	実習	必選区分	必修
科目主担当	安谷屋 千秋	科目副担当	
目標	GIO	保育を実践する力を養うために必要な子どもの観察方法や記録の取り方、保育士の役割を理解する。	
	SBOs	<p>&lt;認知領域（知識）&gt;            保育所保育や施設保育の役割や機能、子どもの理解、子どもの最善の利益の尊重、子どもの発達、保育内容、保育環境、保育士の役割及び倫理、個人情報の保護等について学ぶ。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt;            実習指導を通して、保育を理解する態度を習得するとともに基本的な態度を身につける。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt;            子どもの発達を理解し、各年齢の発達に応じた援助及び観察、記録、評価の方法や内容について学ぶ。</p>	
講義計画	第1回	保育実習の意義と目的	
	第2回	保育実習の心構えと準備	
	第3回	保育所保育と施設保育の違い①	
	第4回	保育所保育と施設保育の違い②	
	第5回	福祉施設の種類と実習のポイント①	
	第6回	福祉施設の種類と実習のポイント②	
	第7回	保護者との連携～保育者としてのマナーを学ぶ～	
	第8回	自己紹介教材の作成①	
	第9回	自己紹介教材の作成②	
	第10回	発表～作成した教材を紹介しよう～	
	第11回	実習日誌の構成～実習記録のフォーマットを見てみよう～	
	第12回	保育実習の記録①～日誌に役立つ記録の取り方～	
	第13回	保育実習の記録②～文章表現、文法上の注意点～	
	第14回	保育実習の記録③～記録をしてみよう～	
	第15回	保育実践（試験）～手遊び・絵本の読み聞かせ～	
教科書	保育実習 新・基本保育シリーズ 公益財団法人児童育成協会		
授業方法	講義による解説及び演習による実習日誌・記録の作成、制作。		
評定方法	課題（作品含む）40% 受講態度30% 試験30%		
履修 アドバイス	欠席、遅刻は厳に慎むこと。本講義への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては、今後の実習ができないこともある。		

科目名		保育内容〈言葉〉	
履修時期	前期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	嘉味田朝洋	科目副担当	
目 標	GIO	言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者として子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。	
	SBOs	<認知領域（知識）> 人間にとっての言葉(言語)の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 <情意領域（習慣・態度）> 子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、子どもとのかかわり方を実践できる。 <技能領域（技術）> 保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境・言葉の力を育む指導を実践できる。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	幼児教育の基本	
	第3回	乳幼児期の発達と領域「言葉」	
	第4回	多様な感情体験とことば	
	第5回	信頼関係から生み出されることば	
	第6回	自分の考えや思いを伝えることば	
	第7回	「いま、ここ」を超えて広がる世界とことば	
	第8回	ごっこ遊びとことば	
	第9回	幼児教育の現代的課題と領域「言葉」	
	第10回	言葉を豊かに育む活動①	
	第11回	言葉を豊かに育む活動②	
	第12回	言葉を豊かに育む活動③	
	第13回	言葉を豊かに育む活動④	
	第14回	言葉を豊かに育む活動⑤	
	第15回	試験	
教科書	事例で学ぶ保育内容領域〈言葉〉		
授業方法	講義・実技		
評定方法	授業態度(20%)、出席日数(20%)、課題・試験等(60%)を総合的に評価する。		
履修 アドバイス	事前に「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説」の「言葉」に目を通しておくこと。		

科目名		保育内容の理解と方法〈言語表現〉	
履修時期	前期	単位/時間数	1単位/30単位
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	嘉味田朝洋	科目副担当	
目標	GIO	子どもの成長に必要な児童文化財と言語表現を結びつけるあそびを展開・構築できるよう、絵本、紙芝居、パネルシアター等の知識と技術を習得する。	
	SBOs	<p>&lt;認知領域（知識）&gt; 表現技術の一つとして、言語表現について基礎知識を習得する。 言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。</p> <p>&lt;情意領域（習慣・態度）&gt; 絵本や紙芝居を中心とする児童文化財に関する基礎知識を習得し、表現力豊かにする。</p> <p>&lt;技能領域（技術）&gt; 表現技術の一つとして、言語表現について基礎技術を習得する。</p>	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	言語表現の意義	
	第3回	児童文化財と人生観	
	第4回	絵本や紙芝居の魅力・おすすめ絵本や紙芝居の紹介	
	第5回	読み聞かせの基本と実践	
	第6回	パネルシアターの特性	
	第7回	パネルシアターの構成・制作	
	第8回	パネルシアターの仕上げ・実践	
	第9回	ペープサートの特性	
	第10回	ペープサートの構成・制作	
	第11回	ペープサートの仕上げ・実践	
	第12回	見立てあそびの特性	
	第13回	見立てあそびの構成・制作	
	第14回	見立てあそびの仕上げ・実践	
	第15回	まとめ	
教科書	保育実践に生きる「言語表現」児童文化財活用のエッセンス		
授業方法	講義・実技		
評定方法	授業態度(20%)、出席日数(20%)、課題・試験等(60%)を総合的に評価する。		
履修アドバイス	日頃から幅広い視点で絵本や物語に親しみ、言語表現の豊かさに触れること。		



科目名		保育内容演習「健康」	
履修時期	前期	単位/時間数	1単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 ゆかり	科目副担当	
目標	GIO	乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、「健康」に関わる安全・安心な指導方法を身につける。	
	SBOs		
講義計画	第1回	健康の定義：ねらいと他の領域との関連 健康をめぐる現状①：課題①身体を理解する	
	第2回	健康をめぐる現状② 課題②食を知る(個人の食事について)	
	第3回	乳児期〈出生から1歳未満〉食と睡眠と遊び(グループワーク～発表)	
	第4回	乳児期〈1歳から3歳未満〉食と睡眠と遊び(グループワーク～発表)	
	第5回	地域子育て支援センターもとぶっこにて親子とのふれあいツアー (健康からみた気付き、観察)	
	第6回	ツアーの振り返り	
	第7回	乳児期〈3歳から6歳〉食と睡眠と遊び(グループワーク～発表)	
	第8回	生活習慣を育む保育者の役割：生活習慣と家庭の連携〈乳児期〉安全教育と遊びの中の安全意識	
	第9回	生活習慣を育む保育者の役割：生活習慣と家庭の連携〈幼児期①〉安全教育と遊びの中の安全意識	
	第10回	生活習慣を育む保育者の役割：生活習慣と家庭の連携〈幼児期②〉安全教育と遊びの中の安全意識	
	第11回	課題・考察 個人ワーク①	
	第12回	課題・考察 個人ワーク②	
	第13回	保育内容演習「健康」の振り返り①	
	第14回	保育内容演習「健康」の振り返り②	
	第15回	まとめ	
教科書	事例で学ぶ保育内容領域健康		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法			
履修 アドバイス	.		

科目名		保育内容演習（人間関係）	
履修時期	前期	単位/時間数	1単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 ゆかり	科目副担当	
目標	GIO	子どもの思いをていねいにとらえ、気持ちや欲求を理解する事の大切さを知り、領域「人間関係」の発達の意味を習得する方法を身につける。	
	SBOs		
講義計画	第1回	保育についての語りべ（現代社会の状況<第8章1.2>）それを踏まえた保育教諭の果たす役割 人間関係のねらいと考え方、他の領域との関係	
	第2回	それぞれの出会いと関わりを考える	
	第3回	乳児期<出生から1歳未満>について考える（グループワーク～発表）	
	第4回	幼児期<1歳から3歳未満>について考える（グループワーク～発表）	
	第5回	地域子育て支援センターもとぶっこにて親子との触れ合いツアー 人間関係から見た気づき、観察	
	第6回	ツアー後の振り返り	
	第7回	幼児期<3歳から6歳>について考える（グループワーク～発表）	
	第8回	保育者との関わり（信頼関係）：個と集団の関係（乳児期）～人との関わりを見る視点～	
	第9回	保育者との関わり（信頼関係）：個と集団の関係（幼児期前半）～人との関わりを見る視点～	
	第10回	保育者との関わり（信頼関係）：個と集団の関係（幼児期後半）～人との関わりを見る視点～	
	第11回	課題 考察①	
	第12回	課題 考察②	
	第13回	振り返り①	
	第14回	振り返り②	
	第15回	まとめ（試験）	
教科書	事例で学ぶ保育内容領域人間関係		
授業方法	講義、演習、グループワーク		
評定方法			
履修 アドバイス	ア		

科目名		教育原理	
履修時期	後期	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	教養分野	必選区分	必修科目
科目主担当	玉城 希望	科目副担当	
目標	GIO	教育についての基礎的な理解	
	SBOs	<認知領域（知識）> 教育の基本的概念や諸理念について学び、教育の歴史及び様々な思想を実際の教育及び子ども福祉などとの関わりの視点で理解することが出来る。 <情意領域（習慣・態度）> 教育の在り方を学び、教育についての自らの考えや意見をもつことが出来る。 <技能領域（技術）> 過去の教育の歩みを振り返り、現代の教育の特徴と課題について、まとめることが出来る。	
講義計画	第1回	教育とは、教育原理とは、教育の目的	
	第2回	教育の構成要素とその相互関係	
	第3回	諸外国の教育思想 I	
	第4回	諸外国の教育思想 II	
	第5回	日本の教育思想	
	第6回	子どもの発達と教育	
	第7回	子どもの権利と育ち	
	第8回	環境を通して行う教育	
	第9回	幼児教育	
	第10回	教育と評価、学校制度	
	第11回	教育における今日的課題	
	第12回	地域との連携・協働	
	第13回	学校外との連携	
	第14回	危機・安全管理	
	第15回	まとめ	
教科書			
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	試験40%、課題・提出物30%、受講態度15%、出席率15%を総合的に評価する。		
履修アドバイス	講義前は、講義内容に関して、専門的用語も多数存在するため、事前に予習することが望ましい。また、受講上の注意として、本講義中の居眠り、無断でのスマホの使用、受講態度不良あった場合の出席を認めないものとする。		

科目名		情報処理	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊富士雄	科目副担当	0
目標	総合	"情報処理技法では、基本的なPC操作について学習をし今後も必要となるスキルアップを身に	
	行動	0	
講義計画	第1回	コンピューターの基本操作	
	第2回	インターネットの利用方法	
	第3回	Word実習（1）：Wordの基本操作	
	第4回	Word実習（2）：表とオブジェクトの利用	
	第5回	Word実習（3）：ビジネス文書の作成	
	第6回	Word実習（4）：ワードアートの利用	
	第7回	Excel実習（1）：Excelの基本操作	
	第8回	Excel実習（2）：関数の利用	
	第9回	Excel実習（3）：グラフの作成	
	第10回	Excel実習（4）：データベースの利用	
	第11回	Excel実習（5）：統計分析	
	第12回	PowerPoint実習（1）：PowerPointの基本操作	
	第13回	PowerPoint実習（2）：スライドショーとアニメーションの利用	
	第14回	PowerPoint実習（3）：スライドの作成	
	第15回	PowerPoint実習（4）：発表演習	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		医学英語	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮城嗣高	科目副担当	0
目標	総合	解剖・運動学で学ぶ筋や骨、また臨床にて必要となる各疾患等の名称を医学英語にて学習し、	
	行動	0	
講義計画	第1回	リハビリテーション・職種についての医学英語	
	第2回	姿勢の分類について	
	第3回	身体の面・方向・位置について	
	第4回	身体部位について（骨・関節等）	
	第5回	基本的運動方向について	
	第6回	運動について	
	第7回	筋収縮について	
	第8回	関節可動域等について	
	第9回	福祉用具・リハビリ機器について	
	第10回	病態・疾患について	
	第11回	筋について（1）	
	第12回	筋について（2）	
	第13回	筋について（3）	
	第14回	医療現場で使われる用語・略語	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		社会福祉概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮俊輔	科目副担当	0
目標	総合	<キーワード>社会福祉の魅力と重要性を理解する 社会福祉専門職に期待される役割を理解	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	児童の福祉	
	第3回	貧困・低所得者の福祉	
	第4回	保育分野の福祉	
	第5回	スクールソーシャルワーク	
	第6回	高齢者の福祉	
	第7回	司法現場での福祉	
	第8回	医療ソーシャルワーク	
	第9回	障害者の福祉	
	第10回	精神保健福祉	
	第11回	障がいをもつ学生への支援	
	第12回	地域における福祉実践①-NPO	
	第13回	地域における福祉実践②-社会福祉協議会	
	第14回	地域における福祉実践③-地方自治体	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		実践コミュニケーション	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	梅木綾乃	科目副担当	0
目標	総合	・社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を磨く努力ができる。・理学療法士としての資質を磨く努力ができる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	なぜコミュニケーションを学ぶのか	
	第2回	社会で働くために必要な力とは	
	第3回	伝える・伝わるコミュニケーションとは	
	第4回	コミュニケーションのタイプ	
	第5回	コミュニケーションにおける解決と解消	
	第6回	養成校でのコミュニケーション	
	第7回	臨床実習で求められるコミュニケーション	
	第8回	就職活動から入職までに身に付けたいコミュニケーション	
	第9回	人と育てるコミュニケーション	
	第10回	職場でのコミュニケーション	
	第11回	臨床現場でのコミュニケーション	
	第12回	医療安全のためのコミュニケーション	
	第13回	クレーム対応のコミュニケーション	
	第14回	ミーティングのためのコミュニケーション	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		文学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	山城 初子	科目副担当	0
目標	総合	自分の言いたいことが相手に伝わるように、口頭や文章で表現できる。	
	行動	1. 疑問に思ったことを調べたり、尋ねたりできる。2. 日本語の敬意の表し方を知る。3. 沖縄の文	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	コラムの書写	
	第3回	身体に関する語句の読みと意味の練習	
	第4回	四字熟語について（1）	
	第5回	四字熟語について（2） 比喩表現について	
	第6回	抽象的表現を読み取る	
	第7回	敬語の基本知識について、短歌を味わう	
	第8回	電話の応答について、俳句を味わう	
	第9回	詩の鑑賞	
	第10回	沖縄方言の概説、琉歌に触れる	
	第11回	語句（骨格等、専門分野関係）の練習	
	第12回	DVDを見て感想を書く	
	第13回	1分間スピーチの原稿作成	
	第14回	1分間スピーチ発表	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		



科目名		生物学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮里幸利	科目副担当	0
目標	総合	生物の基礎を理解する。	
	行動	1. 動物細胞の構造と機能と分裂について説明できる 2. 人の受精卵～胎児までの流れが説明できる 3.	
講義計画	第1回	細胞の構造と生命誕生	
	第2回	生命体を構成する物質	
	第3回	遺伝子の構造と機能	
	第4回	生体とエネルギー	
	第5回	光合成と窒素同化	
	第6回	細胞の分裂、情報伝達、ガン化	
	第7回	生命体の授精と成長	
	第8回	確認テスト	
	第9回	多細胞生物の自己維持機構	
	第10回	遺伝のしくみと遺伝病	
	第11回	生物と環境がつくる生態系	
	第12回	生物の進化と多様性	
	第13回	生命科学技術と社会	
	第14回	確認テスト	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		心理学		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	大城貞則	科目副担当	0	
目標	総合	人の心の機能について知る		
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明で		
講義計画	第1回	心理学とは		
	第2回	知覚の心理学 I		
	第3回	知覚の心理学 II		
	第4回	記憶の心理学 I		
	第5回	記憶の心理学 II		
	第6回	学習の心理学 I		
	第7回	学習の心理学 II		
	第8回	発達の心理学 I		
	第9回	発達の心理学 II		
	第10回	青年期の心理 I		
	第11回	青年期の心理 II		
	第12回	性格の心理学		
	第13回	社会心理学 I		
	第14回	社会心理学 II		
	第15回	総合まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		解剖学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	川口亮	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を覚える。	
	行動	1. 人体の構造を示す分類や名称を言える。2. 内臓の名称と所在箇所を説明できる。3. 血管の名称と	
講義計画	第1回	総論	
	第2回	循環器疾患概論	
	第3回	心臓	
	第4回	心臓	
	第5回	心臓 脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃、小腸、大腸、肝臓	
	第10回	肝臓、呼吸器	
	第11回	肺、喉頭、腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器、内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	川口亮	科目副担当	0
目標	総合	正常な骨関節の構造が分かる	
	行動	1, 骨の場所・名称が言える 2, 筋肉の起始停止の場所が理解できる 3, 靭帯の起始停止の場所が理解	
講義計画	第1回	解剖学総論	
	第2回	脊柱	
	第3回	脊柱	
	第4回	頭蓋	
	第5回	頭蓋	
	第6回	上肢骨	
	第7回	下肢骨	
	第8回	下肢骨	
	第9回	頭蓋の関節 脊柱の関節	
	第10回	上肢の関節	
	第11回	骨学実習	
	第12回	骨学実習	
	第13回	下肢の関節	
	第14回	下腿の関節	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	高山千利	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を知る。	
	行動	1. 神経の名称が言える。2. 各神経の部位と構造・機能が説明できる。	
講義計画	第1回	神経解剖ガイダンス 神経組織 1	
	第2回	神経組織 2 再生と変性	
	第3回	脊髄神経	
	第4回	脊髄神経 脳神経	
	第5回	脳神経のみかた	
	第6回	脳の外観	
	第7回	脳の各論 1	
	第8回	脳の各論 2	
	第9回	脳の各論 3	
	第10回	脳神経核 1	
	第11回	脳神経核 2	
	第12回	脳神経核 3 伝導路 1	
	第13回	伝導路 2	
	第14回	髄膜 血管	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学Ⅳ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	立花修平	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を知る。	
	行動	1. 筋の名称が言える。2. 筋の所在箇所が説明できる。3. 各筋が骨のどこから起こり、停止しているか。	
講義計画	第1回	オリエンテーション 概要1 (起始・停止・運動・作用・筋の分類)	
	第2回	オリエンテーション 概要2 (起始・停止・運動・作用・筋の分類)	
	第3回	総論1 (上肢帯の筋)	
	第4回	総論2 (下肢帯の筋①)	
	第5回	総論3 (下肢帯の筋②)	
	第6回	総論4 (体幹の筋①)	
	第7回	総論5 (体幹の筋②)	
	第8回	上肢帯の筋	
	第9回	上腕・前腕の筋	
	第10回	下肢帯の筋	
	第11回	大腿の筋	
	第12回	下腿の筋	
	第13回	腹部の筋	
	第14回	背部の筋	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		生理学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉/野口	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	生理学とは ホメオスタシスの重要性	
	第2回	細胞の化学反応 酵素とその機能	
	第3回	核酸とタンパク質の合成 膜変位の細胞興奮	
	第4回	細胞膜の構造 細胞膜の機能	
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス	
	第6回	栄養の消化と吸収	
	第7回	食道 胃の消化作用	
	第8回	小腸 膵液 胆汁	
	第9回	空腸 回腸	
	第10回	膵臓 胆のう機能 肝臓機能	
	第11回	呼吸と血液のはたらき	
	第12回	呼吸のメカニズム	
	第13回	呼吸気量	
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		生理学 II	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉/野口	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸の病態生理	
	第2回	血液の組織・機能	
	第3回	酸素解離曲線	
	第4回	消化と吸収	
	第5回	貧血と赤血球増加症	
	第6回	血小板	
	第7回	血液の凝固	
	第8回	体温調節	
	第9回	体温調節	
	第10回	生体防御	
	第11回	心臓弁の役割	
	第12回	興奮の伝導	
	第13回	心臓の収縮 心周期	
	第14回	心音と心雑音	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		



科目名		生理学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉/野口	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	血圧 補助ポンプ 脈波と脈拍	
	第2回	血圧の調節	
	第3回	微小循環と血流	
	第4回	循環器の病態生理	
	第5回	腎臓の機能	
	第6回	ヘレンループ	
	第7回	排尿路 尿の輸送と貯蔵	
	第8回	体液の調節 酸塩基平衡	
	第9回	内臓機能の調節 自律神経系	
	第10回	内分泌と外分泌	
	第11回	内分泌各論	
	第12回	膵臓	
	第13回	内分泌各論	
	第14回	ホルモンの調節	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	平良雄司	科目副担当	0
目標	総合	基礎運動学における身体運動の機構を科学的に分析する知識や物理学に基づく生体力学、運動	
	行動	0	
講義計画	第1回	運動学とは？	
	第2回	力学と身体運動	
	第3回	運動の表わし方	
	第4回	運動の法則	
	第5回	仕事と力学的エネルギー	
	第6回	剛体に働く力	
	第7回	骨の構造と機能	
	第8回	関節の構造と機能	
	第9回	腱の構造と機能	
	第10回	靭帯の構造と機能	
	第11回	骨格筋	
	第12回	神経筋接合部と神経筋伝達	
	第13回	筋収縮のメカニズム	
	第14回	神経系（概要のみ）	
	第15回	総合まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動学 II	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	福田聡史	科目副担当	0
目標	総合	上肢帯、上肢、体幹、下肢を構成する骨、筋、靭帯その他の軟部組織の構造を理解し、人体が	
	行動	0	
講義計画	第1回	顔面、上肢帯と上肢の運動	
	第2回	肩関節	
	第3回	肘関節と前腕の運動	
	第4回	手関節と手の運動	
	第5回	体幹の運動	
	第6回	頸椎・胸椎・胸郭の運動	
	第7回	腰椎の運動	
	第8回	下肢帯と股関節の筋と運動について	
	第9回	膝関節の運動について	
	第10回	足関節の動きについて	
	第11回	足アーチについて	
	第12回	姿勢制御について	
	第13回	歩行と走行①	
	第14回	歩行と走行②	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		人間発達学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	川平/土田	科目副担当	0
目標	総合	正常発達を知る。1. 身体の形態発達の過程を理解する。2. 新生児期や乳幼児期の運動と発達	
	行動	0	
講義計画	第1回	人間発達とは	
	第2回	発達概念の歴史・発達理論	
	第3回	運動機能の発達 1 (胎児期・乳児期)	
	第4回	運動機能の発達 2 (幼児期前期)	
	第5回	運動機能の発達 3 (幼児期後期)	
	第6回	運動機能の発達 4 (学童期)	
	第7回	運動機能の発達 5 (青年期～高齢期)	
	第8回	認知機能の発達	
	第9回	情緒の発達	
	第10回	社会性の発達	
	第11回	パーソナリティの発達	
	第12回	ライフステージにおける機能別発達について①	
	第13回	ライフステージにおける機能別発達過程について②	
	第14回	発達検査とは	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		リハビリテーション概論 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	米須正男コーディネート	科目副担当	0
目標	総合	医療以外の範囲も含めたリハビリテーションの概念、歴史、世界・日本での発展から現在の状況	
	行動	0	
講義計画	第1回	リハビリテーション概論① オリエンテーション 講義の流れ、総論（概念・理念・定義について）	
	第2回	リハビリテーション概論② 健康と障害の概念と分類資料参照	
	第3回	リハビリテーション概論③ 障害の心理的・社会的視点資料参照	
	第4回	リハビリテーション概論④ ヒトの発達と評価（特に小児）資料参照	
	第5回	リハビリテーション概論⑤ リハビリテーション過程資料参照	
	第6回	リハビリテーション概論⑥ リハビリテーションの諸段階資料参照	
	第7回	リハビリテーション概論⑦ 医療とリハビリテーション専門職種と役割資料参照	
	第8回	リハビリテーション概論⑧ チームアプローチ資料参照	
	第9回	リハビリテーション概論⑨ ADL,QOLの概念と評価法資料参照	
	第10回	リハビリテーション概論⑩ 医療・リハビリテーション医療（医療機関で行うリハビリ資料参照）	
	第11回	リハビリテーション概論⑪ 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア資料参照	
	第12回	リハビリテーション概論⑫ 高齢者・健康対策と少子化対策資料参照	
	第13回	リハビリテーション概論⑬ 医療・福祉制度資料参照	
	第14回	リハビリテーション概論⑭ 医療法・福祉関係法規資料参照	
	第15回	総まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		理学療法概論		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	米須正男	科目副担当	0	
目標	総合	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解し、理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得		
	行動	0		
講義計画	第1回	理学療法の概念と歴史		
	第2回	スポーツと理学療法士		
	第3回	医療事故とリスクマネジメント		
	第4回	理学療法士の関連法規		
	第5回	医療・保健分野の理学療法		
	第6回	小児と理学療法士		
	第7回	物理療法		
	第8回	理学療法士の法律		
	第9回	理学療法の方法		
	第10回	地域リハビリテーションと理学療法		
	第11回	臨床教育の実践		
	第12回	個人情報管理と対象の権利		
	第13回	感染対策と運動療法		
	第14回	理学療法士の組織		
	第15回	まとめ		
教科書	【教科書】 【参考文献】 理学療法概論 第4版 千住秀明 監修			
授業方法	講義、グループワークを中心に実施			
評定方法	定期試験、課題発表・提出など			
履修アドバイス	これから学ぶことに興味を持ち、主体的に参加してほしい。			

科目名		病理学総論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉盛治	科目副担当	0
目標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。1. 病気の発生機序を説明できる。2. 病気の回復メカニズムを説明できる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書	資料配布		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修アドバイス	0		

科目名		内科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安里隆	科目副担当	0
目標	総合	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について説明できる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方	
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理学A発熱B全身倦怠感	
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT, OTの関連4循環器A解剖生理B主な徴候C診断法	
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性心疾患 7. 心不全 8. 不整脈 9. 肺性心 10. Ao疾患 11. PATE心臓病	
	第5回	5 呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハビリFPT・OTとの関連	
	第6回	6 消化器疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連	
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H腹膜疾患各論IPT・OTとの関連	
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血栓性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FPT・OTとの関連	
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリンノーマ 3 脂質異常症 4 メタボリックシンドローム 5 痛風・高尿酸血症 6 骨粗鬆症 7 ビタミン	
	第10回	10 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2 下垂体疾患 3 視床下部一下垂体後葉系の疾患 4 甲状腺疾患 5 副甲状腺	
	第11回	11 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論 1 腎不全 2 糸球体疾患 3 全身疾患による腎障害 4 高血圧により腎障害 5	
	第12回	12 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾患C膠原病Dリウマチ性疾患E免疫不全症FPT・OTとの関連	
	第13回	13 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識	
	第14回	まとめ	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		



科目名		リハビリテーション関連医学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	0	科目副担当	0
目標	総合	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解	
	行動	0	
講義計画	第1回	総論① オリエンテーション講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する	
	第2回	理学療法管理学の源流②	
	第3回	病院の分類と組織③	
	第4回	専門職とチームケア④	
	第5回	社会保障のしくみ⑤	
	第6回	医療保険制度⑥	
	第7回	介護保険制度⑦	
	第8回	職業倫理⑧グループワーク	
	第9回	業務管理⑨グループワーク	
	第10回	業務・情報管理⑩	
	第11回	感染症管理⑪	
	第12回	教育管理⑫	
	第13回	リスク管理⑬	
	第14回	リスク管理⑭	
	第15回	総まとめ各自総まとめを整理する	
教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやす		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験・小テスト		
履修 アドバイス	0		

科目名		整形外科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安田知子	科目副担当	0
目標	総合	運動器疾患を扱う整形外科を疾患を診断/治療を通じた整形外科学として学ぶ	
	行動	0	
講義計画	第1回	整形外科学総論/整形外科とは、整形外科学とはなにか	
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断	
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法	
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷	
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靭帯損傷・脱臼	
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節	
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手	
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節	
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節	
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患	
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首	
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症	
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症	
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患	
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線	
教科書	整形外科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		小児科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	0	科目副担当	0
目標	総合	1. 主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。2. 小児疾患全般を理解し、リハビリ	
	行動	0	
講義計画	第1回	発達について	
	第2回	新生児について	
	第3回	3-4カ月の発達	
	第4回	6-7カ月の発達	
	第5回	8-12カ月の発達	
	第6回	神経発達症について	
	第7回	1才の発達について	
	第8回	2才の発達について。発達のまとめ	
	第9回	3才の発達について	
	第10回	4才の発達について	
	第11回	5才の発達について	
	第12回	7-11才の発達について	
	第13回	11-14才の発達について	
	第14回	14-17才の発達について	
	第15回	期末試験	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		臨床運動学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	崎濱佑介	科目副担当	0
目標	総合	【一般教育目標(GIO)】基礎バイオメカニクスを学び、人の正常動作メカニズムを説明できる	
	行動	0	
講義計画	第1回	バイオメカニクスの基本事項1) 重心の考え方2) 加速度と力の関係3) 床反力とは	
	第2回	バイオメカニクスの基本事項1) 床反力鉛直方向成分立ち上がり動作とは	
	第3回	バイオメカニクスの基本事項1)	
	第4回	立位と歩き始め	
	第5回	立位と歩き始め実技：麻痺側の歩行の介助と訓練	
	第6回	歩行：一般的な歩行	
	第7回	歩行：歩行中の重心と支持基底面	
	第8回	歩行：歩行中の床反力	
	第9回	動作を可能にするメカニズム3つのロッカー機能・ヒールロッカー・アンクルロッカー・フォアフットロッカー	
	第10回	衝撃吸収のメカニズム	
	第11回	歩行中の関節モーメント	
	第12回	代表的な異常歩行	
	第13回	姿勢と動作	
	第14回	変形性膝関節症の機能評価	
	第15回	まとめ	
教科書	観察による歩行分析		
授業方法	講義、実技、グループワークなど		
評定方法	講義、出席、定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊富士雄	科目副担当	0
目標	総合	【一般教育目標(GIO)】 疾患・症状をもとに病態を理解し問題点に対して適切な運動療法が	
	行動	0	
講義計画	第1回	関節可動域制限に対する運動療法①	
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法②	
	第3回	筋力低下に対する運動療法①	
	第4回	筋力低下に対する運動療法②	
	第5回	持久力低下に対する運動療法①	
	第6回	持久力低下に対する運動療法②	
	第7回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法、感覚障害に対する運動療法	
	第8回	バランス障害に対する運動療法	
	第9回	協調性運動障害に対する運動療法	
	第10回	姿勢・歩行障害に対する運動療法	
	第11回	がんに対する運動療法	
	第12回	内部障害に対する運動療法	
	第13回	加齢による機能障害に対する運動療法	
	第14回	基本動作能力のための運動療法	
	第15回	まとめ	
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明編		
授業方法	教科書の内容に沿いながら、必要に応じた演習などを通して学習する。		
評定方法	本講義の出席・期末試験で評価を行う。		
履修アドバイス	実技を伴う場合も多いため、動きやすい服装を用意しておく。治療介入の初期の学習		

科目名		運動療法学 II	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	平良雄司	科目副担当	0
目標	総合	整形外科分野の疾患に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講義計画	第1回	運動療法学II 概論ロコモティブシンドロームロコモテスト	
	第2回	骨折 評価と運動療法(1) 運動器リハビリテーション施設基準と診療報酬	
	第3回	骨折 評価と運動療法(2) RICE処置 ギブス固定	
	第4回	腰部 評価と運動療法(1) 整形外科的検査(腰痛症)	
	第5回	腰部 評価と運動療法(2) 整形外科的検査(腰痛症) 表書き込み骨折 評価と運動療法(3)	
	第6回	胸郭出口症候群 評価と運動療法整形外科的検査(胸郭出口症候群)	
	第7回	頸肩腕症候群 評価と運動療法整形外科的検査(胸郭出口症候群) 表書き込み整形外科的検査(頸肩腕症候群)	
	第8回	股関節 評価と運動療法(1) 整形外科的検査(頸肩腕症候群) 表書き込み整形外科的検査(股関節)	
	第9回	股関節 評価と運動療法(2) 整形外科的検査(股関節) 表書き込み	
	第10回	膝関節疾患 評価と運動療法(1) 整形外科的検査(膝関節)	
	第11回	膝関節疾患 評価と運動療法(2) 整形外科的検査(膝関節) 表書き込み	
	第12回	RA 評価と運動療法(1) 整形外科的検査(腰痛症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、股関節、膝関節) 復習	
	第13回	RA 評価と運動療法(2) RA体操	
	第14回	スポーツ外傷運動療法の原理・指導法と禁忌運動器疾患の理学療法テクニック(DV)	
	第15回	総まとめ	
教科書	理学療法評価学		
授業方法	講義、実技		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	0		

科目名		運動療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	山城範洋	科目副担当	0
目標	総合	内部障害に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	循環器(内科系)理学療法	
	第3回	循環器(外科系)理学療法	
	第4回	末梢循環障害理学療法	
	第5回	腎機能障害の理学療法	
	第6回	呼吸器障害の理学療法①	
	第7回	呼吸器障害の理学療法②	
	第8回	呼吸器障害の理学療法③	
	第9回	ICUの理学療法/吸引	
	第10回	糖尿病の理学療法①	
	第11回	糖尿病の理学療法②	
	第12回	がんの理学療法①	
	第13回	がんの理学療法②	
	第14回	BLS/患者教育	
	第15回	まとめテスト	
教科書	資料配布		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学IV		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	梅木綾乃	科目副担当	0	
目標	総合	理学療法の対象として、中神経系疾患であり、整形外科疾患でもある脊髄損傷の障害を理解する。		
	行動	0		
講義計画	第1回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第2回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第3回	疫学調査 受傷機転と転帰		
	第4回	評価① 急性期の評価 IsCos Zancolli		
	第5回	評価② 不全損傷の分類評価		
	第6回	呼吸機能障害		
	第7回	自律神経障害		
	第8回	膀胱直腸障害		
	第9回	評価③ 症例検討		
	第10回	脊髄損傷者の動作学 起居動作から運動学を学ぶ リスク管理 褥瘡とバランス機能		
	第11回	ADL (1) ADL評価: SCIM		
	第12回	ADL (2) 脊髄損傷者の実際		
	第13回	ADL (3)		
	第14回	性機能障害		
	第15回	まとめ		
教科書	岩崎 洋編：脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版、東京、文光堂、2014年			
授業方法	講義、実技			
評定方法	期末試験			
履修アドバイス	0			



科目名		運動療法学V	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小野泰軸	科目副担当	0
目標	総合	・正常発達の理解・脳性麻痺の理学療法評価・脳性麻痺の理学療法	
	行動	脳性まひの分類を理解し、全体像を捉えることができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション小児理学療法の概要療育政策サービス教育	
	第2回	正常運動発達0～3カ月	
	第3回	正常運動発達4～6カ月7～9カ月	
	第4回	正常運動発達10～12カ月発達検査ダウン症	
	第5回	子どもの遺伝性疾患DMD児、年齢に応じた理学療法介入その他の遺伝性疾患	
	第6回	子どもの整形外科疾患二分脊椎ヘルネス骨形成不全	
	第7回	脳性麻痺 総論	
	第8回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第9回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第10回	ケーススタディ	
	第11回	主要問題(両まひケーススタディ) から理学療法を考える	
	第12回	脳性麻痺アトローゼ型	
	第13回	重症心身障害児(者)	
	第14回	発達障害	
	第15回	期末試験	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学VI	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	大城/土田	科目副担当	0
目標	総合	脳血管障害の全体像を捉え問題点を抽出し、それに対する運動療法を考案できるようになる。	
	行動	障害に対して検査項目を挙げ、実施することができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション講義目標・方法、評価方法、講義内容説明	
	第2回	脳血管障害の概論・症例検討Ⅰ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第3回	症例検討Ⅰ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第4回	症例検討Ⅰ 動画(動作観察、起き上がり・立ち上がり動作評価、問題点の抽出)	
	第5回	症例検討Ⅰ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第6回	症例検討Ⅱ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第7回	症例検討Ⅱ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第8回	症例検討Ⅱ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第9回	症例検討Ⅱ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第10回	症例検討Ⅲ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第11回	症例検討Ⅲ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第12回	症例検討Ⅲ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第13回	症例検討Ⅲ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第14回	まとめ① 脳卒中のリハビリテーション 発表	
	第15回	まとめ② 脳卒中のリハビリテーション 発表	
教科書	千住秀明 監：理学療法学テキストⅣ 中枢神経疾患の理学療法 第2版		
授業方法	講義、グループワーク中心に実施		
評定方法	小テスト、グループ発表、試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		リハビリテーションセミナー I		
履修時期	1年次	単位/時間数	4単位/120時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	米須正男	科目副担当	0	
目標	総合	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるよう		
	行動	0		
講義計画	第1回	国家試験の問題形式を理解する		
	第2回	問題用紙を教科書を用いて解答を行う		
	第3回	国家試験の問題形式を理解する		
	第4回	解答解説をグループで実施する		
	第5回	国家試験の問題形式を理解する		
	第6回	解答解説を個人で実施する		
	第7回	解答解説をグループで実施する		
	第8回	解答解説を報告する		
	第9回	国家試験の問題形式を理解する		
	第10回	解答解説を個人で実施する		
	第11回	解答解説をグループで実施する		
	第12回	解答解説を報告する		
	第13回	配布問題集の説明をグループ内で実施する		
	第14回	配布問題集の解答解説を実施する		
	第15回	総まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		リハビリテーションセミナーⅡ	
履修時期	2年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目標	総合	社会性をみにつけ臨床実習での指導者、患者様とのコミュニケーション、関係作りができる。	
	行動	挨拶、身だしなみ、表情、言葉使い、立ち振る舞いができるようになる。	
講義計画	第1回	接遇について①	
	第2回	接遇について②	
	第3回	接遇について③	
	第4回	実技演習①	
	第5回	実技演習②	
	第6回	実技演習③	
	第7回	実技演習④	
	第8回	実技演習⑤	
	第9回	課題症例・ワークショップ①	
	第10回	課題症例・ワークショップ②	
	第11回	課題症例・ワークショップ③	
	第12回	課題症例・ワークショップ④	
	第13回	課題症例・ワークショップ⑤	
	第14回	まとめ	
	第15回	まとめ	
教科書	資料配布		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス	0		

科目名		理学療法管理学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	普天間順一	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーション科を専門とする職場の管理、組織化、業務管理、教育について知る。	
	行動	「知識・技術」とともに「柔軟な思考」と「豊かな発想」、そしてそれらを効果的に操る「マネイジメ	
講義計画	第1回	リハビリテーション科における管理とは	
	第2回	自らが成長しうることへの支援とは	
	第3回	職員配置と業務の組織化	
	第4回	質的管理のための体制づくり	
	第5回	病棟・施設業務管理	
	第6回	部署内の情報伝達の工夫	
	第7回	院内活動への参加	
	第8回	年間計画に基づく個人目標の管理	
	第9回	リハビリテーション専門職のインセンティブ	
	第10回	リハビリテーション専門職のストレスチェック	
	第11回	医療専門職の継続教育	
	第12回	リーダーシップとマネイジメント	
	第13回	リハビリテーション科のリーダーとは	
	第14回	リハビリテーション科の効果的な収益管理	
	第15回	まとめ	
教科書	リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社		
授業方法	講義、グループワーク、調べ学習		
評定方法	講義・グループワーク・調べ学習・期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		理学療法評価学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	仲間/玉城/土田	科目副担当	0
目標	総合	○理学療法評価について、問診、形態測定、関節可動域検査を学ぶ。正確な検査を行うための	
	行動	0	
講義計画	第1回	総論①各種検査の目的・意義について学ぶ	
	第2回	総論②検査の意義・目的・定義・注意点について学ぶ	
	第3回	問診・形態測定（上肢・下肢・体幹）	
	第4回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）①	
	第5回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）②	
	第6回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）実技試験	
	第7回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）①	
	第8回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）②	
	第9回	問診・形態測定・可動域測定まとめ①	
	第10回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）実技試験	
	第11回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）①	
	第12回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）②	
	第13回	問診・形態測定・可動域測定まとめ①	
	第14回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）実技試験	
	第15回	まとめ	
教科書	理学療法評価学 改訂第6版 松澤正 江口勝彦 著 金原出版株式会社		
授業方法	講義、実技（KC着用）		
評定方法	実技試験と筆記試験		
履修アドバイス	定期的に小テストを行い、評価加算します。運動学的用語の理解と復習および、各種		

科目名		理学療法評価学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	玉城/大城	科目副担当	0
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技が	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講義計画	第1回	理学療法評価学Ⅲ ①オリエンテーション 問診講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する	
	第2回	理学療法評価学Ⅲ② 疼痛検査の意義・目的・方法を実践出来る資料参照	
	第3回	理学療法評価学Ⅲ③ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第4回	理学療法評価学Ⅲ④ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第5回	理学療法評価学Ⅲ⑤ 知覚検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第6回	理学療法評価学Ⅲ⑥ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第7回	理学療法評価学Ⅲ⑦ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第8回	理学療法評価学Ⅲ⑧ 片麻痺検査の意義・方法を実践出来る資料参照	
	第9回	理学療法評価学Ⅲ⑨ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第10回	理学療法評価学Ⅲ⑩ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第11回	理学療法評価学Ⅲ⑪ SIASの意義・方法を実践出来る資料参照	
	第12回	理学療法評価学Ⅲ⑫ SIASの検査を実践出来る資料参照	
	第13回	理学療法評価学Ⅲ⑬ BBS、TUG、10m歩行速度の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第14回	理学療法評価学Ⅲ⑭ 症例に則した評価法の選択(ケーススタディ) 資料参照	
	第15回	総まとめ実技確認 感覚・協調性・片麻痺機能検査の実施が出来る各自まとめを整理	
教科書	理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社		
授業方法	自主学習を主体として講義を進行する		
評定方法	実技及び定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス	0		

科目名		理学療法評価学Ⅳ		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	仲間成龍	科目副担当	0	
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明出来るようになる。又、検査手技が		
	行動	0		
講義計画	第1回	各論① 深部腱反射・病的反射		
	第2回	各論② 深部腱反射・病的反射		
	第3回	各論③ 深部腱反射・病的反射		
	第4回	各論④ 筋トーヌス反射		
	第5回	各論⑤ 筋トーヌス反射		
	第6回	各論⑥ 姿勢反射検査		
	第7回	各論⑦ 姿勢反射検査		
	第8回	各論⑧ 姿勢反射検査		
	第9回	各論⑨ 脳神経検査		
	第10回	各論⑩ 脳神経検査		
	第11回	各論⑪ 高次脳機能検査		
	第12回	各論⑫ 高次脳機能検査		
	第13回	各論⑬ 高次脳機能検査		
	第14回	全体のまとめ①確認テストなど		
	第15回	全体のまとめ②確認テストのフィードバック		
教科書	松澤正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社医療情報科学研			
授業方法	講義・実技・グループワークなど			
評定方法	定期的に行われる単元テスト及び確認テスト、出席点や学習課題を総合的に評価する			
履修アドバイス	0			



科目名		物理療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	立花修平	科目副担当	0
目標	総合	1. 理学療法分野における位置づけ、意義等を理解する。2. 生理学的背景を併せて理解し、	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション、総論①	
	第2回	温熱療法について①	
	第3回	温熱療法について②	
	第4回	寒冷療法について①	
	第5回	牽引療法について	
	第6回	電気療法について①	
	第7回	電気療法について②	
	第8回	光線療法について①	
	第9回	光線療法について②	
	第10回	水治療について	
	第11回	水治療について	
	第12回	演習(ケーススタディー)	
	第13回	演習(ケーススタディー)	
	第14回	演習(ケーススタディー)	
	第15回	まとめ	
教科書	資料配布		
授業方法	講義、実技演習、グループワーク		
評定方法	期末試験、講義		
履修 アドバイス	0		

科目名		日常生活技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	運天督	科目副担当	0
目標	総合	基本的動作（寝返り、起き上がり、起立、着座、歩行）の観察、誘導・補助ができる。各疾患	
	行動	0	
講義計画	第1回	ADL・QOLの概念と定義	
	第2回	国際生活機能分類（ICF）について理解し作成できる	
	第3回	ADL運動学的分析（寝返り・起き上がり・観察・誘導・補助）	
	第4回	ADL運動学的分析（起立・着座動作・観察・誘導・補助）	
	第5回	ADL運動学的分析（移乗動作・車椅子駆動動作・観察・誘導・補助）	
	第6回	基本動作実技まとめ	
	第7回	ADL評価の役割	
	第8回	治療場面におけるADL評価の活用	
	第9回	ADL評価尺度のワンポイント	
	第10回	IADLの評価・障害分類・ロービジョン	
	第11回	ADLを支援する機器①自助具・日常生活用具	
	第12回	ADLを支援する機器②歩行補助具	
	第13回	ADLを支援する機器③車椅子	
	第14回	在宅生活に向けたADL指導	
	第15回	まとめ	
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院ケース		
授業方法	グループワークと実技、講義		
評定方法	出席・期末テスト		
履修アドバイス	基本動作への着目やADL評価・福祉用具などの環境調整について学ぶことが出来る科		

科目名		理学療法技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小林/外間	科目副担当	0
目標	総合	【PNF】 PNFの基本理念、原則を理解し、基本的なテクニックを学ぶ。【筋触察】 理学療法	
	行動	0	
講義計画	第1回	・マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）・mobilizationの用語説明・指節関節のモビ	
	第2回	・マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）・mobilizationの用語説明・指節関節のモビ	
	第3回	・膝関節の構造・膝関節のmobilization	
	第4回	・足関節の構造・足関節・腓腓関節のmobilization	
	第5回	・肩関節の構造・肩関節のmobilization	
	第6回	・肘関節の構造・肘関節のmobilization	
	第7回	PNF哲学、基本原理	
	第8回	PNF肩甲骨のパターンRI、Rep、SR、RS、(座位)	
	第9回	PNF・哲学基本原理の復習・骨盤・上肢	
	第10回	・下肢・両上・下肢・カイザー体験記	
	第11回	PNF・上肢パターン・座位でのトレーニング	
	第12回	PNF・下肢のパターン・リラクゼーションテクニック（HR・CR）・Pappy	
	第13回	PNF・座位一立ち上がり・四つ這い一膝立ち・起き上がり	
	第14回	PNF・床からの立ち上がり・歩行・まとめ	
	第15回	mobilizationまとめPNFまとめ	
教科書	理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ		
授業方法	実技を中心に実施		
評定方法	課題及び期末試験、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修 アドバイス	0		

科目名		神経障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	米須正男	科目副担当	0
目標	総合	神経障害の理解とそのリハビリテーションを理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	神経系の機能と構造・定義を理解する。	
	第2回	理学療法の介入方法・アプローチを理解する。	
	第3回	PD症状を理解する。	
	第4回	PDの理論と実際のリハビリテーションを理解する。	
	第5回	PD症例検討・グループワークにてPDの症状を体感する。	
	第6回	ギランバレー症候群の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第7回	SCDの症状を理解する。	
	第8回	SCDの理論と実際を理解する。	
	第9回	SCDの症例検討、SCDのタイプ別リハをグループ別に発表する。	
	第10回	多発性硬化症の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第11回	ALSの症状を理解する	
	第12回	ALSの理論と実際を理解する	
	第13回	ALSの症例検討、またタイプ別リハをグループ別に発表する	
	第14回	進行性筋ジストロフィーの症状をリハビリテーションを理解する。	
	第15回	まとめ	
教科書	①神経内科学テキスト 第3版 南江堂②ベッドサイドの神経の診かた 第18版		
授業方法	レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーション		
評定方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動器障害理学療法学		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	玉城大輔	科目副担当	0	
目標	総合	・運動器疾患に対する疾患別の理学療法を理解する。・各疾患に応じた機能解剖、原因、特徴		
	行動	0		
講義計画	第1回	リモート講義総論構築学的アプローチについて凹凸の法則についてICFの考え方		
	第2回	リモート講義前回のおさらい筋肉痛について骨髄接合部 エンテシス関節軟骨末梢神経 途中まで		
	第3回	リモート講義前回のおさらい末梢神経急性末梢神経損傷について皮膚機能骨折・脱臼総論臨床でよく診る骨折④		
	第4回	リモート講義前回のおさらい臨床でよく診る骨折⑤～大腿骨骨折分類術式からプロトコルまでリハビリの注意点 人工骨頭の脱臼股位臨床でよく診る骨折		
	第5回	対面講義臨床でよく診る骨折 足部・脊椎圧迫骨折介達牽引・直達牽引骨粗鬆症についてホモシステインについて		
	第6回	対面講義上肢(帯)の骨折発生の機序と症状鎖骨骨折ニア分類・ロビンソン分類等外傷性肩関節脱臼上腕骨近位端骨折高齢者に多い4大骨折グループ学習		
	第7回	対面講義前回のおさらい上腕骨近位骨折その他骨折について分類・術式・リハについてグループ発表 上腕骨骨折 近位・幹部・遠位 前腕骨折残り壁側2		
	第8回	対面講義股関節疾患の整形外科的テスト紹介・実技脱臼しやすい運動(前方・後方) p126松葉杖歩行能力テスト股関節外転に伴う骨盤の前傾膝蓋骨の高さ		
	第9回	7階実技変形性膝関節症について 序章膝蓋骨・膝関節モビライゼーション実技次回骨折発表×2グループ		
	第10回	7階実技実技 SLR バトリックオーベルテスト骨盤と膝関節の連鎖膝関節の三次元運動隣接関節への影響・脊柱アライメントとの関係変形性膝関節症との		
	第11回	7階実技前回の復習膝の内外反ストレステスト 実技TKA・Q角について肩関節障害複合関節について肩甲胸郭・肩鎖・胸鎖関節モビライゼーションスライド		
	第12回	7階実技肩関節周囲炎について肩甲胸郭関節モビライゼーション 実技リハビリアプローチ評価に基づいてインナー・アウトター筋トレ紹介腰部疾患 頸椎症・		
	第13回	7階実技椎間板原性疼痛非特異的腰痛症腰部脊柱管狭窄症姿勢評価・各種検査項目 実技姿勢の変化における椎間板圧についてスライド137～		
	第14回	特別講演 石塚 光太郎先生(浦添総合病院救急救命センター・整形外科・スポーツ)		
	第15回	7階実技変形性股関節症足部疾患についてインソールについて 一部実技まとめ		
教科書	病気が見える⑩運動器・整形外科			
授業方法	講義、実技、グループ学習			
評定方法	期末試験4割、課題レポート3割、出欠席・授業態度(3割)			
履修アドバイス	0			

科目名		呼吸・循環器障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	前幸地	科目副担当	0
目標	総合	呼吸・循環系に対する運動療法の基本原理と実際について理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸リハビリテーション総論	
	第2回	呼吸器疾患の病態	
	第3回	呼吸リハビリテーション評価	
	第4回	酸素療法、薬物治療、呼吸機器 1	
	第5回	酸素療法、薬物療法、呼吸機器 2	
	第6回	周術期の理学療法学	
	第7回	呼吸リハビリテーション維持期	
	第8回	超急性期のリハビリテーション	
	第9回	心臓リハビリテーション総論	
	第10回	循環器の解剖・生理 1	
	第11回	循環器の解剖、生理、病態	
	第12回	心電図、不整脈について	
	第13回	リスク管理について	
	第14回	テスト対策	
	第15回	期末試験	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		義肢装具学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	井黒萌	科目副担当	0
目標	総合	装具、義肢（義足・義手）の目的や分類、各部品の名称や働きの理解、分類や構造など基本	
	行動	0	
講義計画	第1回	義肢学総論 切断者のリハビリテーション●切断の定義・原因・部位・切断術の処理●切断術直後の断端ケア、義肢装着訓練●切断後の合併症(幻肢、幻肢痛)	
	第2回	切断者の評価義肢基本事項●断端長、断端周径、筋力●義肢装着前後訓練●リハビリの目標設定●義肢の分類(処方時期によるもの、機能別分類) ●義肢の	
	第3回	義肢パーツ基本事項①(足部、義足ソケット)●通常歩行と義足歩行の足部の動きの違い●足部の種類●足継手の種類と構造、機能(単軸、多軸、無軸、エネ	
	第4回	義肢パーツの基本事項②(膝継手)大腿義足の基本事項①●膝継手(立脚制御機能、遊脚制御機能)●膝継手の種類とアライメントスタビリティ●大腿義足の	
	第5回	大腿義足の基本事項②(アライメント)下腿義足の基本事項①●大腿義足の歩行の特徴●大腿義足のダイナミックアライメント(異常歩行)●下腿切断の解剖等	
	第6回	下腿義足の基本事項②(アライメント)膝義足、サイム義足の基本事項●下腿義足のベンチアライメント(基本設定、初期屈曲角度、初期内転角など)●下腿義	
	第7回	股義足の基本事項●股義足対象の切断●股義足の歩行の特徴●股義足のチェックアウト(継手軸の設定など)	
	第8回	足部切断用義足、義手●足部切断用義足の種類、機能●義手の種類と使用部位	
	第9回	装具総論●義肢と装具の違い●装具の分類(長さによる分類、アメリカ機能分類など)●各部位の装具の名称●下肢装具の構成要素	
	第10回	下肢装具①(装具の効果とアライメント)金属支柱付き下肢装具の基本事項●矢状面からみた装具と生体運動●装具とアライメント●異常歩行の種類(装具で	
	第11回	下肢装具②(装具の効果とアライメント)プラスチック短下肢装具の基本事項、特殊装具●前額面からみた装具と生体運動●内反、外反膝、内反、外反足への	
	第12回	大腿装具(頸椎装具、頸胸椎装具)の基本事項●体幹装具の基本構造(バンド、支柱の機能など)●頸椎装具の適応と機能●頸椎装具の種類(カラー、フィラデ	
	第13回	体幹装具(胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具)の基本事項側弯症用装具の基本事項①●胸腰仙椎装具の適応と機能●胸腰仙椎装具の種類(ゲーメン、テイ	
	第14回	側弯症用の装具の基本事項②●側弯症の評価(ベンディング(前屈)テスト、コブ角)●	
	第15回	上肢装具の基本事項スポーツ障害の基本事項●上肢装具の使用目的の分類●上肢装具	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		専門理学療法学Ⅱ	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目標	総合	理学療法の評価・治療・地域理学療法等、専門分野全般について再確認する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション/国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書	必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法	講義及び適宜模擬試験を実施		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		



科目名		専門理学療法学Ⅱ	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	仲間・玉城・大城	科目副担当	0
目標	総合	理学療法の評価・治療・地域理学療法等、専門分野全般について再確認する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書	必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法	講義及び適宜模擬試験を実施		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		情報処理	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊富士雄	科目副担当	0
目標	総合	"情報処理技法では、基本的なPC操作について学習をし今後も必要となるスキルアップを身に	
	行動	0	
講義計画	第1回	コンピューターの基本操作	
	第2回	インターネットの利用方法	
	第3回	Word実習（1）：Wordの基本操作	
	第4回	Word実習（2）：表とオブジェクトの利用	
	第5回	Word実習（3）：ビジネス文書の作成	
	第6回	Word実習（4）：ワードアートの利用	
	第7回	Excel実習（1）：Excelの基本操作	
	第8回	Excel実習（2）：関数の利用	
	第9回	Excel実習（3）：グラフの作成	
	第10回	Excel実習（4）：データベースの利用	
	第11回	Excel実習（5）：統計分析	
	第12回	PowerPoint実習（1）：PowerPointの基本操作	
	第13回	PowerPoint実習（2）：スライドショーとアニメーションの利用	
	第14回	PowerPoint実習（3）：スライドの作成	
	第15回	PowerPoint実習（4）：発表演習	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		医学英語	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮城嗣高	科目副担当	0
目標	総合	解剖・運動学で学ぶ筋や骨、また臨床にて必要となる各疾患等の名称を医学英語にて学習し、	
	行動	0	
講義計画	第1回	リハビリテーション・職種についての医学英語	
	第2回	姿勢の分類について	
	第3回	身体の面・方向・位置について	
	第4回	身体部位について（骨・関節等）	
	第5回	基本的運動方向について	
	第6回	運動について	
	第7回	筋収縮について	
	第8回	関節可動域等について	
	第9回	福祉用具・リハビリ機器について	
	第10回	病態・疾患について	
	第11回	筋について（1）	
	第12回	筋について（2）	
	第13回	筋について（3）	
	第14回	医療現場で使われる用語・略語	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		心理学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	大城貞則	科目副担当	0
目標	総合	人の心の機能について知る	
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明で	
講義計画	第1回	心理学とは	
	第2回	知覚の心理学 I	
	第3回	知覚の心理学 II	
	第4回	記憶の心理学 I	
	第5回	記憶の心理学 II	
	第6回	学習の心理学 I	
	第7回	学習の心理学 II	
	第8回	発達の心理学 I	
	第9回	発達の心理学 II	
	第10回	青年期の心理 I	
	第11回	青年期の心理 II	
	第12回	性格の心理学	
	第13回	社会心理学 I	
	第14回	社会心理学 II	
	第15回	総合まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		社会福祉概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	古御堂 正	科目副担当	0
目標	総合	<キーワード>社会福祉の魅力と重要性を理解する 社会福祉専門職に期待される役割を理	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	児童の福祉	
	第3回	貧困・低所得者の福祉	
	第4回	保育分野の福祉	
	第5回	スクールソーシャルワーク	
	第6回	高齢者の福祉	
	第7回	司法現場での福祉	
	第8回	医療ソーシャルワーク	
	第9回	障害者の福祉	
	第10回	精神保健福祉	
	第11回	障がいをもつ学生への支援	
	第12回	地域における福祉実践①-NPO	
	第13回	地域における福祉実践②-社会福祉協議会	
	第14回	地域における福祉実践③-地方自治体	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	清水千草	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を覚える。	
	行動	1. 人体の構造を示す分類や名称を言える。2. 内臓の名称と所在箇所を説明できる。3. 血管の名称と	
講義計画	第1回	総論	
	第2回	循環器疾患概論	
	第3回	心臓	
	第4回	心臓	
	第5回	心臓 脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃、小腸、大腸、肝臓	
	第10回	肝臓、呼吸器	
	第11回	肺、喉頭、腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器、内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	清水千草	科目副担当	0
目標	総合	正常な骨関節の構造が分かる	
	行動	1, 骨の場所・名称が言える 2, 筋肉の起始停止の場所が理解できる 3, 靭帯の起始停止の場所が理解	
講義計画	第1回	解剖学総論	
	第2回	脊柱	
	第3回	脊柱	
	第4回	頭蓋	
	第5回	頭蓋	
	第6回	上肢骨	
	第7回	下肢骨	
	第8回	下肢骨	
	第9回	頭蓋の関節 脊柱の関節	
	第10回	上肢の関節	
	第11回	骨学実習	
	第12回	骨学実習	
	第13回	下肢の関節	
	第14回	下腿の関節	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		解剖学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	高山千利	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を知る。	
	行動	1. 神経の名称が言える。2. 各神経の部位と構造・機能が説明できる。	
講義計画	第1回	神経解剖ガイダンス 神経組織 1	
	第2回	神経組織 2 再生と変性	
	第3回	脊髄神経	
	第4回	脊髄神経 脳神経	
	第5回	脳神経のみかた	
	第6回	脳の外観	
	第7回	脳の各論 1	
	第8回	脳の各論 2	
	第9回	脳の各論 3	
	第10回	脳神経核 1	
	第11回	脳神経核 2	
	第12回	脳神経核 3 伝導路 1	
	第13回	伝導路 2	
	第14回	髄膜 血管	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		



科目名		解剖学IV	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	立花修平	科目副担当	0
目標	総合	正常な生体の構造を知る。	
	行動	1. 筋の名称が言える。2. 筋の所在箇所が説明できる。3. 各筋が骨のどこから起こり、停止しているか。	
講義計画	第1回	オリエンテーション 概要1（起始・停止・運動・作用・筋の分類）	
	第2回	オリエンテーション 概要2（起始・停止・運動・作用・筋の分類）	
	第3回	総論1（上肢帯の筋）	
	第4回	総論2（下肢帯の筋①）	
	第5回	総論3（下肢帯の筋②）	
	第6回	総論4（体幹の筋①）	
	第7回	総論5（体幹の筋②）	
	第8回	上肢帯の筋	
	第9回	上腕・前腕の筋	
	第10回	下肢帯の筋	
	第11回	大腿の筋	
	第12回	下腿の筋	
	第13回	腹部の筋	
	第14回	背部の筋	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		生理学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉真理子	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	生理学とは ホメオスタシスの重要性	
	第2回	細胞の化学反応 酵素とその機能	
	第3回	核酸とタンパク質の合成 膜変位の細胞興奮	
	第4回	細胞膜の構造 細胞膜の機能	
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス	
	第6回	栄養の消化と吸収	
	第7回	食道 胃の消化作用	
	第8回	小腸 膵液 胆汁	
	第9回	空腸 回腸	
	第10回	膵臓 胆のう機能 肝臓機能	
	第11回	呼吸と血液のはたらき	
	第12回	呼吸のメカニズム	
	第13回	呼吸気量	
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		生理学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉真理子	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸の病態生理	
	第2回	血液の組織・機能	
	第3回	酸素解離曲線	
	第4回	消化と吸収	
	第5回	貧血と赤血球増加症	
	第6回	血小板	
	第7回	血液の凝固	
	第8回	体温調節	
	第9回	体温調節	
	第10回	生体防御	
	第11回	心臓弁の役割	
	第12回	興奮の伝導	
	第13回	心臓の収縮 心周期	
	第14回	心音と心雑音	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		生理学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉真理子	科目副担当	0
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	血圧 補助ポンプ 脈波と脈拍	
	第2回	血圧の調節	
	第3回	微小循環と血流	
	第4回	循環器の病態生理	
	第5回	腎臓の機能	
	第6回	ヘレンループ	
	第7回	排尿路 尿の輸送と貯蔵	
	第8回	体液の調節 酸塩基平衡	
	第9回	内臓機能の調節 自律神経系	
	第10回	内分泌と外分泌	
	第11回	内分泌各論	
	第12回	膵臓	
	第13回	内分泌各論	
	第14回	ホルモンの調節	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		人間発達学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	渡名喜愛/土田	科目副担当	0
目標	総合	正常発達を知る。1. 身体の形態発達の過程を理解する。2. 新生児期や乳幼児期の運動と発達	
	行動	0	
講義計画	第1回	人間発達とは	
	第2回	発達概念の歴史・発達理論	
	第3回	運動機能の発達 1 (胎児期・乳児期)	
	第4回	運動機能の発達 2 (幼児期前期)	
	第5回	運動機能の発達 3 (幼児期後期)	
	第6回	運動機能の発達 4 (学童期)	
	第7回	運動機能の発達 5 (青年期～高齢期)	
	第8回	認知機能の発達	
	第9回	情緒の発達	
	第10回	社会性の発達	
	第11回	パーソナリティーの発達	
	第12回	ライフステージにおける機能別発達について①	
	第13回	ライフステージにおける機能別発達過程について②	
	第14回	発達検査とは	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動学 I		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	平良雄司	科目副担当	0	
目標	総合	基礎運動学における身体運動の機構を科学的に分析する知識や物理学に基づく生体力学、運動		
	行動	0		
講義計画	第1回	運動学とは？		
	第2回	力学と身体運動		
	第3回	運動の表わし方		
	第4回	運動の法則		
	第5回	仕事と力学的エネルギー		
	第6回	剛体に働く力		
	第7回	骨の構造と機能		
	第8回	関節の構造と機能		
	第9回	腱の構造と機能		
	第10回	靭帯の構造と機能		
	第11回	骨格筋		
	第12回	神経筋接合部と神経筋伝達		
	第13回	筋収縮のメカニズム		
	第14回	神経系（概要のみ）		
	第15回	総合まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		運動学Ⅱ		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修	
科目主担当	福田聡史	科目副担当	0	
目標	総合	上肢帯、上肢、体幹、下肢を構成する骨、筋、靭帯その他の軟部組織の構造を理解し、人体		
	行動	0		
講義計画	第1回	顔面、上肢帯と上肢の運動		
	第2回	肩関節		
	第3回	肘関節と前腕の運動		
	第4回	手関節と手の運動		
	第5回	体幹の運動		
	第6回	頸椎・胸椎・胸郭の運動		
	第7回	腰椎の運動		
	第8回	下肢帯と股関節の筋と運動について		
	第9回	膝関節の運動について		
	第10回	足関節の動きについて		
	第11回	足アーチについて		
	第12回	姿勢制御について		
	第13回	歩行と走行①		
	第14回	歩行と走行②		
	第15回	まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		病理学総論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉盛治	科目副担当	0
目標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。1. 病気の発生機序を説明できる。2. 病気の回復メカニズムを説明できる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害A	
	第4回	循環器障害B(リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書	資料配布		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修アドバイス	0		



科目名		実践コミュニケーション		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	梅木綾乃	科目副担当	0	
目標	総合	・社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を磨く努力ができる。・理学療法士としての資質を磨く努力ができる。		
	行動	0		
講義計画	第1回	なぜコミュニケーションを学ぶのか		
	第2回	社会で働くために必要な力とは		
	第3回	伝える・伝わるコミュニケーションとは		
	第4回	コミュニケーションのタイプ		
	第5回	コミュニケーションにおける解決と解消		
	第6回	養成校でのコミュニケーション		
	第7回	臨床実習で求められるコミュニケーション		
	第8回	就職活動から入職までに身に付けたいコミュニケーション		
	第9回	人と育てるコミュニケーション		
	第10回	職場でのコミュニケーション		
	第11回	臨床現場でのコミュニケーション		
	第12回	医療安全のためのコミュニケーション		
	第13回	クレーム対応のコミュニケーション		
	第14回	ミーティングのためのコミュニケーション		
	第15回	まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修アドバイス	0			

科目名		リハビリテーション概論 I		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間	
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修	
科目主担当	渡名喜/梅木コーディネート	科目副担当	0	
目標	総合	医療以外の範囲も含めたリハビリテーションの概念、歴史、世界・日本での発展から現在の		
	行動	0		
講義計画	第1回	リハビリテーション概論① オリエンテーション 講義の流れ、総論（概念・理念・		
	第2回	リハビリテーション概論② 健康と障害の概念と分類資料参照		
	第3回	リハビリテーション概論③ 障害の心理的・社会的視点資料参照		
	第4回	リハビリテーション概論④ ヒトの発達と評価（特に小児）資料参照		
	第5回	リハビリテーション概論⑤ リハビリテーション過程資料参照		
	第6回	リハビリテーション概論⑥ リハビリテーションの諸段階資料参照		
	第7回	リハビリテーション概論⑦ 医療とリハビリテーション専門職種と役割資料参照		
	第8回	リハビリテーション概論⑧ チームアプローチ資料参照		
	第9回	リハビリテーション概論⑨ ADL,QOLの概念と評価法資料参照		
	第10回	リハビリテーション概論⑩ 医療・リハビリテーション医療（医療機関で行うリハビ		
	第11回	リハビリテーション概論⑪ 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア資料参照		
	第12回	リハビリテーション概論⑫ 高齢者・健康対策と少子化対策資料参照		
	第13回	リハビリテーション概論⑬ 医療・福祉制度資料参照		
	第14回	リハビリテーション概論⑭ 医療法・福祉関係法規資料参照		
	第15回	総まとめ		
教科書	0			
授業方法	0			
評定方法	0			
履修 アドバイス	0			

科目名		理学療法評価学 I		
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	井黒/崎濱/古堅	科目副担当	0	
目標	総合	○理学療法評価について、問診、形態測定、関節可動域検査を学ぶ。正確な検査を行うための		
	行動	0		
講義計画	第1回	総論①各種検査の目的・意義について学ぶ		
	第2回	総論②検査の意義・目的・定義・注意点について学ぶ		
	第3回	問診・形態測定（上肢・下肢・体幹）		
	第4回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）①		
	第5回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）②		
	第6回	上肢の可動域測定（肩関節～手関節）実技試験		
	第7回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）①		
	第8回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）②		
	第9回	問診・形態測定・可動域測定まとめ①		
	第10回	下肢の可動域測定（股関節～足関節）実技試験		
	第11回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）①		
	第12回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）②		
	第13回	問診・形態測定・可動域測定まとめ①		
	第14回	体幹の可動域測定（肩甲骨・体幹・頸部）実技試験		
	第15回	まとめ		
教科書	理学療法評価学 改訂第6版 松澤正 江口勝彦 著 金原出版株式会社			
授業方法	講義、実技（KC着用）			
評定方法	実技試験と筆記試験			
履修アドバイス	定期的に小テストを行い、評価加算します。運動学的用語の理解と復習および、各種			

科目名		リハビリテーションセミナーⅠ	
履修時期	1年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡名喜/梅木コーディネート	科目副担当	0
目標	総合	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるよう	
	行動	0	
講義計画	第1回	国家試験の問題形式を理解する	
	第2回	問題用紙を教科書を用いて解答を行う	
	第3回	国家試験の問題形式を理解する	
	第4回	解答解説をグループで実施する	
	第5回	国家試験の問題形式を理解する	
	第6回	解答解説を個人で実施する	
	第7回	解答解説をグループで実施する	
	第8回	解答解説を報告する	
	第9回	国家試験の問題形式を理解する	
	第10回	解答解説を個人で実施する	
	第11回	解答解説をグループで実施する	
	第12回	解答解説を報告する	
	第13回	配布問題集の説明をグループ内で実施する	
	第14回	配布問題集の解答解説を実施する	
	第15回	総まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		理学療法概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡名喜/梅木コーディネート	科目副担当	0
目標	総合	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解し、理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得す	
	行動	0	
講義計画	第1回	理学療法の概念と歴史	
	第2回	スポーツと理学療法士	
	第3回	医療事故とリスクマネジメント	
	第4回	理学療法士の関連法規	
	第5回	医療・保健分野の理学療法	
	第6回	小児と理学療法士	
	第7回	物理療法	
	第8回	理学療法士の法律	
	第9回	理学療法の方法	
	第10回	地域リハビリテーションと理学療法	
	第11回	臨床教育の実践	
	第12回	個人情報管理と対象の権利	
	第13回	感染対策と運動療法	
	第14回	理学療法士の組織	
	第15回	まとめ	
教科書	【教科書】 【参考文献】 理学療法概論 第4版 千住秀明 監修		
授業方法	講義、グループワークを中心に実施		
評定方法	定期試験、課題発表・提出など		
履修アドバイス	これから学ぶことに興味を持ち、主体的に参加してほしい。		

科目名		内科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安里隆	科目副担当	0
目標	総合	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について説明できる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際 A鑑別診断 Bカルテの書き方	
	第2回	C診断法 C食欲不振 D臨床検査 D悪心嘔吐 E内科的治療 E易感染 F意識障害 3 病理	
	第3回	G眩暈 Hむくみ Iレイノー現象 J頭痛 Kリンパ腫脹 Lショック MPT, OTの関連 4循環器	
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性	
	第5回	5 呼吸器疾患 A肺の解剖と生理 B徴候と病態生理 C臨床検査初見 D疾患各論 E呼吸リハ	
	第6回	6 消化管疾患 A解剖生理 B徴候と病態生理 C検査法 D各論 EPT・OTとの関連	
	第7回	7 肝胆膵疾患 A肝臓 B胆道系 C膵臓 D腹膜 E肝胆疾患検査 F肝胆疾患各論 G膵疾患各論 H	
	第8回	8 血液、造血器疾患 E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患 FF	
	第9回	9 代謝性疾患 A代謝調節の仕組み B疾患各論 1 糖尿病 2 インスリノーマ 3 脂質異常症	
	第10回	1 0 内分泌疾患 A総論 Bホルモンの解剖・生理 C検査法 D疾患各論 1 視床下部症候群 2	
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患 A解剖・生理 B腎疾患の病態・生理 C腎尿路系の検査 D疾患各論	
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症 A免疫系の働き Bアレルギー疾	
	第13回	1 3 感染症 A総論 B各論 CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識	
	第14回	まとめ	
	第15回	まとめ	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修アドバイス	0		

科目名		リハビリテーション関連医学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	0	科目副担当	0
目標	総合	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解	
	行動	0	
講義計画	第1回	総論① オリエンテーション講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する	
	第2回	理学療法管理学の源流②	
	第3回	病院の分類と組織③	
	第4回	専門職とチームケア④	
	第5回	社会保障のしくみ⑤	
	第6回	医療保険制度⑥	
	第7回	介護保険制度⑦	
	第8回	職業倫理⑧グループワーク	
	第9回	業務管理⑨グループワーク	
	第10回	業務・情報管理⑩	
	第11回	感染症管理⑪	
	第12回	教育管理⑫	
	第13回	リスク管理⑬	
	第14回	リスク管理⑭	
	第15回	総まとめ各自総まとめを整理する	
教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやす		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験・小テスト		
履修 アドバイス	0		

科目名		整形外科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安田知子	科目副担当	0
目標	総合	運動器疾患を扱う整形外科を疾患を診断/治療を通じた整形外科学として学ぶ	
	行動	0	
講義計画	第1回	整形外科学総論/整形外科とは、整形外科学とはなにか	
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断	
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法	
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷	
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靭帯損傷・脱臼	
	第6回	疾患学 I 上肢肩関節	
	第7回	疾患学 I 上肢肘関節手関節手	
	第8回	疾患学 I 下肢股関節	
	第9回	疾患学 II 下肢膝関節	
	第10回	疾患学 I 下肢足関節疾患	
	第11回	疾患学 I 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首	
	第12回	疾患学 II リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症	
	第13回	疾患学 II 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症	
	第14回	疾患学 II 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患	
	第15回	疾患学 II スポーツ医学 スポーツ整形外科学と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線	
教科書	整形外科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修アドバイス	0		



科目名		小児科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	0	科目副担当	0
目標	総合	1. 主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。2. 小児疾患全般を理解し、リハビリ	
	行動	0	
講義計画	第1回	発達について	
	第2回	新生児について	
	第3回	3-4カ月の発達	
	第4回	6-7カ月の発達	
	第5回	8-12カ月の発達	
	第6回	神経発達症について	
	第7回	1才の発達について	
	第8回	2才の発達について。発達のまとめ	
	第9回	3才の発達について	
	第10回	4才の発達について	
	第11回	5才の発達について	
	第12回	7-11才の発達について	
	第13回	11-14才の発達について	
	第14回	14-17才の発達について	
	第15回	期末試験	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		臨床運動学		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	崎濱佑介	科目副担当	0	
目標	総合	【一般教育目標(GIO)】基礎バイオメカニクスを学び、人の正常動作メカニズムを説明できる		
	行動	0		
講義計画	第1回	バイオメカニクスの基本事項 1) 重心の考え方 2) 加速度と力の関係 3) 床反力とは		
	第2回	バイオメカニクスの基本事項 1) 床反力鉛直方向成分立ち上がり動作とは		
	第3回	バイオメカニクスの基本事項 1)		
	第4回	立位と歩き始め		
	第5回	立位と歩き始め実技：麻痺側の歩行の介助と訓練		
	第6回	歩行：一般的な歩行		
	第7回	歩行：歩行中の重心と支持基底面		
	第8回	歩行：歩行中の床反力		
	第9回	動作を可能にするメカニズム 3つのロッカー機能・ヒールロッカー・アングルロッカー		
	第10回	衝撃吸収のメカニズム		
	第11回	歩行中の関節モーメント		
	第12回	代表的な異常歩行		
	第13回	姿勢と動作		
	第14回	変形性膝関節症の機能評価		
	第15回	まとめ		
教科書	観察による歩行分析			
授業方法	講義、実技、グループワークなど			
評定方法	講義、出席、定期試験、小テストなど			
履修アドバイス	0			

科目名		運動療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊富士雄	科目副担当	0
目標	総合	【一般教育目標(GIO)】 疾患・症状をもとに病態を理解し問題点に対して適切な運動療法が	
	行動	0	
講義計画	第1回	関節可動域制限に対する運動療法①	
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法②	
	第3回	筋力低下に対する運動療法①	
	第4回	筋力低下に対する運動療法②	
	第5回	持久力低下に対する運動療法①	
	第6回	持久力低下に対する運動療法②	
	第7回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法、感覚障害に対する運動療法	
	第8回	バランス障害に対する運動療法	
	第9回	協調性運動障害に対する運動療法	
	第10回	姿勢・歩行障害に対する運動療法	
	第11回	がんに対する運動療法	
	第12回	内部障害に対する運動療法	
	第13回	加齢による機能障害に対する運動療法	
	第14回	基本動作能力のための運動療法	
	第15回	まとめ	
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明編		
授業方法	教科書の内容に沿いながら、必要に応じた演習などを通して学習する。		
評定方法	本講義の出席・期末試験で評価を行う。		
履修アドバイス	実技を伴う場合も多いため、動きやすい服装を用意しておく。治療介入の初期の学習		

科目名		運動療法学 II	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	古堅/平良	科目副担当	0
目標	総合	整形外科分野の疾患に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講義計画	第1回	運動療法学 II 概論ロコモティブシンドロームロコモテスト	
	第2回	骨折 評価と運動療法 (1) 運動器リハビリテーション施設基準と診療報酬	
	第3回	骨折 評価と運動療法 (2) RICE処置 ギプス固定	
	第4回	腰部 評価と運動療法 (1) 整形外科的検査 (腰痛症)	
	第5回	腰部 評価と運動療法 (2) 整形外科的検査(腰痛症) 表書き込み骨折 評価と運動療法	
	第6回	胸郭出口症候群 評価と運動療法整形外科的検査 (胸郭出口症候群)	
	第7回	頸肩腕症候群 評価と運動療法整形外科的検査 (胸郭出口症候群) 表書き込み整形外科	
	第8回	股関節 評価と運動療法 (1) 整形外科的検査 (頸肩腕症候群) 表書き込み整形外科	
	第9回	股関節 評価と運動療法 (2) 整形外科的検査(股関節) 表書き込み	
	第10回	膝関節疾患 評価と運動療法 (1) 整形外科的検査(膝関節)	
	第11回	膝関節疾患 評価と運動療法 (2) 整形外科的検査(膝関節) 表書き込み	
	第12回	RA 評価と運動療法 (1) 整形外科的検査 (腰痛症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群)	
	第13回	RA 評価と運動療法 (2) RA体操	
	第14回	スポーツ外傷運動療法の原理・指導法と禁忌運動器疾患の理学療法テクニック (DV)	
	第15回	総まとめ	
教科書	理学療法評価学		
授業方法	講義、実技		
評定方法	筆記試験		
履修アドバイス	0		

科目名		運動療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	山城範洋	科目副担当	0
目標	総合	内部障害に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	循環器(内科系) 理学療法	
	第3回	循環器(外科系) 理学療法	
	第4回	末梢循環障害理学療法	
	第5回	腎機能障害の理学療法	
	第6回	呼吸器障害の理学療法①	
	第7回	呼吸器障害の理学療法②	
	第8回	呼吸器障害の理学療法③	
	第9回	ICUの理学療法/吸引	
	第10回	糖尿病の理学療法①	
	第11回	糖尿病の理学療法②	
	第12回	がんの理学療法①	
	第13回	がんの理学療法②	
	第14回	BLS/患者教育	
	第15回	まとめテスト	
教科書	資料配布		
授業方法	講義		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学Ⅳ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	安田/梅木	科目副担当	0
目標	総合	理学療法の対象として、中神経系疾患であり、整形外科疾患でもある脊髄損傷の障害を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	脊髄損傷 総論	映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。
	第2回	脊髄損傷 総論	映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。
	第3回	疫学調査	受傷機転と転帰
	第4回	評価① 急性期の評価	IsCos Zancolli
	第5回	評価② 不全損傷の分類評価	
	第6回	呼吸機能障害	
	第7回	自律神経障害	
	第8回	膀胱直腸障害	
	第9回	評価③ 症例検討	
	第10回	脊髄損傷者の動作学	起居動作から運動学を学ぶ リスク管理 褥瘡とバランス機能
	第11回	ADL (1)	ADL評価：SCIM
	第12回	ADL (2)	脊髄損傷者の実際
	第13回	ADL (3)	
	第14回	性機能障害	
	第15回	まとめ	
教科書	岩崎 洋編：脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版、東京、文光堂、2014年		
授業方法	講義、実技		
評定方法	期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学V	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小野泰軸	科目副担当	0
目標	総合	・正常発達の理解・脳性麻痺の理学療法評価・脳性麻痺の理学療法	
	行動	脳性まひの分類を理解し、全体像を捉えることができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション小児理学療法の概要療育業政サービス教育	
	第2回	正常運動発達0～3カ月	
	第3回	正常運動発達4～6カ月7～9カ月	
	第4回	正常運動発達10～12カ月発達検査ダウン症	
	第5回	子どもの遺伝性疾患DMD児、年齢に応じた理学療法介入その他の遺伝性疾患	
	第6回	子どもの整形外科疾患二分脊椎ペルテス骨形成不全	
	第7回	脳性麻痺 総論	
	第8回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第9回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第10回	ケーススタディ	
	第11回	主要問題(両まひケーススタディ) から理学療法を考える	
	第12回	脳性麻痺アテトーゼ型	
	第13回	重症心身障害児(者)	
	第14回	発達障害	
	第15回	期末試験	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		運動療法学VI	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	大城/土田	科目副担当	0
目標	総合	脳血管障害の全体像を捉え問題点を抽出し、それに対する運動療法を考案できるようになる。	
	行動	障害に対して検査項目を挙げ、実施することができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション講義目標・方法、評価方法、講義内容説明	
	第2回	脳血管障害の概論・症例検討Ⅰ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第3回	症例検討Ⅰ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第4回	症例検討Ⅰ 動画(動作観察、起き上がり・立ち上がり動作評価、問題点の抽出)	
	第5回	症例検討Ⅰ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第6回	症例検討Ⅱ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第7回	症例検討Ⅱ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第8回	症例検討Ⅱ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第9回	症例検討Ⅱ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第10回	症例検討Ⅲ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第11回	症例検討Ⅲ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第12回	症例検討Ⅲ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第13回	症例検討Ⅲ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第14回	まとめ① 脳卒中のリハビリテーション 発表	
	第15回	まとめ② 脳卒中のリハビリテーション 発表	
教科書	千住秀明 監：理学療法学テキストⅣ 中枢神経疾患の理学療法 第2版		
授業方法	講義、グループワーク中心に実施		
評定方法	小テスト、グループ発表、試験		
履修 アドバイス	0		



科目名		リハビリテーションセミナーⅡ	
履修時期	2年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目標	総合	社会性をみにつけ臨床実習での指導者、患者様とのコミュニケーション、関係作りができる。	
	行動	挨拶、身だしなみ、表情、言葉使い、立ち振る舞いができるようになる。	
講義計画	第1回	接遇について①	
	第2回	接遇について②	
	第3回	接遇について③	
	第4回	実技演習①	
	第5回	実技演習②	
	第6回	実技演習③	
	第7回	実技演習④	
	第8回	実技演習⑤	
	第9回	課題症例・ワークショップ①	
	第10回	課題症例・ワークショップ②	
	第11回	課題症例・ワークショップ③	
	第12回	課題症例・ワークショップ④	
	第13回	課題症例・ワークショップ⑤	
	第14回	まとめ	
	第15回	まとめ	
教科書	資料配布		
授業方法	講義、グループワーク		
評定方法	出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス	0		

科目名		理学療法管理学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	普天間順一	科目副担当	0
目標	総合	リハビリテーション科を専門とする職場の管理、組織化、業務管理、教育について知る。	
	行動	「知識・技術」とともに「柔軟な思考」と「豊かな発想」、そしてそれらを効果的に操る「マネイジメ	
講義計画	第1回	リハビリテーション科における管理とは	
	第2回	自らが成長しうることへの支援とは	
	第3回	職員配置と業務の組織化	
	第4回	質的管理のための体制づくり	
	第5回	病棟・施設業務管理	
	第6回	部署内の情報伝達の工夫	
	第7回	院内活動への参加	
	第8回	年間計画に基づく個人目標の管理	
	第9回	リハビリテーション専門職のインセンティブ	
	第10回	リハビリテーション専門職のストレスチェック	
	第11回	医療専門職の継続教育	
	第12回	リーダーシップとマネイジメント	
	第13回	リハビリテーション科のリーダーとは	
	第14回	リハビリテーション科の効果的な収益管理	
	第15回	まとめ	
教科書	リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社		
授業方法	講義、グループワーク、調べ学習		
評定方法	講義・グループワーク・調べ学習・期末試験		
履修 アドバイス	0		

科目名		理学療法評価学Ⅲ		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	玉城/大城	科目副担当	0	
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技が		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講義計画	第1回	理学療法評価学Ⅲ ①オリエンテーション 問診講義の流れ、総論、検査の目的・意		
	第2回	理学療法評価学Ⅲ② 疼痛検査の意義・目的・方法を実践出来る資料参照		
	第3回	理学療法評価学Ⅲ③ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第4回	理学療法評価学Ⅲ④ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第5回	理学療法評価学Ⅲ⑤ 知覚検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第6回	理学療法評価学Ⅲ⑥ 知覚検査を実践出来る資料参照		
	第7回	理学療法評価学Ⅲ⑦ 知覚検査を実践出来る資料参照		
	第8回	理学療法評価学Ⅲ⑧ 片麻痺検査の意義・方法を実践出来る資料参照		
	第9回	理学療法評価学Ⅲ⑨ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照		
	第10回	理学療法評価学Ⅲ⑩ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照		
	第11回	理学療法評価学Ⅲ⑪ SIASの意義・方法を実践出来る資料参照		
	第12回	理学療法評価学Ⅲ⑫ SIASの検査を実践出来る資料参照		
	第13回	理学療法評価学Ⅲ⑬ BBS、TUG、10m歩行速度の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第14回	理学療法評価学Ⅲ⑭ 症例に則した評価法の選択(ケーススタディ) 資料参照		
	第15回	総まとめ実技確認 感覚・協調性・片麻痺機能検査の実施が出来る各自まとめを整理		
教科書	理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社			
授業方法	自主学習を主体として講義を進行する			
評定方法	実技及び定期試験、小テストなど			
履修 アドバイス	0			

科目名		理学療法評価学Ⅳ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	仲間成龍	科目副担当	0
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明出来るようになる。又、検査手技	
	行動	0	
講義計画	第1回	各論① 深部腱反射・病的反射	
	第2回	各論② 深部腱反射・病的反射	
	第3回	各論③ 深部腱反射・病的反射	
	第4回	各論④ 筋トーン反射	
	第5回	各論⑤ 筋トーン反射	
	第6回	各論⑥ 姿勢反射検査	
	第7回	各論⑦ 姿勢反射検査	
	第8回	各論⑧ 姿勢反射検査	
	第9回	各論⑨ 脳神経検査	
	第10回	各論⑩ 脳神経検査	
	第11回	各論⑪ 高次脳機能検査	
	第12回	各論⑫ 高次脳機能検査	
	第13回	各論⑬ 高次脳機能検査	
	第14回	全体のまとめ①確認テストなど	
	第15回	全体のまとめ②確認テストのフィードバック	
教科書	松澤正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社医療情報科学研		
授業方法	講義・実技・グループワークなど		
評定方法	定期的に行われる単元テスト及び確認テスト、出席点や学習課題を総合的に評価する		
履修 アドバイス	0		

科目名		物理療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	立花修平	科目副担当	0
目標	総合	1. 理学療法分野における位置づけ、意義等を理解する。2. 生理学的背景を併せて理解し、	
	行動	0	
講義計画	第1回	オリエンテーション、総論①	
	第2回	温熱療法について①	
	第3回	温熱療法について②	
	第4回	寒冷療法について①	
	第5回	牽引療法について	
	第6回	電気療法について①	
	第7回	電気療法について②	
	第8回	光線療法について①	
	第9回	光線療法について②	
	第10回	水治療について	
	第11回	水治療について	
	第12回	演習(ケーススタディー)	
	第13回	演習(ケーススタディー)	
	第14回	演習(ケーススタディー)	
	第15回	まとめ	
教科書	資料配布		
授業方法	講義、実技演習、グループワーク		
評定方法	期末試験、講義		
履修 アドバイス	0		

科目名		日常生活技術論		
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間	
科目区分	専門分野	必選区分	必修	
科目主担当	運天督	科目副担当	0	
目標	総合	基本的動作（寝返り、起き上がり、起立、着座、歩行）の観察、誘導・補助ができる。各疾患		
	行動	0		
講義計画	第1回	ADL・QOLの概念と定義		
	第2回	国際生活機能分類（ICF）について理解し作成できる		
	第3回	ADL運動学的分析（寝返り・起き上がり・観察・誘導・補助）		
	第4回	ADL運動学的分析（起立・着座動作・観察・誘導・補助）		
	第5回	ADL運動学的分析（移乗動作・車椅子駆動動作・観察・誘導・補助）		
	第6回	基本動作実技まとめ		
	第7回	ADL評価の役割		
	第8回	治療場面におけるADL評価の活用		
	第9回	ADL評価尺度のワンポイント		
	第10回	IADLの評価・障害分類・ロービジョン		
	第11回	ADLを支援する機器①自助具・日常生活用具		
	第12回	ADLを支援する機器②歩行補助具		
	第13回	ADLを支援する機器③車椅子		
	第14回	在宅生活に向けたADL指導		
	第15回	まとめ		
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院ケース			
授業方法	グループワークと実技、講義			
評定方法	出席・期末テスト			
履修アドバイス	基本動作への着目やADL評価・福祉用具などの環境調整について学ぶことが出来る科			

科目名		理学療法技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小林/外間	科目副担当	0
目標	総合	【PNF】 PNFの基本理念、原則を理解し、基本的なテクニックを学ぶ。【筋触察】 理学療法	
	行動	0	
講義計画	第1回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第2回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第3回	・ 膝関節の構造・膝関節のmobilization	
	第4回	・ 足関節の構造・足関節・脛腓関節のmobilization	
	第5回	・ 肩関節の構造・肩関節のmobilization	
	第6回	・ 肘関節の構造・肘関節のmobilization	
	第7回	PNF哲学、基本原理	
	第8回	PNF肩甲骨のパターンRI、Rep、SR、RS、（座位）	
	第9回	PNF・哲学基本原理の復習・骨盤・上肢	
	第10回	・ 下肢・両上・下肢・カイザー体験記	
	第11回	PNF・上肢パターン・座位でのトレーニング	
	第12回	PNF・下肢のパターン・リラクゼーションテクニック（HR・CR）・Pappy	
	第13回	PNF・座位ー立ち上がり・四つ這いー膝立ち・起き上がり	
	第14回	PNF・床からの立ち上がり・歩行・まとめ	
	第15回	mobilizationまとめPNFまとめ	
教科書	理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ		
授業方法	実技を中心に実施		
評定方法	課題及び期末試験、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修 アドバイス	0		

科目名		神経障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	米須正男	科目副担当	0
目標	総合	神経障害の理解とそのリハビリテーションを理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	神経系の機能と構造・定義を理解する。	
	第2回	理学療法の介入方法・アプローチを理解する。	
	第3回	PD症状を理解する。	
	第4回	PDの理論と実際のリハビリテーションを理解する。	
	第5回	PD症例検討・グループワークにてPDの症状を体感する。	
	第6回	ギランバレー症候群の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第7回	SCDの症状を理解する。	
	第8回	SCDの理論と実際を理解する。	
	第9回	SCDの症例検討、SCDのタイプ別リハをグループ別に発表する。	
	第10回	多発性硬化症の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第11回	ALSの症状を理解する	
	第12回	ALSの理論と実際を理解する	
	第13回	ALSの症例検討、またタイプ別リハをグループ別に発表する	
	第14回	進行性筋ジストロフィーの症状をリハビリテーションを理解する。	
	第15回	まとめ	
教科書	①神経内科学テキスト 第3版 南江堂②ベッドサイドの神経の診かた 第18版		
授業方法	レポート課題や小テスト、グループワーク、プレゼンテーション		
評定方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断		
履修アドバイス	0		



科目名		運動器障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	玉城大輔	科目副担当	0
目標	総合	・運動器疾患に対する疾患別の理学療法を理解する。・各疾患に応じた機能解剖、原因、特徴	
	行動	0	
講義計画	第1回	リモート講義総論構築学的アプローチについて凹凸の法則についてICFの考え方	
	第2回	リモート講義前回のおさらい筋肉痛について骨髄接合部 エンテシス関節軟骨末梢	
	第3回	リモート講義前回のおさらい末梢神経急性末梢神経損傷について皮膚機能骨折・脱臼	
	第4回	リモート講義前回のおさらい臨床でよく診る骨折⑤～大腿骨骨折分類術式からプロト	
	第5回	対面講義臨床でよく診る骨折 足部・脊椎圧迫骨折介達牽引・直達牽引骨粗鬆症につ	
	第6回	対面講義上肢(帯)の骨折発生の機序と症状鎖骨骨折ニア分類・ロビンソン分類等外	
	第7回	対面講義前回のおさらい上腕骨近位骨折その他骨折について分類・術式・リハについ	
	第8回	対面講義股関節疾患の整形外科的テスト紹介・実技脱臼しやすい運動(前方・後方)	
	第9回	7階実技変形性膝関節症について 序章膝蓋骨・膝関節モビライゼーション実技次回	
	第10回	7階実技実技 SLR パトリックオーベルテスト骨盤と膝関節の連鎖膝関節の三次元	
	第11回	7階実技前回の復習膝の内外反ストレステスト 実技TKA・Q角について肩関節障害	
	第12回	7階実技肩関節周囲炎について肩甲胸郭関節モビライゼーション 実技リハビリアプロ	
	第13回	7階実技椎間板原性疼痛非特異的腰痛症腰部脊柱管狭窄症姿勢評価・各種検査項目	
	第14回	特別講演 石塚 光太郎先生(浦添総合病院救急救命センター・整形外科・スポーツ	
	第15回	7階実技変形性股関節症足部疾患についてインソールについて 一部実技まとめ	
教科書	病気が見える⑩運動器・整形外科		
授業方法	講義、実技、グループ学習		
評定方法	期末試験4割、課題レポート3割、出欠席・授業態度(3割)		
履修 アドバイス	0		

科目名		呼吸・循環器障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	前幸地	科目副担当	0
目標	総合	呼吸・循環系に対する運動療法の基本原理と実際について理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸リハビリテーション総論	
	第2回	呼吸器疾患の病態	
	第3回	呼吸リハビリテーション評価	
	第4回	酸素療法、薬物治療、呼吸機器 1	
	第5回	酸素療法、薬物療法、呼吸機器 2	
	第6回	周術期の理学療法学	
	第7回	呼吸リハビリテーション維持期	
	第8回	超急性期のリハビリテーション	
	第9回	心臓リハビリテーション総論	
	第10回	循環器の解剖・生理 1	
	第11回	循環器の解剖、生理、病態	
	第12回	心電図、不整脈について	
	第13回	リスク管理について	
	第14回	テスト対策	
	第15回	期末試験	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		

科目名		義肢装具学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	井黒萌	科目副担当	0
目標	総合	装具、義肢（義足・義手）の目的や分類、各部品の名称や働きの理解、分類や構造など基本事項	
	行動	0	
講義計画	第1回	義肢学総論 切断者のリハビリテーション●切断の定義・原因・部位・切断術的処理	
	第2回	切断者の評価義肢基本事項●断端長、断端周径、筋力●義肢装着前後訓練●リハビリ	
	第3回	義肢パーツ基本事項①(足部、義足ソケット)●通常歩行と義足歩行の足部の動きの違い	
	第4回	義肢パーツの基本事項②(膝継手)大腿義足の基本事項①●膝継手(立脚制御機能、遊脚	
	第5回	大腿義足の基本事項②(アライメント)下腿義足の基本事項①●大腿義足の歩行の特徴	
	第6回	下腿義足の基本事項②(アライメント)膝義足、サイム義足の基本事項●下腿義足のべ	
	第7回	股義足の基本事項●股義足対象の切断●股義足の歩行の特徴●股義足のチェックアウ	
	第8回	足部切断用義足、義手●足部切断用義足の種類、機能●義手の種類と使用部位	
	第9回	装具総論●義肢と装具の違い●装具の分類(長さによる分類、アメリカ機能分類など)	
	第10回	下肢装具①(装具の効果とアライメント)金属支柱付き下肢装具の基本事項●矢状面か	
	第11回	下肢装具②(装具の効果とアライメント)プラスチック短下肢装具の基本事項、特殊装	
	第12回	大腿装具(頸椎装具、頸胸椎装具)の基本事項●体幹装具の基本構造(バンド、支柱の材	
	第13回	体幹装具(胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具)の基本事項側弯症用装具の基本事項	
	第14回	側弯症用の装具の基本事項②●側弯症の評価(ベンディング(前屈)テスト、コブ角)●	
	第15回	上肢装具の基本事項スポーツ障害の基本事項●上肢装具の使用目的の分類●上肢装具	
教科書	0		
授業方法	0		
評定方法	0		
履修 アドバイス	0		